

TAKA DA - SITE

高田遺跡

－大規模店舗建設に先立つ埋蔵文化財発掘調査報告書－

2005年3月

宮崎県都城市教育委員会



遺跡遠景



遺跡全景

序 文

本書は、大規模店舗の建設に先立ち、受託事業として都城市教育委員会が発掘調査を実施した高田遺跡の調査報告書です。

この高田遺跡では、平成13年度から平成14年度にかけて発掘調査を行いました。その結果、凹凸痕の明瞭な中世の水田跡や、弥生時代の集落が確認されました。出土遺物においても、弥生時代の土器や木製品（農耕具など）、中世の陶磁器などが多数見つかり、貴重な歴史情報を提供してくれました。

本書の刊行が都市の文化財に対する理解と認識を高めるとともに、今後の学術研究の発展にわずかでも寄与できれば幸いと存じます。

本遺跡の発掘調査に従事していただいた市民の皆様や周辺住民の皆様をはじめ、関係各機関等の方々には多大なご理解・ご協力をいただきました。ここに記して感謝の意を表します。

平成17年(2005)年3月

宮崎県都城市教育委員会

教育長 北村秀秋

例　　言

- 1 本書は大規模店舗建設に先立つ埋蔵文化財（高田遺跡）発掘調査報告書である。
- 2 調査は都城市教育委員会が主体となり、同市文化課文化財担当主査松下述之、同主事米澤英昭が担当した。
- 3 現場における調査は平成14年1月10日から平成14年8月5日にかけて実施した。
- 4 遺構実測図・土層断面図の作成は松下・米澤が中心になって行い、黒木昌子・有馬昌子・抜迫清美・藤田和子・続山映子・続山美須子・中原忠良・立山君子・藤井修子・津曲節子・立野良子・馬籠恵子・庄屋幸子らの協力を得た。中世水田遺構図作成は、九州航空株式会社へ委託した。弥生遺構図作成については、その大部分を宮崎県文化財調査・サポート協同組合へ委託した。遺構分布図の作成、出土遺物の取上げにはコンピュータ・システム株式会社の遺跡調査システム“S I T E”を使用した。遺構の製図については、米澤で行った。
- 5 本書に関する遺物の実測は米澤・水光弘子・奥登根子・谷口和代・伊鹿倉康子が、製図は米澤が行った。
- 6 本書に関する遺構・遺物の写真撮影は松下・米澤が行った。又、遺構の空中写真撮影は九州航空株式会社へ委託した。
- 7 第IV章の自然科学分析については、株式会社古環境研究所に委託した。第V章樹種同定については、株式会社吉田生物研究所に委託した。第VI章付編については加賀淳一氏（都城市立図書館）より玉稿を賜った。
- 8 使用した基準方位は磁北であり、レベルは海拔絶対高である。
- 9 本書の執筆・編集は米澤が行った。
- 10 調査・本書の執筆にあたり、矢部喜多夫氏・桑畑光博氏・横山哲英氏・下田代清海氏・天野玄普氏（以上、都城市教育委員会）、大盛祐子氏、加賀淳一氏（都城市立図書館）よりご教示をいただいた。
- 11 本書に関する遺物・記録類（写真・図面等）は都城市教育委員会文化財課が収蔵・保管している。
- 12 本書では、下記の略号を用いている。
S A = 壴穴住居
S B = 堀立柱建物
S C = 土坑
S D = 溝状遺構

目 次

巻頭口絵 遺跡遠景 遺跡全景

例言

目次

I 序説	1
1 調査に至る経緯	1
2 調査体制	1
II 遺跡の位置と歴史的環境	3
III 調査の記録	10
1 試掘調査	10
2 発掘調査の概要	10
3 基本土層	10
4 調査の成果	18
IV 自然科学分析	113
V 樹種同定	120
VI まとめ	131
VII 付編	134

挿 図 目 次

第1図 遺跡位置図	5
第2図 調査区域図	6
第3図 調査区域図及び試掘トレンチ配置図	7
第4図 試掘トレンチ断面図（1）	8
第5図 試掘トレンチ断面図（2）	9
第6図 基本土層写真及び柱状図	10
第7図 遺構配置図	11
第8図 土層断面図（1）	13
第9図 土層断面図（2）	15
第10図 土層断面図（3）	16
第11図 土層断面図（4）	17
第12図 SA 0 1 実測図	19
第13図 SA 0 1 内出土遺物実測図	19
第14図 SA 0 2 実測図	20
第15図 SA 0 2 内出土遺物実測図	20
第16図 SA 0 3 実測図	21
第17図 SA 0 3 内出土遺物実測図（1）	21
第18図 SA 0 3 内出土遺物実測図（2）	22
第19図 SA 0 4 実測図	24
第20図 SA 0 4 内出土遺物実測図（1）	24
第21図 SA 0 4 内出土遺物実測図（2）	25

第22図	S A 0 5 実測図	26
第23図	S A 0 5 内出土遺物実測図	26
第24図	S A 0 6 実測図	27
第25図	S A 0 6 内出土遺物実測図	27
第26図	S A 0 7 実測図	28
第27図	S A 0 7 内出土遺物実測図（1）	28
第28図	S A 0 7 内出土遺物実測図（2）	29
第29図	S A 0 8 実測図	30
第30図	S A 0 8 内出土遺物実測図（1）	30
第31図	S A 0 8 内出土遺物実測図（2）	31
第32図	S A 0 9 実測図	32
第33図	S A 0 9 内出土遺物実測図	32
第34図	S A 1 0 実測図	33
第35図	S A 1 0 内出土遺物実測図	33
第36図	S A 1 1 実測図	34
第37図	S A 1 1 内出土遺物実測図	35
第38図	S A 1 2 実測図	36
第39図	S A 1 2 内出土遺物実測図（1）	36
第40図	S A 1 2 内出土遺物実測図（2）	37
第41図	S A 1 4・1 5・1 6 実測図	38
第42図	S A 1 6 内出土遺物実測図	39
第43図	S A 1 7 実測図	40
第44図	S A 1 7 内出土遺物実測図	40
第45図	S A 1 8 実測図	41
第46図	S A 1 8 内出土遺物実測図	41
第47図	S B 0 1・0 2 実測図	42
第48図	S C 0 1・0 2・0 3 実測図	43
第49図	S C 0 1 内出土遺物実測図	43
第50図	S C 0 4・0 5・0 6・0 7・0 8・0 9・1 0 実測図	44
第51図	S C 0 2・0 3・0 4・0 5 内出土遺物実測図	46
第52図	S C 0 6・0 7・0 8・0 9・1 0 内出土遺物実測図	47
第53図	S C 1 1・1 2・1 3・1 6・1 7・2 0・2 1・2 2・2 3 実測図	48
第54図	S C 1 2・1 3・1 7・1 9・2 0・2 3 内出土遺物実測図	49
第55図	S C 2 7・3 0・3 1・3 2・3 3・3 8・3 9・4 0・4 3・4 4・4 6 実測図	50
第56図	S C 2 7・2 8・2 9・3 0・3 3・4 3・4 4・4 5・4 6 内出土遺物実測図	51
第57図	S C 4 7・4 8・4 9・5 1・5 2・5 3・5 4・5 5・5 6・5 7・5 8 実測図	52
第58図	S C 5 0・5 1・5 2・5 3・5 4・5 5・5 6・5 7・5 8 内出土遺物実測図	53
第59図	S C 5 9・6 0・6 1・6 2・6 3・6 4・6 5・6 6・6 7 実測図	54
第60図	S C 6 3 内出土遺物実測図	55
第61図	S C 6 8・7 0・7 2・7 3・7 5・7 6・7 7・7 9・8 0・8 1・8 2 実測図	56
第62図	S C 5 9・6 0・6 1・6 2・6 3・6 4・6 5・6 7・7 6 内出土遺物実測図	58
第63図	S D 0 1・0 3・0 4 実測図及び土層断面図	61
第64図	S D 0 5・0 6・1 2・1 4 実測図	66

第65図	SD 0 1 内出土遺物実測図	67
第66図	SD 0 1・0 3・0 5・0 6・1 4 内出土遺物実測図	68
第67図	SD 0 8・0 9・1 0・1 1・1 3 実測図	69
第68図	SD 0 8 内出土遺物実測図 (1)	74
第69図	SD 0 8 内出土遺物実測図 (2)	75
第70図	SD 0 8 内出土遺物実測図 (3)	76
第71図	SD 0 8 内出土遺物実測図 (4)	77
第72図	SD 0 9 内出土遺物実測図	78
第73図	SD 1 0・1 1・1 3 内出土遺物実測図	80
第74図	中世水田跡実測図	83
第75図	包含層内出土遺物実測図 (1)	87
第76図	包含層内出土遺物実測図 (2)	88
第77図	高田遺跡試掘調査におけるプラントオバール分析結果 (1)	117
第78図	高田遺跡試掘調査におけるプラントオバール分析結果 (2)	118

表 目 次

第1表	出土遺物観察表 (1)	89
第2表	出土遺物観察表 (2)	90
第3表	出土遺物観察表 (3)	91
第4表	出土遺物観察表 (4)	92
第5表	出土遺物観察表 (5)	93
第6表	出土遺物観察表 (6)	94
第7表	出土遺物観察表 (7)	95
第8表	出土遺物観察表 (8)	96
第9表	出土遺物観察表 (9)	97
第10表	出土遺物観察表 (10)	98
第11表	出土遺物観察表 (11)	99
第12表	出土遺物観察表 (12)	100
第13表	出土遺物観察表 (13)	101
第14表	出土遺物観察表 (14)	102
第15表	出土遺物観察表 (15)	103
第16表	出土遺物観察表 (16)	104
第17表	出土遺物観察表 (17)	105
第18表	出土遺物観察表 (18)	106
第19表	出土遺物観察表 (19)	107
第20表	出土遺物観察表 (20)	108
第21表	出土遺物観察表 (21)	109
第22表	出土遺物観察表 (22)	110
第23表	出土遺物観察表 (23)	111
第24表	出土遺物観察表 (24)	112
第25表	高田遺跡試掘調査におけるプラントオバール分析結果	116
第26表	中世水田一覧表	133

写 真 目 次

写真 1	植物珪酸体（プランツ・オパール）の顕微鏡写真	119
写真 2	木製品顕微鏡写真（1）.....	123
写真 3	木製品顕微鏡写真（2）.....	124
写真 4	木製品顕微鏡写真（3）.....	125
写真 5	保存処理前後写真（1）.....	126
写真 6	保存処理前後写真（2）.....	127
写真 7	保存処理前後写真（3）.....	128
写真 8	保存処理前後写真（4）.....	129
写真 9	保存処理前後写真（5）.....	130

図 版 目 次

図版 1	遺跡遠景（南から）遺跡遠景（北西から）.....	138
図版 2	SA 0 1 完掘状況（南から） SA 0 2 完掘状況（南から） SA 0 3 完掘状況（北から） SA 0 3 遺物出土状況 SA 0 3 内出土遺物 SA 0 4 完掘状況（北から） SA 0 5 完掘状況（北西から）.....	139
図版 3	SA 0 6 遺物出土状況（北から） SA 0 6 内出土遺物 SA 0 7 遺物出土状況（北から） SA 0 7 完掘状況（北から） SA 0 7 内出土遺物 SA 0 8 遺物出土状況（北東から） SA 0 8 内出土遺物	140
図版 4	SA 0 9 完掘状況（北から） SA 1 0 完掘状況（西から） SA 1 1 遺物出土状況（南から） SA 1 1 完掘状況（南から） SA 1 2 完掘状況（北から） SA 1 2 遺物出土状況 SA 1 4 完掘状況（西から）.....	141
図版 5	SA 1 5 完掘状況（南から） SA 1 6 遺物出土状況（南東から） SA 1 8 完掘状況（東から） SA 1 8 完掘状況（東から） SB 0 1 完掘状況（東から） SB 0 2 完掘状況（北から） SC 0 3 完掘状況（南から）.....	142
図版 6	SC 0 5 遺物出土状況（南から） SC 0 5 内出土遺物 SC 0 8 遺物出土状況（南から） SC 0 5 内出土遺物 SC 2 0 内出土遺物	143
図版 7	SC 2 3 内出土遺物 SC 2 9 内出土遺物 SC 5 2 内出土遺物 SC 5 7 内出土遺物 SC 6 1 遺物出土状況 SC 6 7 遺物出土状況	144
図版 8	SD 0 1 遺物出土状況（南東から） SD 0 3 完掘状況（南西から） SD 0 4 完掘状況（東から） SD 0 8 完掘状況（北西から） SD 0 8 遺物出土状況（南西から） SD 0 8 遺物出土状況（南東から）.....	145
図版 9	SD 0 8 内出土遺物 SD 0 9 遺物出土状況 SD 0 9 · 1 0 遺物出土状況（東から） SD 0 9 内出土遺物 SD 1 3 完掘状況（北から）.....	146
図版10	中世水田跡全景（桜島起源軽石埋没状況） 中世水田跡全景（C区：桜島起源軽石除去後） 中世水田跡凹凸状況（C区：北から） 中世水田跡凹凸状況（C区：北から）.....	147

序　説

1 調査の経緯

平成13年11月5日付けで、九州ジャスコ株式会社（現イオン九州株式会社。以下、イオン九州と略す。）より都城市教育委員会文化課（現都城市教育委員会文化財課。以下、市文化財課と略す。）へ都城市早鉢町1950番地外における埋蔵文化財の有無の照会がなされた。そこで、市文化財課では、遺跡の状態をより具体的に把握するために、諸手続きを経た後、平成13年11月27日から同年12月12日にかけて試掘調査を行った。調査は、対象地61,736m²のうち発掘調査の承諾を得た44,867m²において、2m×2mのトレンチを85ヶ所設けて行った（調査面積約340m²。対称面積の約0.7%）。

当該地は、昭和40年代に耕地整理が行われていたが、調査の結果、地表面から約10～30cmの深度に遺構が確認された。検出した遺跡は、中世の火山灰に覆われた水田跡と弥生中期から古墳初頭にかかると思われる集落跡であった。また、土壤分析結果から、弥生前期に相当する水田が存在する可能性が導出された。これにもとづき、イオン九州と都市の間で協議した結果、破壊を受ける店舗建設部分8,280m²において記録保存のための発掘調査を実施することとなり、平成13年度から14年度にまたがって行うことで合意に至った。これにより、発掘調査を行う都城市とイオン九州との間において、平成14年1月8日、高田遺跡埋蔵文化財に関する協定、高田遺跡発掘調査業務委託契約が締結された。

途中、店舗面積の増加に伴い、両者間での協議の結果、調査面積を8,280m²から8,507m²に変更することになり、平成14年3月25日付けで変更協定・変更契約を締結した。また、その後、さらに面積が増えた（8,801m²）ため、平成14年6月26日付けで、再び変更協定・変更契約を取り交わした。そしてまた、天候不順等により調査期間を8月15日までとして、再々度変更協定・変更契約を行った。

現場における発掘調査は平成14年1月10日から開始し、8月5日で終了した。その後、引き続き遺物の整理作業を行った。

当初の協定により、報告書作成は平成16年度に行うことになっていた。平成16年6月10日付けで協定・契約を締結した。

2 調査体制

調査は都城市教育委員会が実施し、経費運用は同市教育委員会文化課（現文化財課）が行った。調査組織は以下のとおりである。

【発掘調査体制】

〔調査責任者〕	都城市教育長	長 友 久 男
	都城市教育部長	轟 木 保 紘
	都城市文化課長	内 村 一 夫 (平成17年3月まで) 井 尻 實 治 (平成17年4月より)
	同文化課長補佐	坂 元 昭 夫 ⁽⁴⁾
	同文化財係長	奥 田 正 幸 (平成17年3月まで) ⁽⁴⁾
〔調査員〕	同主査	松 下 述 之 (試掘・発掘担当: 平成17年4月より同課文化財係長) ⁽⁴⁾
	同主事	横 山 哲 英 (試掘担当)
	同主事	久 松 亮 (試掘担当)
	同主事	米 澤 英 昭 (発掘担当)
〔発掘作業員〕	浅生幸一 有馬昌子 荒ヶ田安夫 猪ヶ倉重光 猪ヶ倉正子 池田智美 池田由美子 岩切数秋 岩切ユキ子 岩満敏男 岩満洋子 岩本 泉 上野和則 上原 勇	

上原京子 植村准子 内田ハチ子 内村好子 榎木ツネ 穂木八ナ 海老原 実
海老原洋子 大山ミツ子 奥スズ子 奥 利治 落合輝雄 小野田融 小山田利丸
小山田ハツ子 小山田福子 蒲生サダ 蒲生ミツ子 川野春信 木村七郎
久寿米木吉作 久寿米木マキ子 久米村美知子 黒木昌子 児玉春男 小山久子
椎屋松子 下池麻里 庄屋幸子 新沢津清秀 新宮ゆみ子 新宮良二 曾原主吉
高野直昭 高野ムツ子 財部重男 竹中美代子 田代美穂子 立野良子 立山君子
田中育子 谷口和子 谷口ミツ子 統山映子 統山美須子 津曲節子 鴉 松雄
鴉 芳子 徳丸ヒサ子 年神真理乃 永田澄利 中原貞良 中原忠診 那須幸三郎
抜迫清美 野上トシ子 野田ツミ子 東 春雄 肥後洋文 平川千枝子 平山甲子郎
広畑雄二 広村ミキ 橋渡久美子 福岡悦雄 福島 厚 福留博志 福永律子
福丸貞行 福丸テル 福丸秀則 福丸フミ子 福丸正徳 福丸ミサ子 藤井修子
藤田和子 藤田フヂ子 二見義彦 坊地トミ 堀之内敬子 馬籠恵子 三浦光司
南スミ子 宮島すみ子 宮原民子 宮元孝子 宮元忠郎 森美佐子 来住サチ子
山口一夫 山下美佐子 山元 勝 横山照良 吉村 勉 渡辺一男 渡辺幸江
〔整理作業員〕 雁野あつ子 水光弘子 奥登根子 谷口和代 伊鹿倉康子

【報告書作成体制】

〔調査責任者〕 都城市教育長	北 村 秀 秋
〔調査事務局〕 都城市教育部長	七牟礼 純 一
都城市文化財課長	稻 丸 満 文
同文化財課長補佐	坂 元 昭 夫
同課埋蔵文化財担当副主幹	矢 部 喜多夫
〔担当〕 同課埋蔵文化財担当主事	米 澤 英 昭

II. 遺跡の位置と環境

1 歴史的環境

都城市内北東部の十三束遺跡では縄文早期にあたる連穴土坑が検出され、中央部にあたる白山原遺跡では早期の集石・配石構造が確認されている。また縄文中後期には、肱穴遺跡の成果によって定住を始めていた痕跡がうかがえ、さらには坂元A遺跡の成果から、水田耕作を行い、穀物資源を得ていたこともわかつてききた。

弥生時代においては定住率がいっぽう高まり、土器類の在地性もますます強くなる。市内では現在まで中期以降の集落跡が多数見つかっており（向原遺跡・加治屋遺跡・高田遺跡等）、中後期になると「日向型」といわれる間仕切住居跡がみられる（向原遺跡・前畠遺跡）。土器類は大隅特有の山之口式系統と宮崎平野特有の中溝式系統をかけあわせたものがみられるが、これは当地が両者を結ぶ連絡点にあり、その独自性を高めていることを示している。

古墳期には志和池村古墳の所在が示すように、文化の核が市北東部の志和池地域方面にあったと考えられる。特に築池地区では、宮崎県南部を中心に分布が確認される埋葬施設形態である地下式横穴墓が群的な広がりをみせている。その一方では、鶴喰遺跡の成果が示すように、市西部に集落の形成が見られるようになる。なお、鶴喰遺跡の後期住居には竈が敷設されるものが現れている。

古代・平安期には弥生期に成長した首長層が大和政権に臣従し、いわゆる地方豪族としてさらに勢力を伸張していくが、こうした層の居宅跡も確認されている。それが上ノ園第2遺跡・馬渡遺跡・大島畠田遺跡とみられる。そしてまた、この頃より文献資料にも当地方が掲載されるようになり、当時日向国でも郡制がしかれ、都城は諸県郡に属していたことがわかっている。「延喜式」諸国駅伝馬条に「日向国駅馬（中略）鶴津各五疋」とあり、当地域が「島津」と呼ばれていたことや、公的施設である「島津駅」が存在したことがわかる。11世紀代には、大宰府の官僚であった平季基の開発によって、のちに巨大莊園となる「島津莊」の基礎が築かれる。

鎌倉初期には惟宗忠久が島津莊の惣地頭職を任せられ、当初、都城に入ったと伝えられる。これにより忠久は姓を「島津」と改め、「島津家発祥の地」といわれる由縁をもたらした。

室町初期に至り、島津本宗家忠宗の子資忠が「北郷三百町」を与えられ、地名から北郷と名を改める。資忠の子義久は、中世城郭・都城を居城としたとされ、この名称が当市名の由来になったとされる。4代知久は1410年、本宗家の島津元久の上洛に同行して將軍に謁見し、礼物を進上している。

8代忠相は、周囲の脅威であった北原氏や伊東氏らと合戦を繰り返し、都城盆地一帯を統一した。また長子忠親が豊州家（飫肥）を繼承し、忠親の子・時久が北郷家を継いで、南九州東部をおさえるその勢力は強大なものとなつた。

豊臣政権による九州侵略によって島津家はその軍門に降る。北郷家は秀吉から直接朱印状を下付され「御朱印衆」となり、都城盆地の支配権を安堵されるが、太閤検地後の所替によって祁答院へ移された。文禄・慶長年間には秀吉の朝鮮侵略に召集された島津家に従い、北郷家に替わって都城領主となった伊集院忠棟、北郷忠虎らが出兵する。忠虎は戦地において病死し、忠能が家督を継承する。慶長4年（1599）には島津本宗家と家老伊集院家の戦いである「庄内の乱」が起つた。翌年までにわたる大激戦のうち伊集院家は降伏し、北郷家はその戦功によって都城へ復帰することとなつた。

近世においては、鹿児島藩の私領として、引き続き北郷（都城島津）家による統治が行われた。都城島津家は藩主に継ぐ祿高や本藩同様の職制機構を有し、「五口六外城」制に基づき、各所に地頭を置いて支配した。支配機構は、藩とは別個な組織を形成しており、その行政は都城家老の合議によるもので、藩からは一定の自律性をも有していた。

戊辰の役に際しては本藩に従い、北郷資常率いる都城隊182名が参戦した。西南の役においては西郷軍

の一員として1,550名が参加しており、招魂塚が今も残っている。

明治4年の廃藩置県に伴って、大隅半島・宮崎県南部域を県域とする都城県が設置された。同県は明治6年には廃止され、鹿児島県・宮崎県に統合されていくが、都城県の中心としての精神は現在も受け継がれている。明治22年には都城町が発足し、大正13年には市制が施行され、昭和11年の沖水・五十市をはじめとして、庄内・志和池・中郷の各村町を合併し、現在に至っている。

2 遺跡の位置と環境

高田遺跡は、都城市早鉢町字高田に所在する。当地は都城盆地のやや南側に位置し、大淀川の支流である姫城川がほぼ東接して、北東から南西方向へ貢流している。元来は、この姫城川が本遺跡の北側を西流しており、地形的には、この姫城川と、南側を西流する萩原川、それに附随する犯瀬原に挟まれた開析扇状地上に立地している。当遺跡の現状は水田域である。一帯は以前より水田帯と化していたが、現状では付近に木工団地や宅地などが構築されている。周辺にも文化財が点在しており、北東側には弁済使薬師堂跡や古代官衙遺跡の可能性が大きい上ノ闇第2遺跡、近世の街道である梶山街道・寺柱街道などがある。

【参考文献】

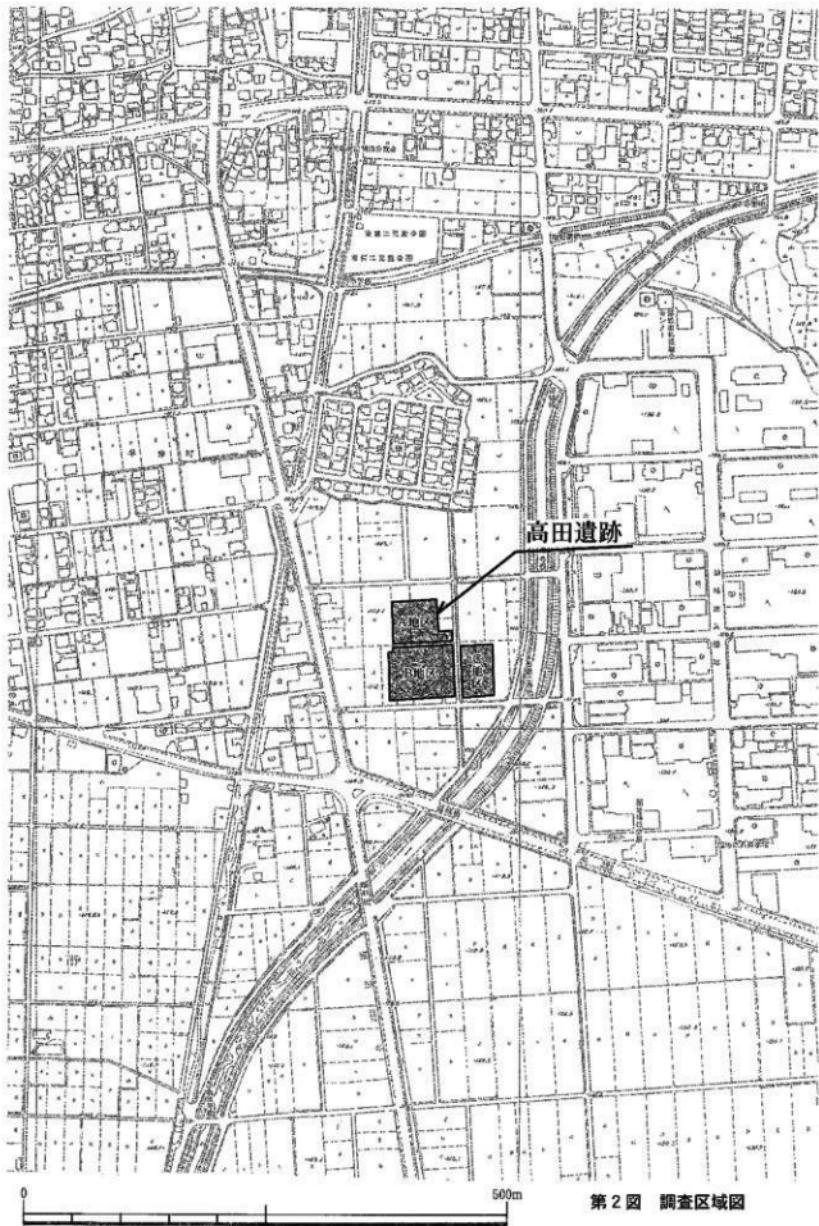
- 宮崎県 1980『土地分類基本調査 都城』
都城歴史資料館 1999『都城と島津氏』平成11年度都城歴史資料館特別企画展図録
都城市 1997『都城市史』通史編 原始古代
都城市教育委員会 2000『郡元地区遺跡』都城市文化財調査報告書 第51集
都城市教育委員会 2001『天神遺跡（2次）』都城市文化財調査報告書 第54集
宮崎県埋蔵文化財センター 2001『梅北佐土原遺跡・中尾遺跡・蓑原遺跡』
宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第42集
都城市教育委員会 2002『白山原遺跡』都城市文化財調査報告書 第57集
都城市教育委員会 2004『鶴喰遺跡（古墳時代編）』都城市文化財調査報告書第61集
都城市教育委員会 2004『馬渡遺跡』都城市文化財調査報告書 第62集
都城市教育委員会 2004『築池遺跡（1～4）・十三東第2遺跡（第2次）』
都城市文化財調査報告書 第67集
都城市教育委員会 2004『都城島津家領の唐人町周辺の遺跡』
柳川原（4・5次）・中町（4次）・天神（1・3・4・5次）
都城市文化財調査報告書 第65集
都城市教育委員会 2004『木ノ前遺跡』都城市文化財調査報告書 第63集
新名一仁 2004「北郷氏の由緒に関する基礎的考察
－島津庄日向方北郷の拝領・都城築城の時期をめぐって－」
（『宮崎県地城史研究』17）
山下真一 2004「中近世移行期の島津氏権力編成と北郷氏」（『立正史学』95）
鹿児島県『鹿児島県史料（旧記録）』



1000 0 1000 2000 3000
1/250,000

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 高田遺跡 | 2 上ノ園第2遺跡 |
| 3 向原遺跡 | 4 年見川遺跡 |
| 5 池ノ友遺跡 | 6 牟田ノ上遺跡 |
| 7 白山原遺跡 | 8 祝吉第1遺跡 |
| 9 祝吉第2遺跡 | 10 木ノ前遺跡 |
| 11 都城跡 | 12 大岩田村ノ前遺跡 |
| 13 黒土遺跡 | 14 大岩田上村遺跡 |
| 15 横尾原遺跡 | 16 天ヶ渕遺跡 |
| 17 都城島津家領主館跡 | 18 中央東部地区遺跡群 |
| 19 正坂原遺跡 | 20 松原地区遺跡 |
| 21 久玉遺跡 | |

第1図 遺跡位置図



第2図 調査区域図

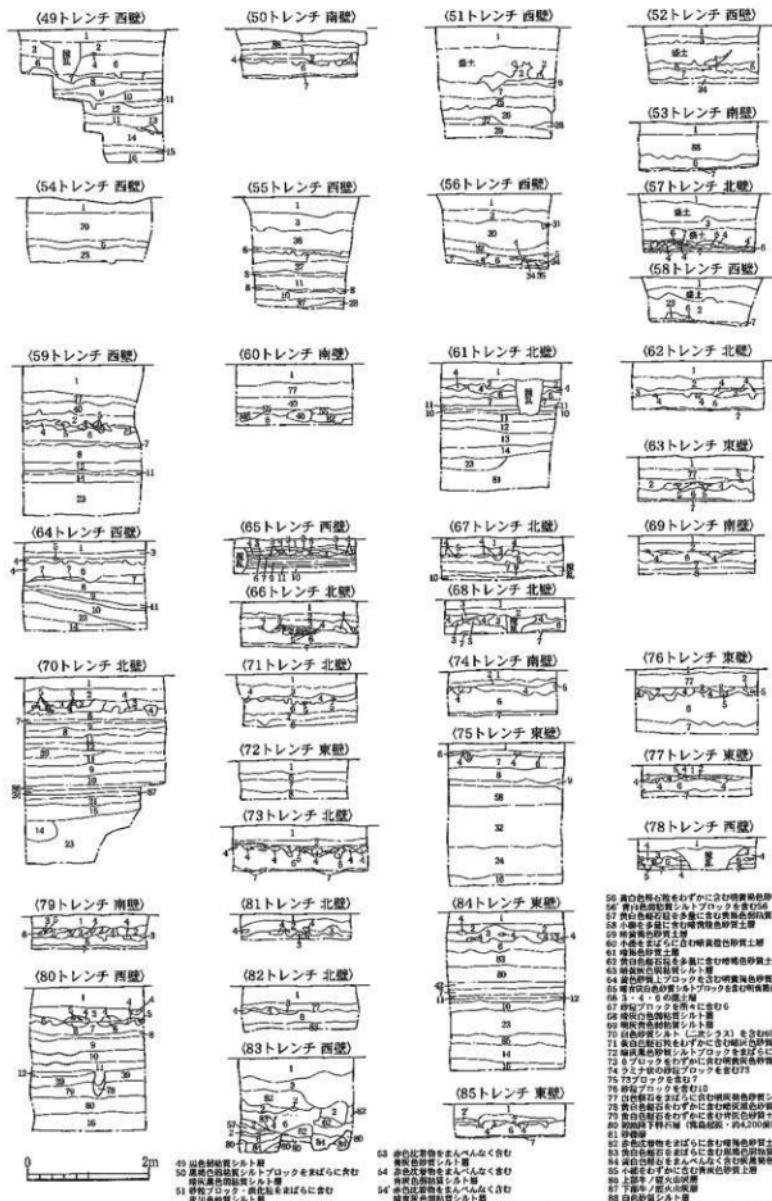


数字はトレンチ番号

第3図 調査区域図及び試掘トレンチ配置図



第4図 試掘レンチ断面図(1)



第5図 試掘レンチ断面図(2)

III 調査の記録

1 試掘調査の概要

対象地61,736m²のうち発掘の承諾を得た44,867m²に対して、2m×2mのトレンチを85ヶ所設定して調査を実施した。期間は平成13年11月27日から同年12月12日である。

その結果、対象地ほぼ全てに桜島より文明年間に噴出したとされる軽石層（通称白ボラ）にパックされた水田跡を確認したほか、古代（平安か？）や弥生中期から古墳前期頃の集落跡（一部の時期には水田を伴う可能性あり）、弥生前期に遡及する可能性が高い水田跡が検出された。

文明年間（15世紀代）噴出軽石層でパックされた水田跡からは、人間や牛馬の足跡が確認されている。各トレンチからは、さほど磨耗していない古代と考えられる遺物片が散見され、当該地に隣接する上ノ園第2遺跡（平成5年度調査）で確認されている平安期集落跡との関連性が窺える。地表面からの深度は約30~35cmである。また、試掘調査で最も多く確認したのが弥生中期～古墳前期頃の集落跡である。特に店舗予定地付近には密集しており、溝や住居跡、柱穴と推定される構造も見つかったことから、かなりの高密度で遺跡が残存していると予想された。また、対象地南側では発見事例の少ない木製品も出土が認められ、集落と水田が同時に見つかる可能性も想定された。地表面からの深度は約40~60cmである。以上のデータをもとに発掘調査を行った。

2 発掘調査の概要

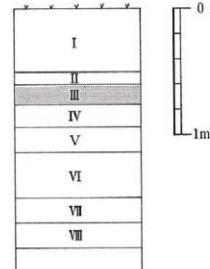
発掘調査は店舗建設部分の8,801m²について実施した。南北に水路が敷設されていたことから、便宜上調査区を3つに分け（第2図）A・B・C区とした。

試掘調査において確認された遺物包含層は、調査区内に断片的に堆積をみせる文明年間噴出とされる桜島起源軽石層（通称白ボラ：Ⅲ層）以下にあるため、調査は、まずⅢ層直上まで重機による表土剥ぎを行い、以下を手作業で掘り下げていき、Ⅲ層：文明軽石層直下で中世水田跡を、VI・VII層直上で弥生の集落跡を検出した。

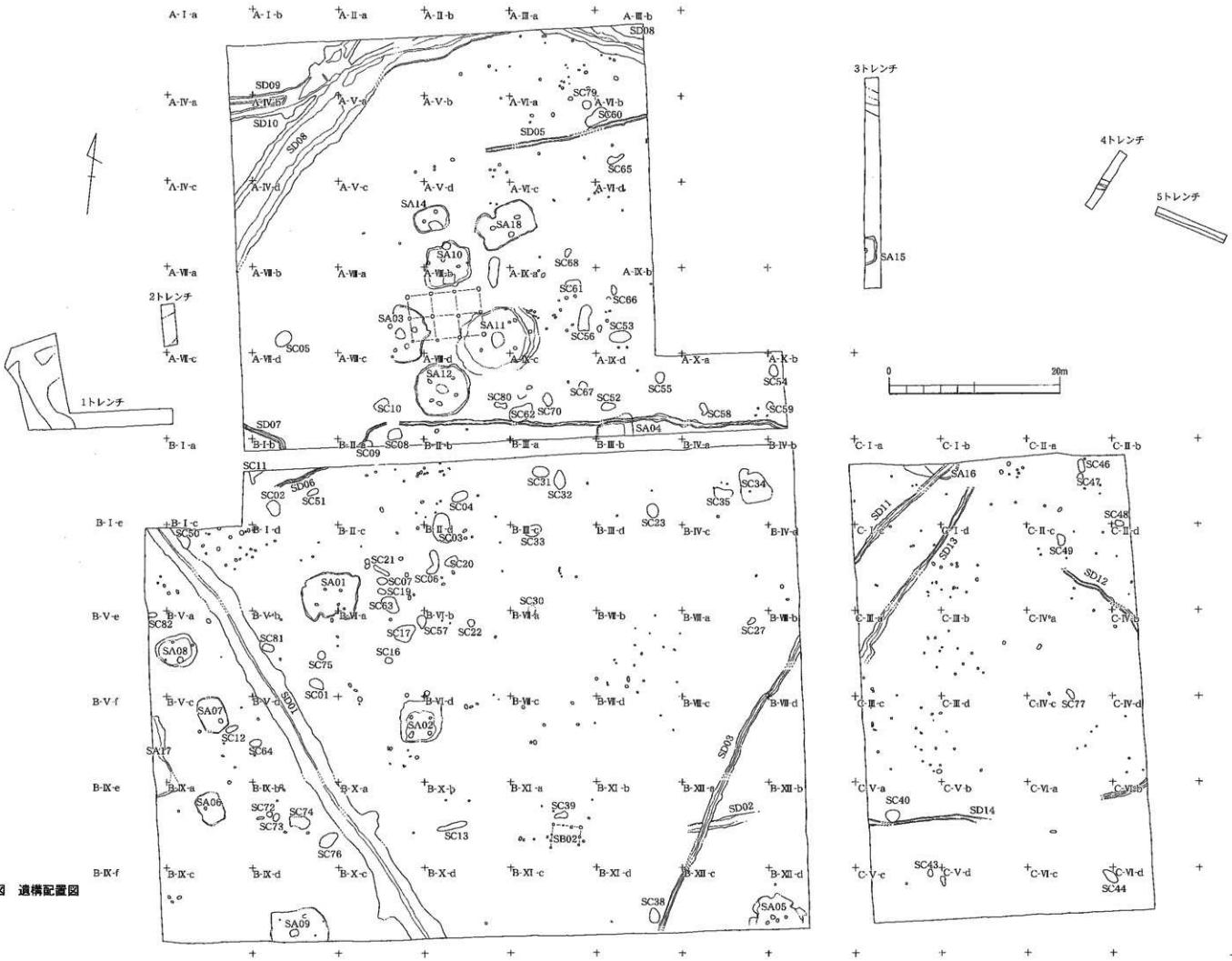
3 遺跡の層序

昭和40年代とされる該地耕地整理のため若干の境乱がみえたが、遺跡の所在するⅢ層以下の状況は比較的良好であったといえる。Ⅲ層は15世紀後半頃に噴火した桜島より降下したとみられる灰白色軽石層（通称白ボラ）である。IV層黒褐色系土で、V層はそれに炭が混在する層であり、この両層（主にV）が遺物包含層である。以下、市内遺跡においては、通常霧島山系御池より噴出した火山灰（通称黄ボラ）、鬼界カルデラより噴出した火山灰（通称アカホヤ）の堆積が確認されるが、本遺跡では明確に確認されていない。よって検出面はVI層・VII層の灰褐色系土層となった。遺構は、II層直下で水田跡、VI・VII層直上で弥生期集落を検出した。

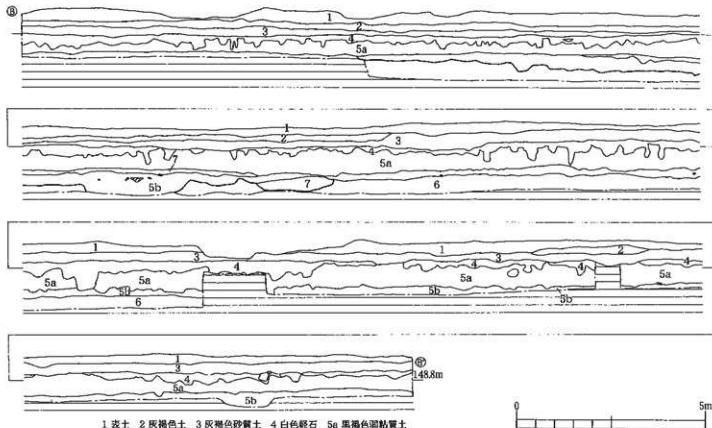
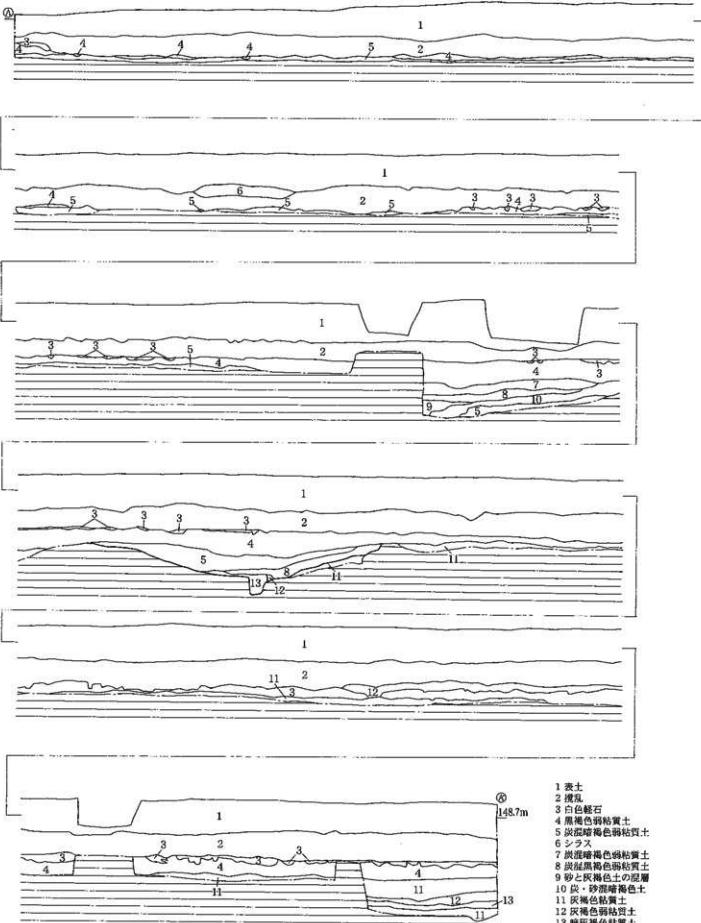
- I層：表土
- II層：灰褐色砂質土層
- III層：白色軽石層（文明期桜島噴出：白ボラ）
- IV層：黒褐色弱粘質土層
- V層：炭混暗褐色弱粘質土層
- VI層：灰褐色弱粘質土層
- VII層：灰褐色粘質土層
- VIII層：灰褐色砂質土層



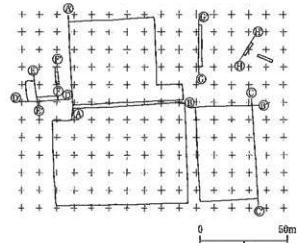
第6図 基本土層写真及び土層柱状図



第7図 遺構配置図



第8図 土層断面図(1)

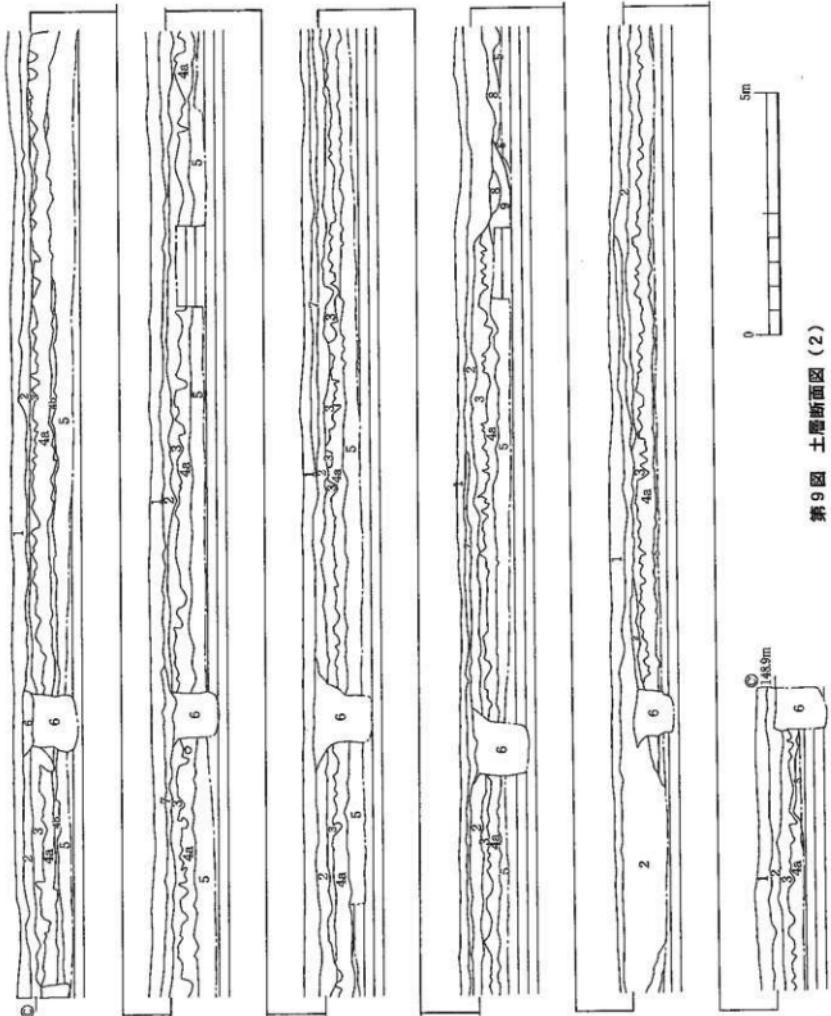


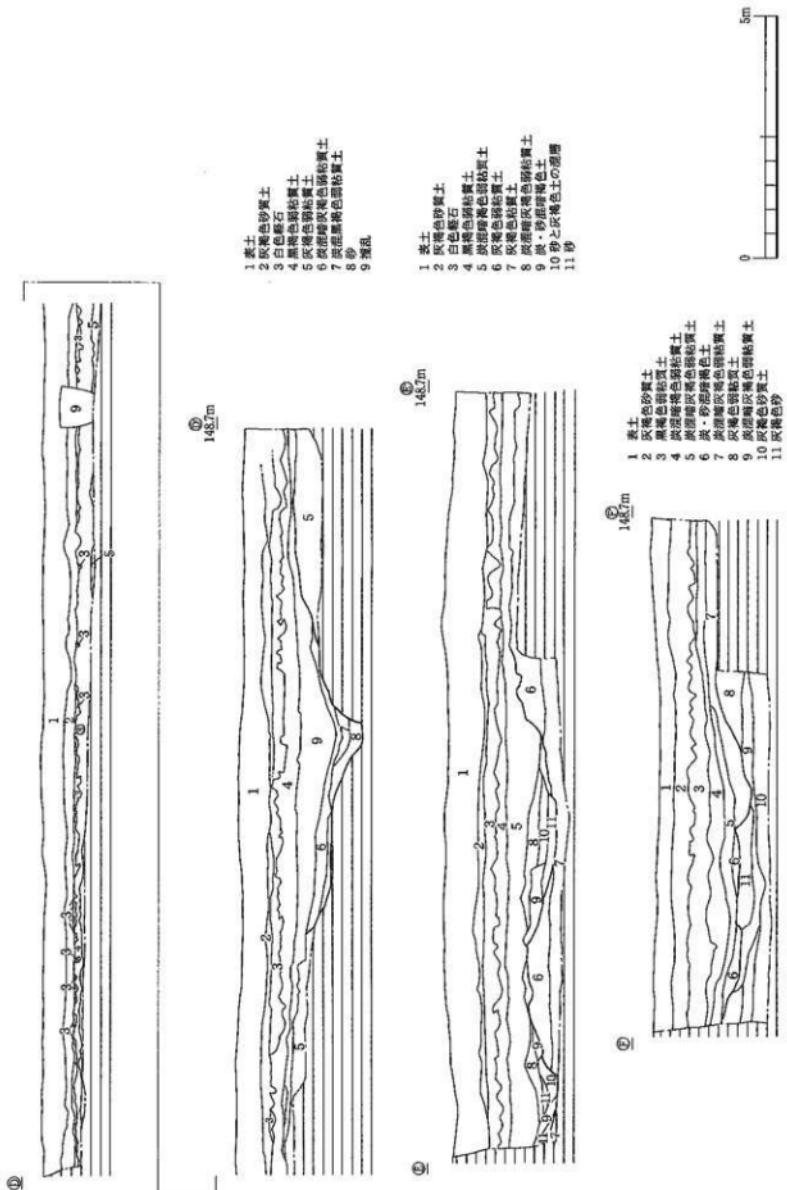
第9図 土壠断面図(2)

1 黄褐色砂質土
2 深褐色砂質土
3 白褐色砾石
4a 白褐色粗粒質土
4b 褐色粗粒質土
5 深褐色沙質土
6 深褐色
7 深褐色
8 深褐色
9 灰褐色細粒土

5m

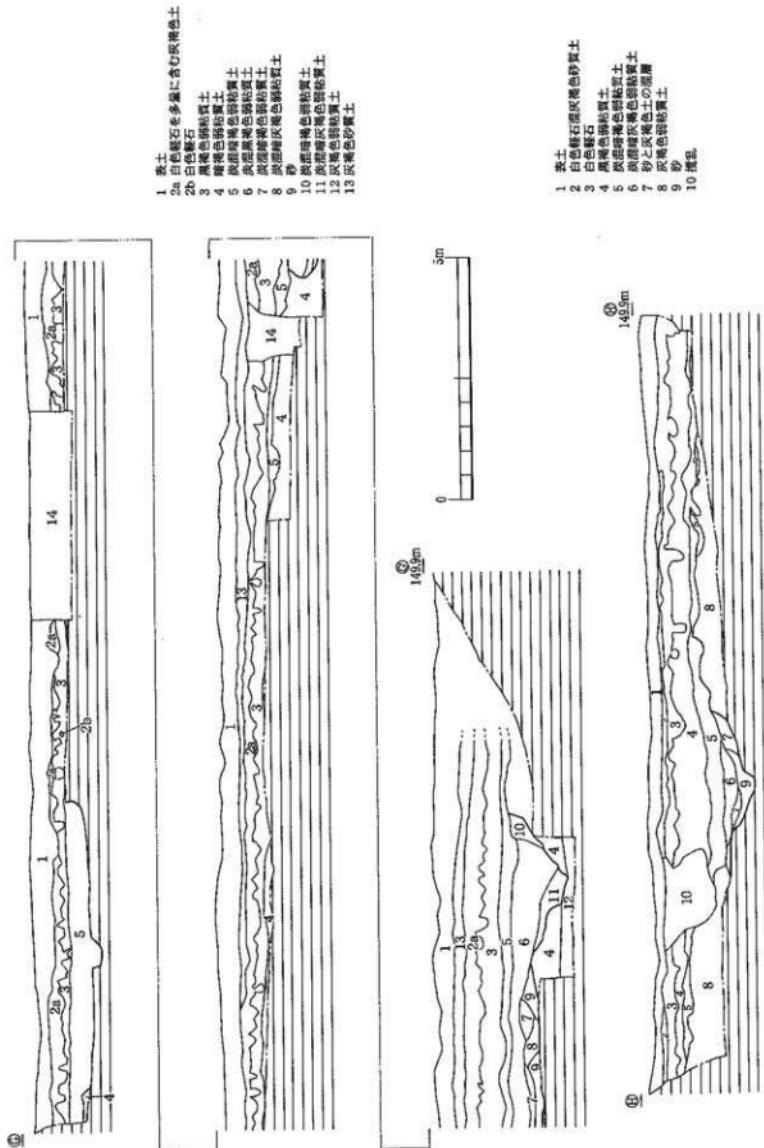
148.9m





第10図 土壌断面図(3)

第11図 土層断面図（4）



4 調査の成果

《調査の経緯》

調査は上から、中世水田跡、弥生集落跡と重複していたこともあって、中世水田を検出し、遺構図作成のうち、弥生集落跡の調査に着手した。包含層掘り下げは重機・人力にて行い、以下、遺構検出、遺構の調査については、全て手作業を行った。地表面からの土層観察のために鞋を設けたことから、調査区が大きく3つに分かれたため、便宜上、A・B・C区としている。また、遺構の走行確認としてA区の東西にトレントを設定したため、これも便宜上トレントNo.を付している。

まず、中世水田跡確認のため、Ⅲ層直上までを重機にて剥ぎ、同層が堆積している状態で水田の形状確認を行った。そしてC地区のみⅢ層を除去して水田面を確認した。その後、空中写真撮影と空中図化作業を行い、水田調査を終了した。水田面は全部で36面検出した。水田面の凹凸は激しく、横市地区遺跡群で調査されている中世水田と同様の状態にあるといってよい。

続いてIV層以下を人力にて掘り下げ、弥生遺構検出を行った。ここでは溝状遺構13条、掘立柱建物2棟、竪穴住居跡17軒、土坑70基余り、柱穴群多数を確認している。溝や住居跡からは比較的大破片の弥生土器や鏃・鋸などの木製品が出土した。

《遺構》

【堅穴住居】

1号堅穴住居跡（S A 0 1：第12・13図）

S A 0 1は調査区B、グリッドB-I-d・B-II-c・B-V-b・B-VI-aにかけて確認した。方形に近いプランだが、南側は若干間仕切り気味である。N-S5.1m、E-W6.5mを測る。検出面からの最深度は約20cm。柱穴は4穴かと思われるが、各々が浅い。

住居内から出土した遺物を第13図に掲げた。1は石製品である。青色でビーズ製と思われる。2は甕の口縁部である。3は口唇部。4は胴部。5は底部。6・7は擦石か。

2号堅穴住居跡（S A 0 2：第14・15図）

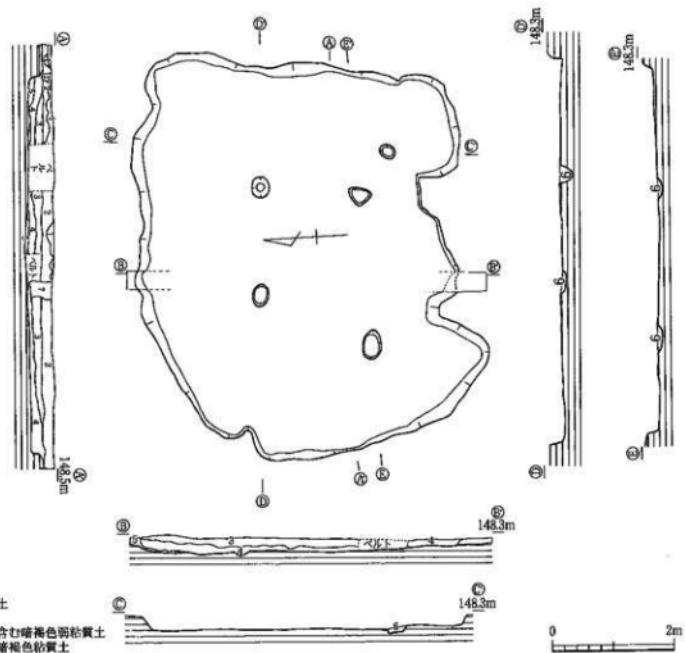
S A 0 2は調査区B、グリッドB-VI-c～d区で検出した。方形状を呈している。N-S4.7m、E-W4.7mを測る。柱穴は4穴確認できた。検出面からの深度は50cmほどである。

第15図に遺物を示した。8は甕口縁部である。口径22.4cm。9は胴部。突帯を付す。胎土にキンウンモを含む。10は甕の底部か。底径6.8cmを測る。

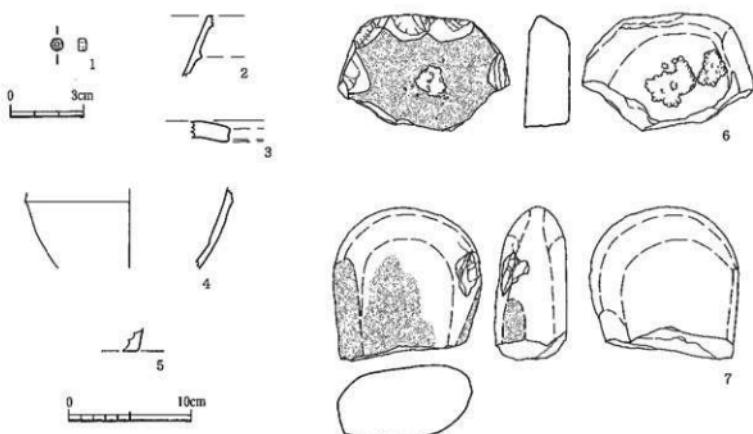
3号堅穴住居跡（S A 0 3：第16～18図）

A-VII-a～c区に位置する。西側が区画整理時の造成によってか破壊を受けていた。N-S6.6mを測る不定形の住居跡である。検出面からの深度は約30cm。主柱穴は4穴確認できる。中央に土坑がある。床面では甕を倒れたような形で確認した。

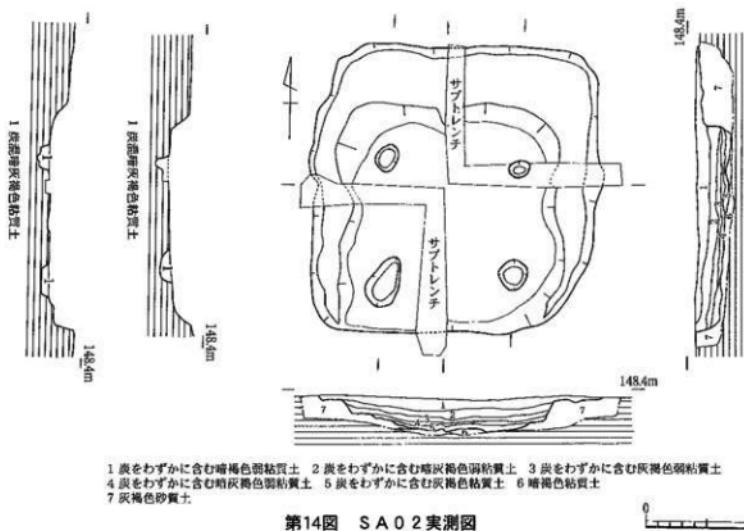
第17・18図が出土遺物である。11は甕の口縁部。胎土キンウンモを含む。12は底径6.6cmを測る底部である。やはり胎土にはキンウンモがみられる。13は甕底部で、胎土にはやはりキンウンモを含む。底径は7.4cm。外器面にはハケ目がみられる。14もキンウンモを含む甕の底部。底径は6.9cm。15は胴部である。胎土にキンウンモを含む。16は甕の口縁部である。口唇部に2条の刻目をもつ。17は中央土坑から出土している。甕の口縁部で、口唇部に2条の刻目がある。18は甕の口縁～胴部である。口径は26.7～27.9cmで、歪みがある。胎土にキンウンモを含む。外器面にはわずかにミガキがみられる。19は甕口縁部。口径24.6cmを測る。胎土にキンウンモあり。20は甕の口縁部である。胎土にキンウンモを含み、口径29.4cmを測る。21は口径31cmを測る、甕の口縁部である。口唇部に2条の刻目がある。22



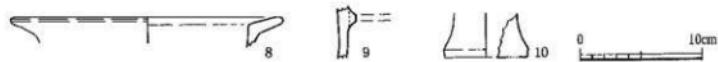
第12図 SAO 1 実測図



第13図 SAO 1 内出土遺物実測図



第14図 S A 0 2 実測図



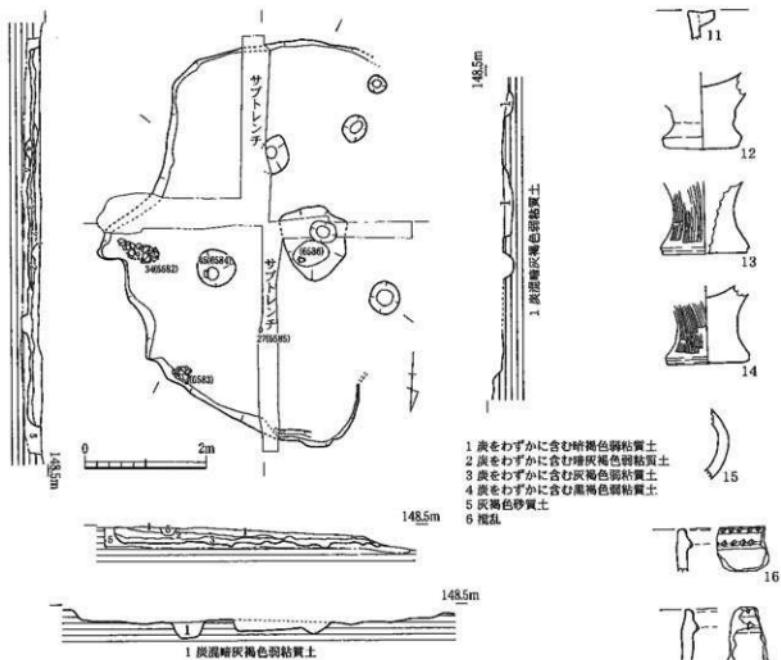
第15図 S A 0 2 内出土遺物実測図

も口径31cmを測る。甕の口縁部で、口唇部に2条の刻目がある。23は甕の口縁部で、口唇部に刻目がある。口径は27cmを測る。24は口縁部で、刻目突帶をもつ。口径は20.9cm。25は甕の口縁部で、口径は28cm。外器面は磨耗が甚だしい。26は口径23.6cmの甕口縁部である。27は甕の口縁～胴部である。口径は29.5cm。突帶をもち、外器面にはススが付着している。S C 0 5 出土遺物が接合している。28は甕の口縁部。外器面にススあり。口径は25.4cmを測る。29は甕の口縁部で、口径23.8cm。30は甕口縁部。口径25.4cm。31は甕の口縁部。口径25.2cmを測る。32は甕の口縁部。33は甕の口縁部で、口径が21.2cm。34は甕。口径26cm、底径5.8cm、器高30.5cmを測る。35は甕の底部。底径は7.3cm。36も甕底部。7.7cmの底径である。37は底径6.4cmを測る甕の底部である。38も甕底部で、底径は7cm。39も甕底部で6.4cmの底径。40も甕底部。底径6.2cmを測る。41は甕の口縁部である。口径は28.6cm。胎土は白っぽい。42は甕の肩部に相当するか。43は甕の底部か。底径は7.9cm。44は甕の底部か。底径9cm。45は底径7.6cmの甕底部。

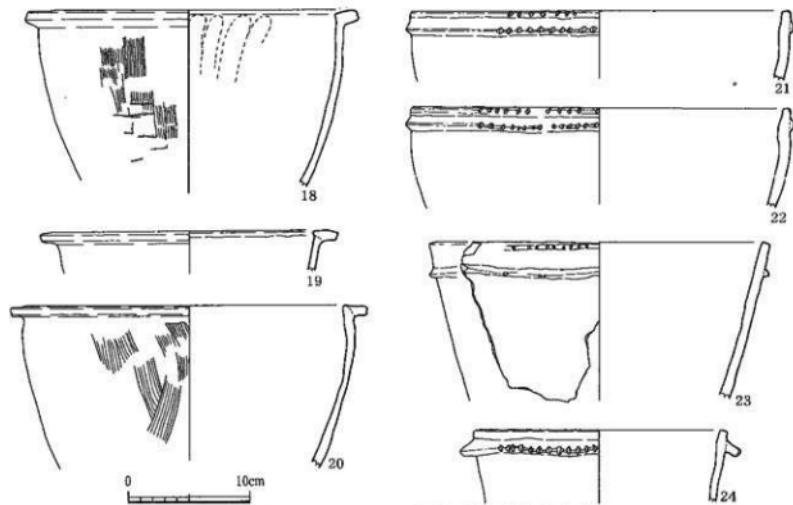
4号堅穴住居跡（S A 0 4：第19～21図）

A-IX-d区に位置する。南側半分は調査区外であった。E-W4.2mを測る。検出面からの深度は約20cm。SD 0 4と切りあっているが、S A 0 4→SD 0 4の時期差がある。

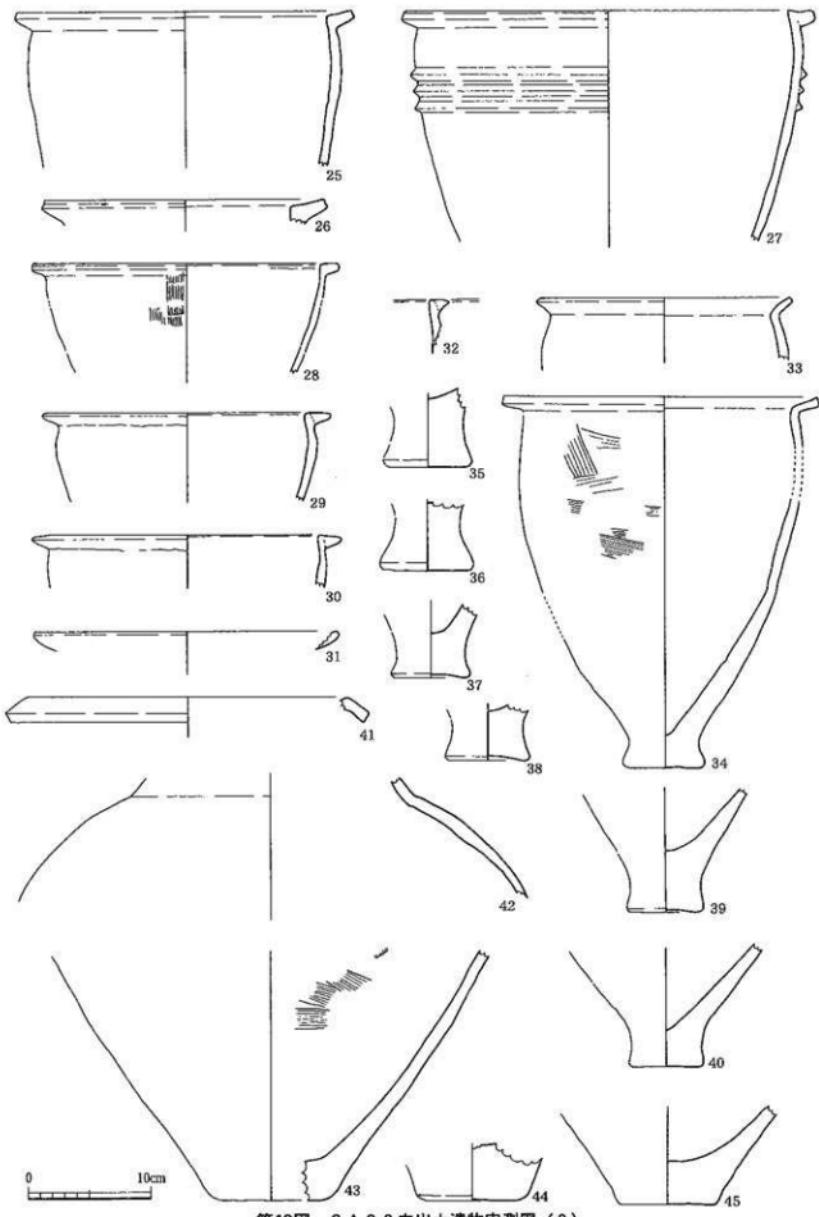
出土遺物は第20・21図のとおりである。46は甕の口縁部。口径25cmで、キンウンモを胎土に含む。47は甕の口縁部で、突帶をもつ。口径は25cmで、胎土にキンウンモあり。48は口径28.6cmを測る甕の口縁部。突帶がある。49も突帶をもつ甕の口縁部である。口径は20.3cmを測る。50・51は甕の口縁部。52・53・55は胎土にキンウンモを含む甕底部。口径は52が7.2cm、53が7.8cm、55が7.8cmである。54は口径7.4cmを測る甕底部。57～68は甕の口縁部。57・58は刻目突帶を伴い、58の口径は17.4cmを測る。59は内外ともに磨耗しており、25cmの口径。60は口径が25.8cm。61は刻目突帶をもち、外器面は磨耗している。口径は41.2cm。62の口径は22.3cm。63は23.6cmの口径がある。64は大甕の口縁部。



第16図 SAO 3 実測図



第17図 SAO 3 内出土遺物実測図 (1)



第18図 S A O 3 内出土遺物実測図 (3)

突帯をもつ。67は胎土にキンウンモを含む。69は把手状のもの。70は口径24.2cmを測る壺の口縁部。71は蓋か。口径21cmを測る。外器面にはミガキがみられる。72は壺の底部。底径8cm。73は壺の底部か。底径8.6cmで、内器面は磨耗している。74は壺の底部か。底径7.2cmで、外器面にはハケメもみられる。75は底径8cmの壺底部か。76の底部は径7.2cmで、胎土にキンウンモを含む。77の底部は径8cm。78は磨製石礫。

5号竪穴住居跡（S A 0 5：第22・23図）

S A 0 5はB-XII-c~d区、調査区壁際にあり、南側半分は確認できていない。E-W6.2mを測り、検出面からの深度は約20cm。形状は不定で、花弁状のようにもみえる。主柱穴は明確ではない。

79は壺の口縁部。口径11.4cmを測る。80は瀬戸内系凹線文壺の口縁部。口径は10.3cm。81は壺底部で、5.3cmの底径。

6号竪穴住居跡（S A 0 6：第24・25図）

S A 0 6はB-IX-a区にある。N-S3.7m、E-W2.8mの小型住居である。方形形状を呈し、検出面からの深度は20cm弱である。中央を現代の排水溝によって破壊されている。

82~86は壺の口縁部である。全ての胎土にキンウンモが含まれる。87は壺の底部か。底径6cmを測り、胎土にはキンウンモが含まれる。88は胴部片である。胎土にキンウンモを含み、突帯を有する。89は壺の口縁～胴部。外器面にはハケメがみられ、口径は26.8cmを測る。胎土にキンウンモあり。90~94は壺口縁部。90・92は胎土にキンウンモを含む。口径は90が20.8cm、93が19.2cmである。95は壺の口縁部である。口径は18.2cmを測る。96は壺肩部。97は壺頭部。98は壺底部。底径7.2cm。99は壺底部か。底径7.2cm。

7号竪穴住居跡（S A 0 7：第26~28図）

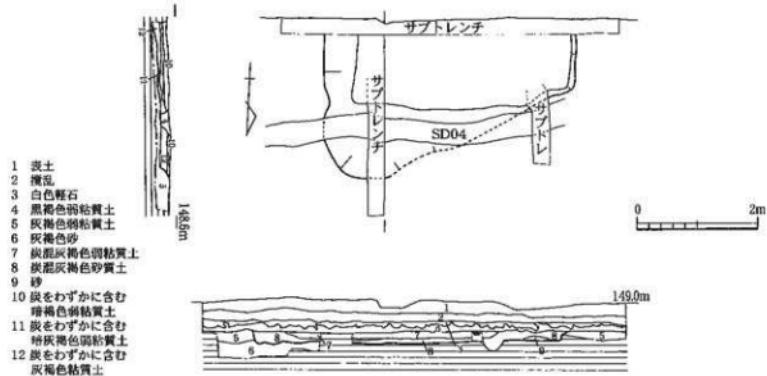
S A 0 7はB-V-c区で検出した。N-S4.36m、E-W3.12mを測る、方形の住居で、S A 0 6と同様にやや小型のものである。中央部分を排水路によって破壊を受けているが、残存状態は良好といってよい。

第27・28図に出土遺物を掲載した。100~105、107・108は壺の口縁部である。100・105は胎土にキンウンモを含む。口径は107が20cm、108が24.8cmを測る。106は口縁部。109は壺の口縁～胴部。口径は30.2cmを測る。110は胴部。突帯をもつ。111は壺の頭部。112~114・116は壺底部。底径は112が7.5cm、113が5cm、114が18.8cm、116が6.2cmを測る。115は底部で、8cmの底径。117の底部は、底径8.1cmで、胎土にキンウンモを含む。118は擦石。119は壺の口縁～胴部。口径18.6cmを測り、突帯をもつ。120は壺の胴部。突帯を有する。121は壺口縁部。胎土にはキンウンモあり。122は擦石。123は擦石。

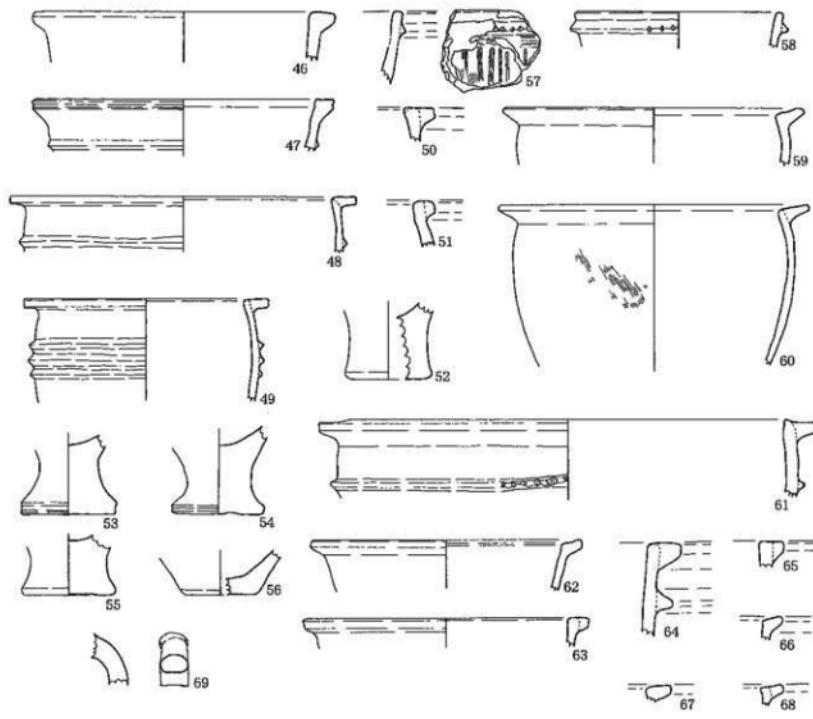
8号竪穴住居跡（S A 0 8：第29~31図）

S A 0 8は、B-V-a・e区で確認した。N-S3.5m、E-W4.9mを測る楕円状の住居である。検出面からの深度は20cm。主柱穴は不明瞭である。

出土遺物は第30・31図124~155である。124~127は胎土にキンウンモを含む壺の口縁部である。124は口径35.2cmである。128は胴部。突帯をもち、胎土にはキンウンモが含まれる。129は底部。底径は6.8cmで、胎土にはキンウンモがみられる。130は壺の底部。胎土にキンウンモあり。口径は7.7cm。131~136は壺の口縁部。132・134は胎土にキンウンモを含む。134は大甕か。136はスヌが付着している。137・138は壺の口縁部。139は壺口縁部。140~144は壺底部。底径は140が6.5cm、141が8.4cm、142が6cm、143が7.5cm、144が6cm。143は胎土にキンウンモが含まれる。145の底部は8.2cmの径。146は擦石か。147~153は壺口縁部。口径は147が32.4cm、148が28cm、149が24cm、150が



第19図 SA 04 実測図



第20図 SA 04 内出土遺物実測図 (1)

22.6cm、151が27.8cm、152が27.4cm、153が26.8cmである。148の胎土にはキンウンモがある。152・153とともに突帯をもつ。154は壺。胴部から底部近くにかけての部位である。胴部のもっとも張り出したあたりかと思われるが、そこに突帯を施し、その下には丸状の突起を貼付している。外器面にはミガキが施され、内器面にはハケメがみられる。155は石器か。

9号竪穴住居跡（S A 0 9：第32・33図）

S A 0 9は、南側が調査区外。B-IX-d区にある。検出面から床面までの比高差は20cm弱を測る。住居の1辺は6.7m。主柱穴は確認できていない。方形状を呈すると思われる。中央部分では浅い土坑が確認された。

第33図162～171が出土遺物である。162・163は甕の口縁～胴部。口径は162が18.2cm、163が21.6cm。162には外器面にススの付着がみられる。164・165は甕の口縁部。166は口縁部。167は高壠の底部か。168は甕の胴部。突帯あり。169の胴部は刻目突帯をもつ。170・171は底部。170は甕。171は胎土にキンウンモあり。底径は170が8.2cm、171が6.5cmを測る。

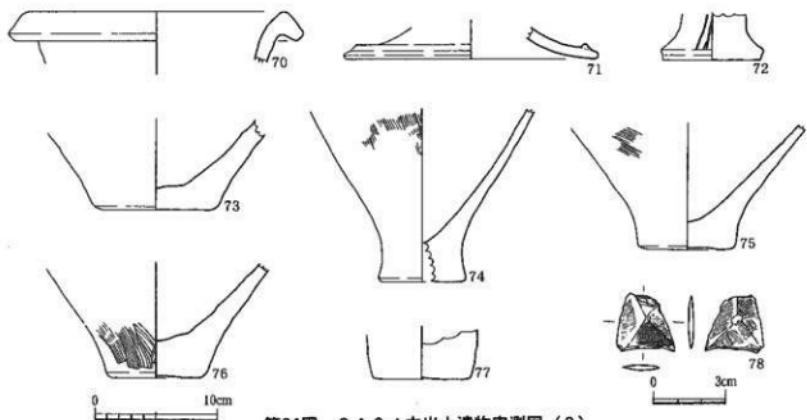
10号竪穴住居跡（S A 10：第34・35図）

S A 10はA-V-d・A-VII-b区で検出した。不定の方形状を呈し、N-S 5.2m、E-W 5.1mを測る。主柱穴は明確でない。3穴か。検出面から床面までの比高差は30cm強。

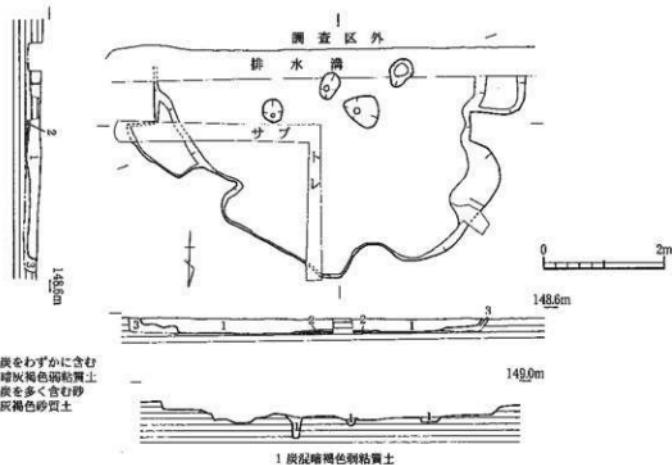
出土遺物は第35図172～181に示した。172～176は甕の口縁部である。口径は172が35.4cm、173が27cm、174が18.6cm、175が33.7cmを測る。172には突帯がある。175は胎土にキンウンモを含み、突帯がある。口唇部の突帯が剥落している。177・178は口縁部。179・180は甕の底部。底径は179が8.2cm、180が7.6cm。181は底部。径は6.4cm。

11号竪穴住居跡（S A 11：第36・37図）

S A 11はA-VI-b-d・A-IX-a-c区で検出した。N-S 約8.5m、E-W 9.8mを測る、本調査区域内最大の住居跡である。検出面から床面までの比高差は50cmほどとやや深い。主柱穴は4穴か。橢円状のプラン。中央部分には土坑がある。



第21図 S A 0 4 内出土遺物実測図（2）



第22図 S A 05 実測図



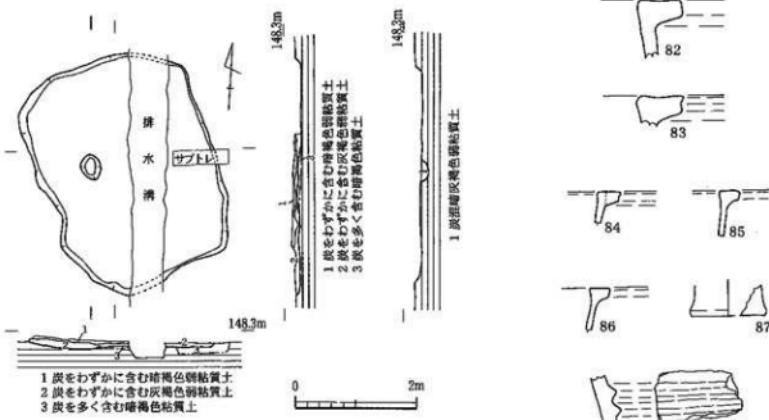
第23図 S A 05 内出土遺物実測図

出土遺物は第37図182～210である。182～185は胎土にキンウンモを含む甕の口縁部である。185は突帯をもつ。186は口縁部。187は甕口縁部。188は高坏の底部か。189は甕口縁部。190は甕の口縁～胴部。口径29cmを測る。191・193は壺の口縁部。194は壺の口縁部。二叉状の口縁で、径は24.6cmを測る。刻目突帯をもつ。195は壺頸部か。突帯あり。196は突帯をもつ壺頸部。197は突帯のある壺頸部。198は高坏脚部か。199は高坏底部か。200は胎土にキンウンモを含む底部。201～203は甕底部。201は外器面にハケメあり。底径は201が6.8cm、202が6.5cm、203が4.5cm。204～206は底部。径は204・205がともに6cm、206が7.2cmを測る。207～210は石製品。207には擦痕がみられる。208・209は石包丁片。

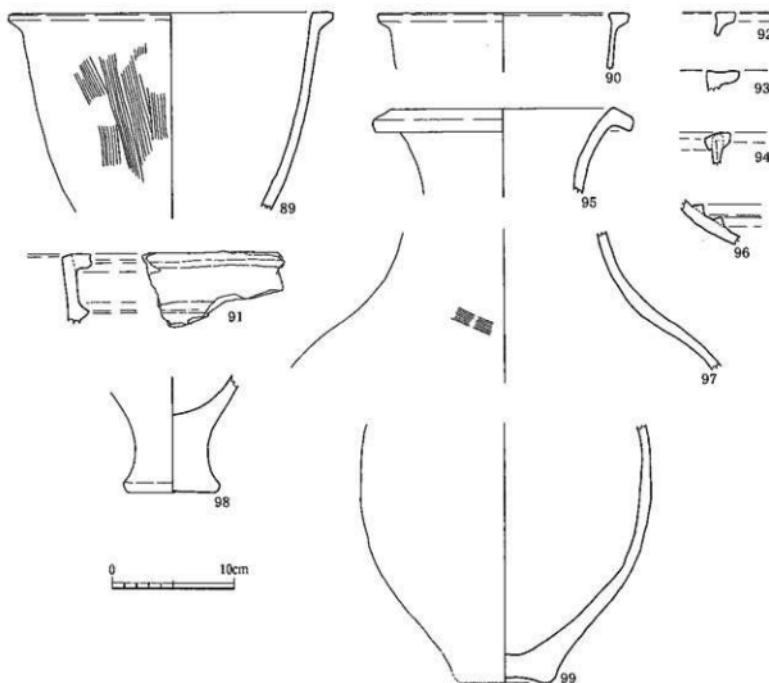
12号堅穴住居跡 (S A 12 : 第38～40図)

S A 12はS A 11の西隣、A-7-a・c区で確認した。N-S 6.2m、E-W 6.3mを測り、楕円形状を呈する。主柱穴は4穴と思われる。検出面から床面までの比高差は約40cmと比較的深い。中央部分に土坑があった。

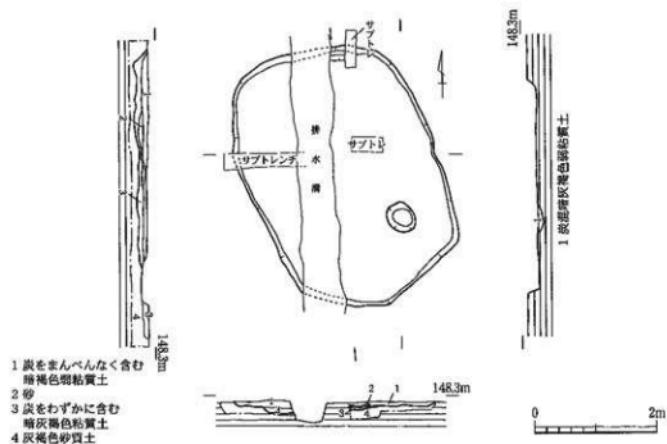
出土遺物は第39・40図の211～243である。211～213は壺の口縁部である。口径は211が29.8cm、212が18cm、213が18.6cmを測る。214は壺頸部。刻目突帯をもち、外器面にはススが付着する。215は突帯をもつ壺の胴部。216・217は壺の底部か。双方ともに胎土にキンウンモを含む。径は216が4.7cm、217が4.2cm。217～226は甕の口縁部である。227・230は口縁部。228は甕の口縁部か。刻目突帯がある。229は甕口縁部。突帯あり。231の胴部は刻目突帯をもち、外器面にススが付着している。232はミニチュア土器。233は擦石か。234は壺。口径28.6～33cm、底径11.7cm、器高31.8～32.2cmを測る。235は甕の口縁～胴部。胎土にキンウンモを含む。口径は22.9～26.7cm。236の甕口縁部は口径26.4cm。237～243は甕底部。径は237が6.7cm、238が7.2cm、239が6.8cm、240が6.1cm、241が



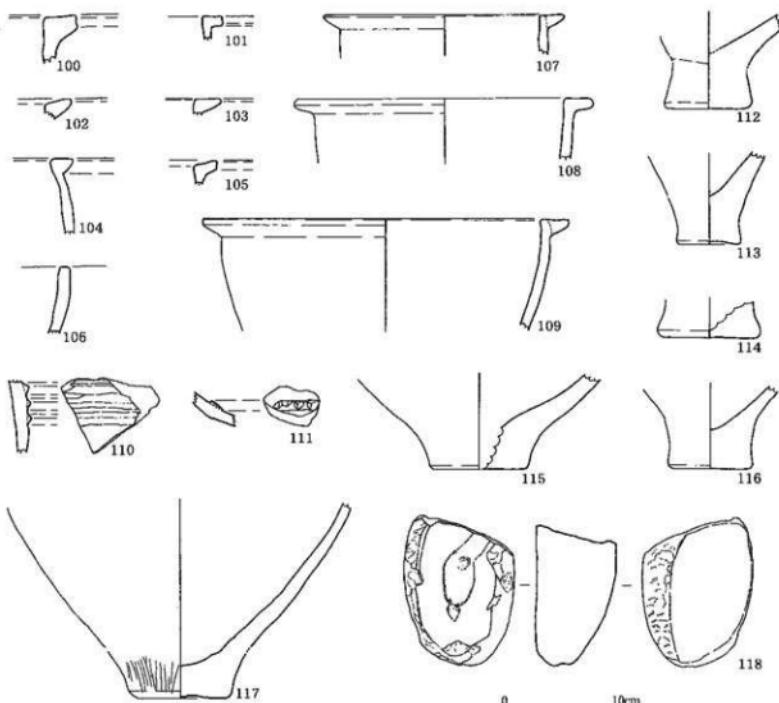
第24図 SAO 6 実測図



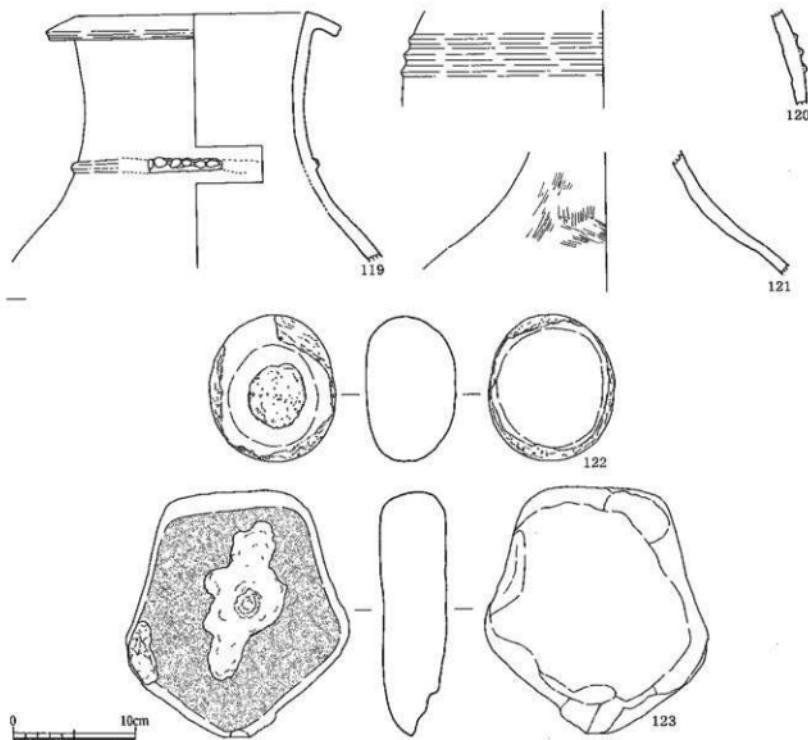
第25図 SAO 6 内出土遺物実測図



第26図 S A 07 実測図



第27図 S A 07 内出土遺物実測図 (1)



第28図 SA 07 内出土遺物実測図 (2)

7.6cm、242が6.4cm、243が5cmを測る。238・239・243は胎土にキンウンモを含む。

14号堅穴住居跡 (SA 14 : 第41図)

SA 14はA-V-c・d区、SA 11の北側にある。N-S 2.7m、E-W 4.2mを測る。方形プランの住居跡である。検出面から床面までの比高差は25cm弱を測る。SA 06・07と同様にやや小型の部類か。

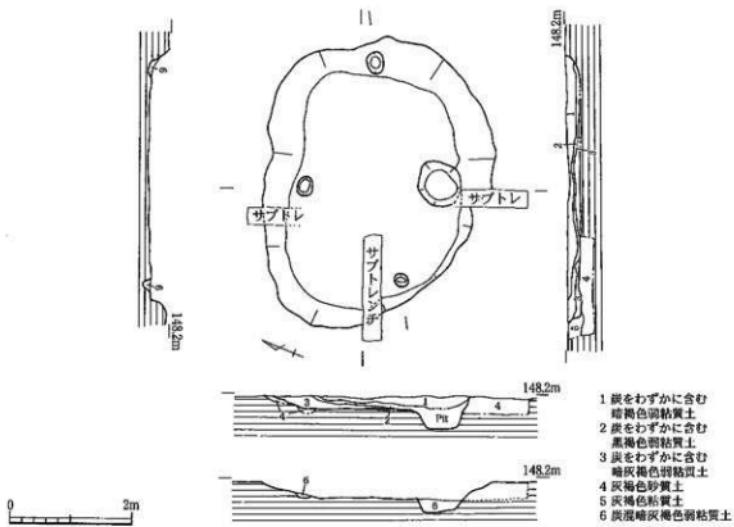
15号堅穴住居跡 (SA 15 : 第41図)

SA 15は、A調査区の東側に、南北に細長く設定した大型トレンチ（3トレンチ）の南側で確認した。西側半分は調査区外。I辺3.24m。検出面から床面までの比高差は25cmほど。

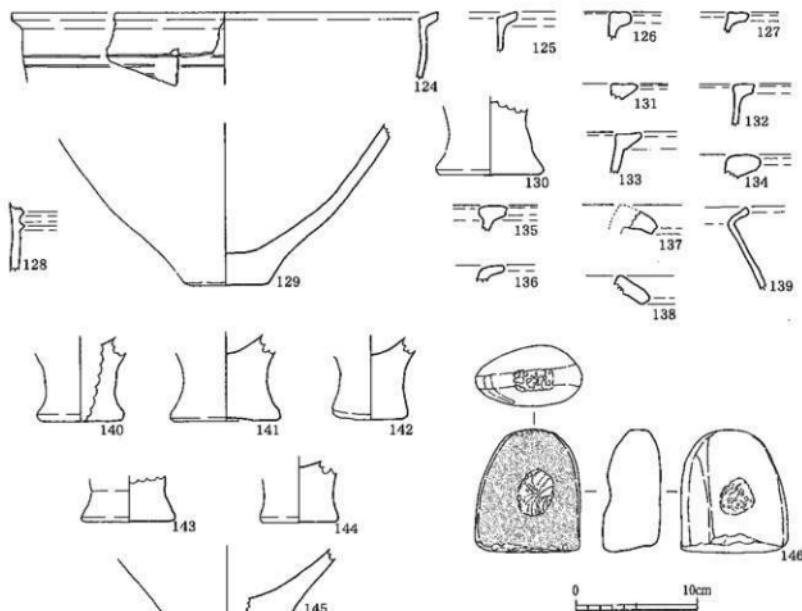
16号堅穴住居跡 (SA 16 : 第41・42図)

SA 16は、C-I-a・b区、北壁際で確認した。大部分は調査区外。E-W 4mか。検出面から床面までの比高差は約30cm。

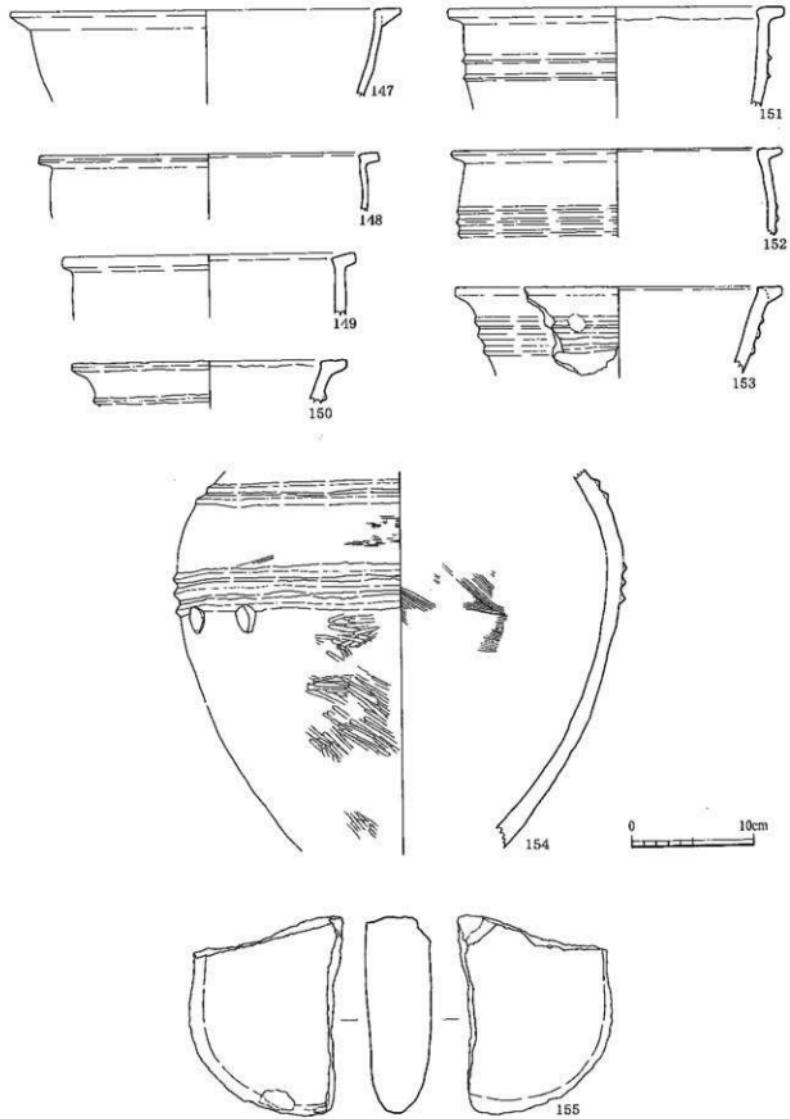
出土遺物を第42図に掲げた。244～246は胎土にキンウンモを含む甕口縁部。突帯を有する。244の口径は29.9cm。247・248は甕底部。ともに胎土にキンウンモあり。径は247が6.8cm、248が6.7cmであ



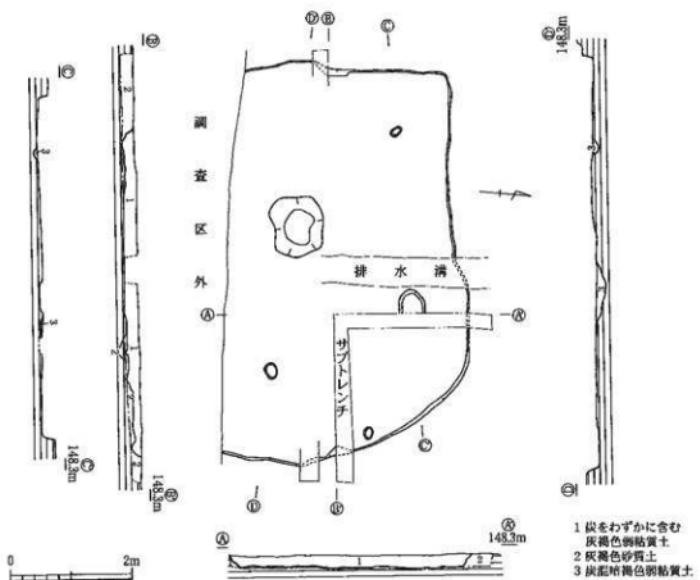
第29図 SA 08 実測図



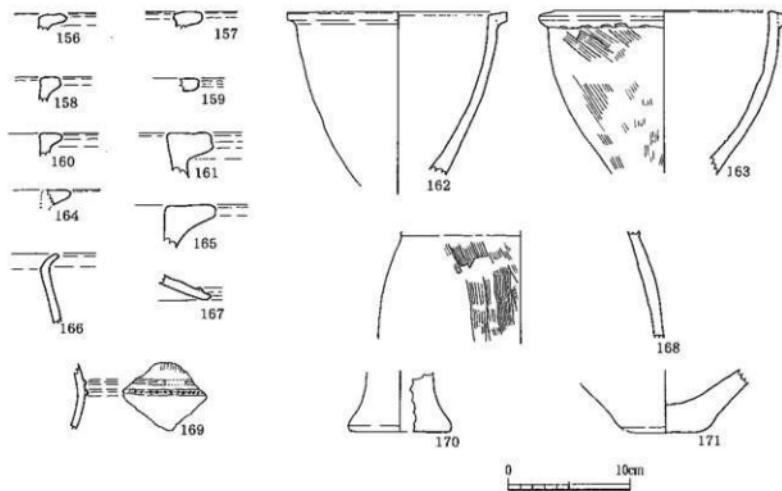
第30図 SA 08 内出土遺物実測図 (1)



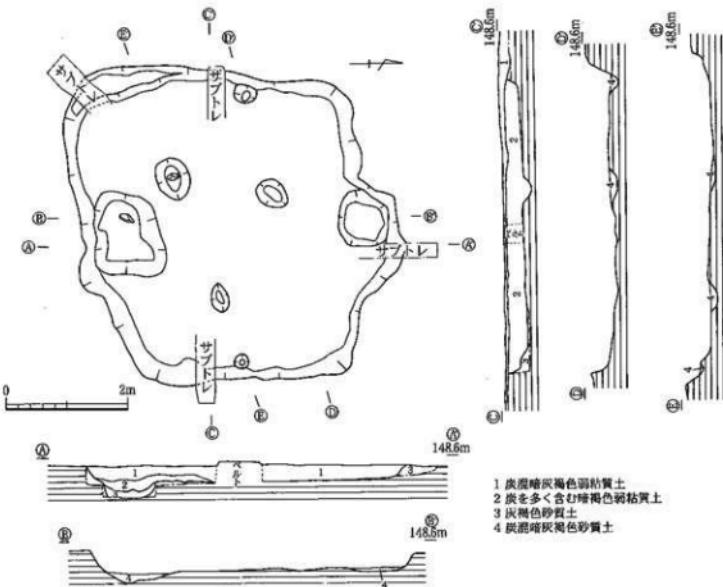
第31図 S A 08内出土遺物実測図（2）



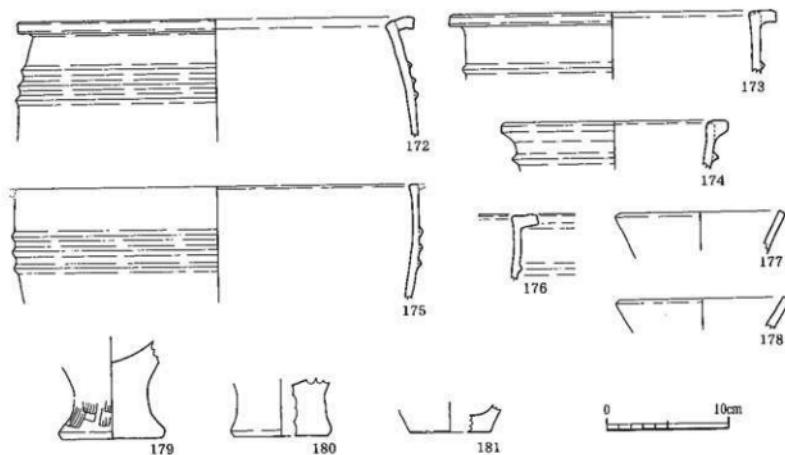
第32図 SAO 9 実測図



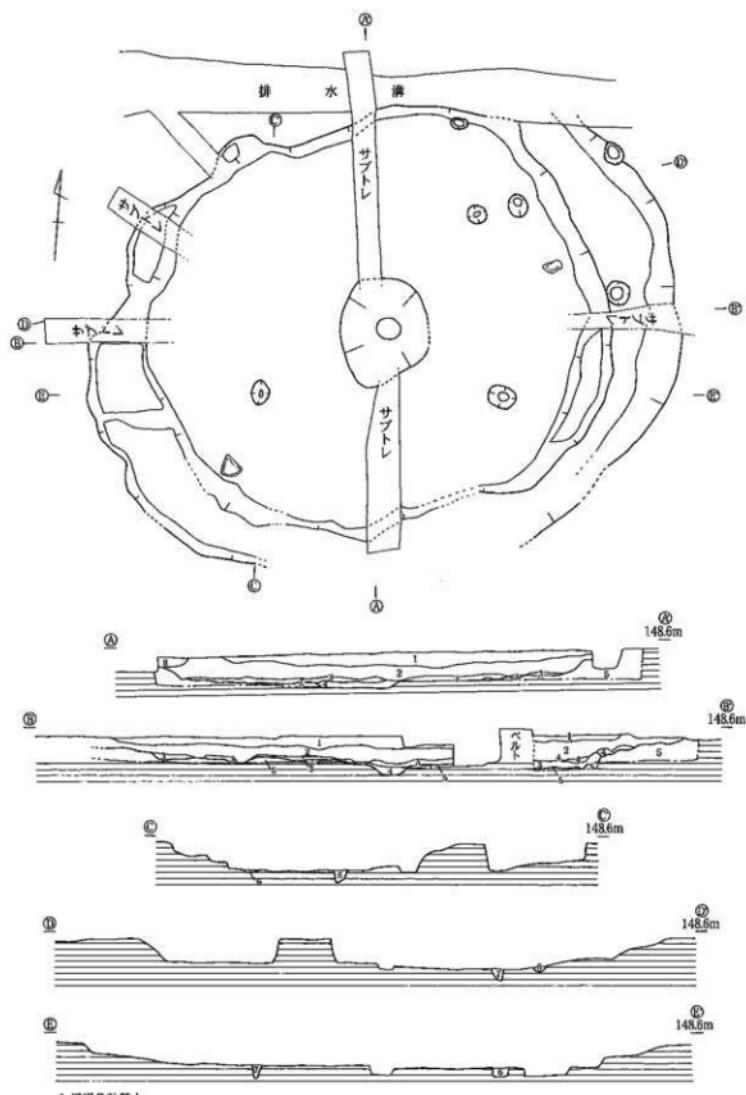
第33図 SAO 9 内出土遺物実測図



第34図 SA 10 実測図

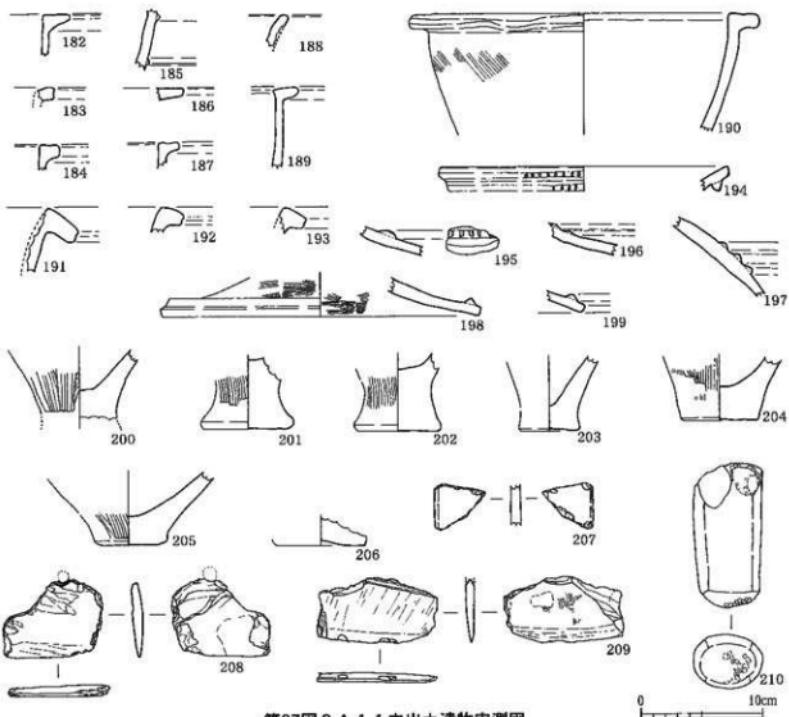


第35図 SA 10 内出土遺物実測図



- 1 黒褐色粘質土
- 2 岩をわずかに含む暗褐色砂粘質土
- 3 岩をわずかに含む暗灰褐色砂粘質土
- 4 暗褐色砂質土
- 5 暗褐色砂質土
- 6 暗褐色砂粘質土
- 7 暗褐色砂粘質土
- 8 塗瓦

第36図 SA 11 実測図



第37図 S A 11 内出土遺物実測図

る。249は壺口縁部。胎土にはキンウンモがみられ、口唇部には据歯文が施されている。250は壺口縁部。251は大甕の胴部か。突帯がつく。252は壺の口縁～胴部である。口径46.8cm。253・254は底部。径は253が7cm、254が11cm。255は壺の口縁部。口径23cmを測る。256は壺頸部。257は壺胴部。258の底部は底径10.4cm。259は敲石か。

17号竪穴住居跡（S A 17：第43・44図）

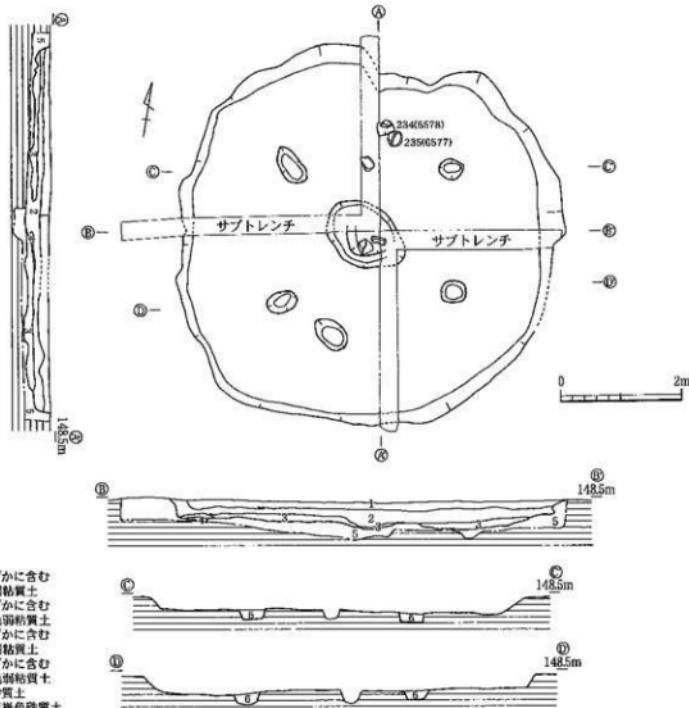
S A 17はB区の西端、B-V-c・f、B-IX-a・e区に位置する。大部分は調査区外。N-S 9.6mを測る。主柱穴ははっきりしない。検出面から床面までの比高差は45cmほどある。

出土遺物を第44図に示した。260は底部。261は突帯をもつ壺の肩部。262は胴部か。突帯あり。263は壺の頭部であり、波状文がみられる。264は石礫。

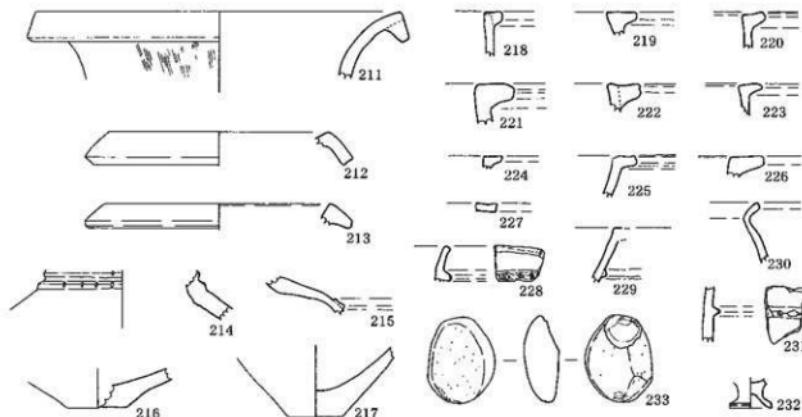
18号竪穴住居跡（S A 18：第45・46図）

S A 18はA-V-d、A-VI-c区、S A 11の北側にある。N-S 6.5m、E-W 4.3mの不定方形（花弁か）状を呈し、検出面から床面までの比高差は20cmを測る。主柱穴は2か3かはっきりしない。中央部分を排水溝が被覆している。

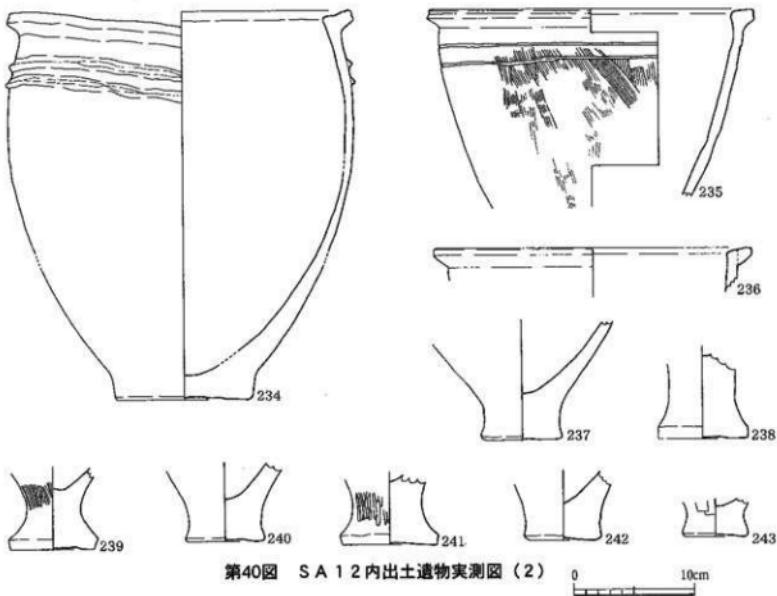
265は蓋である。胎土にはキンウンモが含まれる。口径は19.4cmを測る。266は底部。底径は5.7cm。



第38図 SA 12 実測図



第39図 SA 12 内出土遺物実測図 (1)



第40図 SA 12 内出土遺物実測図 (2)

【掘立柱建物】

1号掘立柱建物 (SB 01 : 第47図)

SB 01はA-VII-a・b区で検出した。SA 03・SA 11の上に立地している。南北2間、東西3間の総柱状で、柱間隔は2.58m。柱穴の径は50cmで、検出面からの深さは40cmほどである。

2号掘立柱建物 (SB 02 : 第47図)

SB 02はB-XI-a区で検出した。柱穴の径20cm、深さ30cmと大きくはないが、東西3間、南北4間以上（南側部分は後世の破壊によって明確ではない）と思われる。柱間は1m。北側には棟持柱と思われる柱穴が確認された。

【土坑】

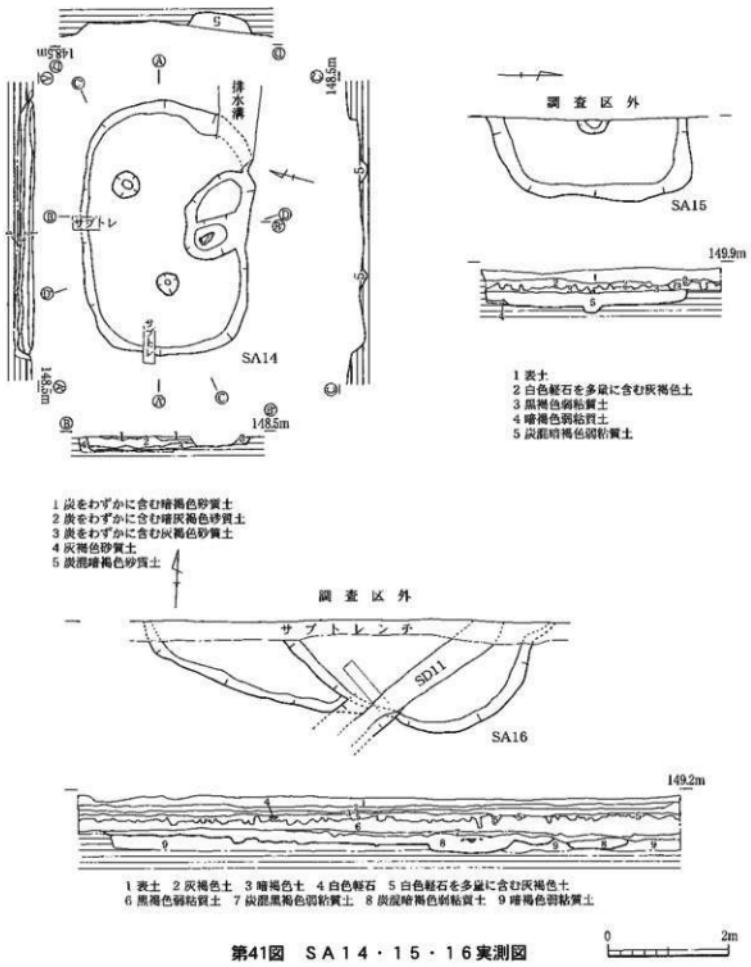
1号土坑 (SC 01 : 第48・49図)

SC 01はB-V-b区で検出した。方向軸はS 70° Eで、長径1.73m、短径1.06mを測る。検出面から床面までの最大深度は5cmと浅い。楕円状を呈する。埋土は炭をわずかに含む暗褐色系土である。

第49図267～270が出土遺物である。267は壺の口縁～胴部である。口唇部はL字状を呈し、口唇はやや先細りする。3条の突帯をもつ。突帯下にはハケメがみられ、スヌが付着している。口径は27.6cmである。268は胴部。2条の突帯あり。269は壺口縁部。口径28.5cmを測る。270は壺の頸部。外器面にはハケメがわずかにみられる。屈曲部には2条の刻目突帯を有する。

2号土坑 (SC 02 : 第48・51図)

SC 02はB-I-b区で検出した。方向軸はN 10° Wで、長径1.78m、短径1.25mを測る。不定形であり、検出面から床面までの最大深度は12cmである。

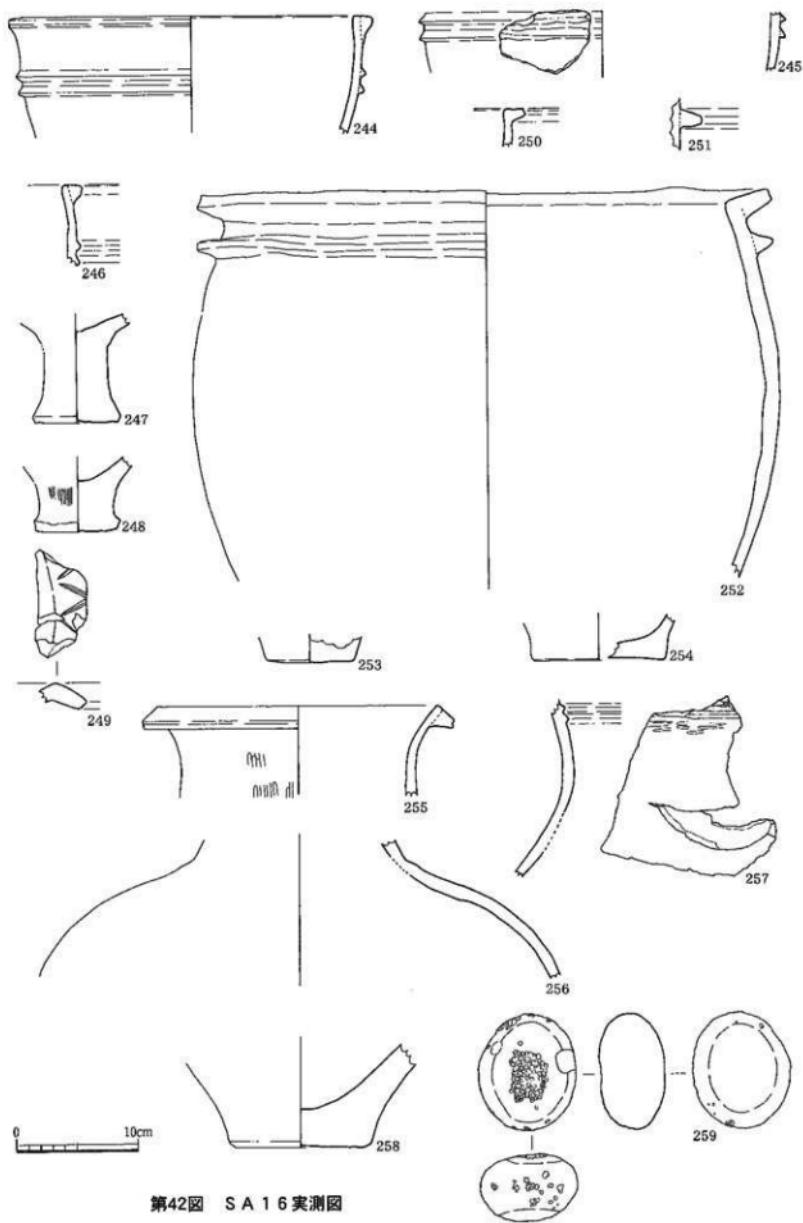


第41図 S A 1 4 · 1 5 · 1 6 実測図

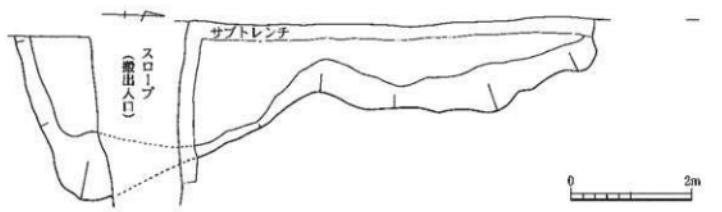
第51図271～283が出土遺物である。271～277は甕口縁部。272は口径28.9cmを測り、胎土にキンウモを含む。275は3条の突帯がある。口縁部はやや内傾し、口唇部突帯はやや先細りする。276の口径は26.8cm。これも口縁部がやや内傾する。278は壺の口縁部か。剥落が多い。279は壺の口縁部。口唇部は垂れ下がる。胎土にはキンウモを含む。280は甕口縁部。281は刻目突帯部。282は甕の口縁部で、胎土にキンウモあり。283は甕底部。底径8.8cmを測り、胎土にキンウモを含む。中実脚台。

3号土坑 (S C 0 3 : 第48・51図)

S C 0 3はB-II-b-d区で検出した。方向軸はN5°Wで、長径3.36m、短径1.92mとやや大きめで



第42図 SA 16 実測図



- 1 表土
- 2 淡褐色砂質土
- 3 墓灰褐色砂質土
- 4 白色釋石を含む墓灰褐色土
- 5 黑褐色砂質土
- 6 墓灰褐色砂質土
- 7 墓混褐色砂質土
- 8 灰褐色砂質土
- 9 墓混灰褐色土
- 10 墓混褐色土

第43図 SA 17 実測図



第44図 SA 17 内出土遺物実測図

ある。検出面から床面までの最大深度は55cmと深い。方円状を呈する。西側は段状になっており、テラスが形成されている。下部の埋土には灰白色の粘土質の層がみられた。

第51図284～295が出土遺物である。284・285は甕口縁部。ともに胎土にキンウンモがみられる。286は高壺底部か。底径24.8cm。胎土中にキンウンモあり。287は甕口縁部。288は甕。289は甕口縁部。290・291は甕底部か。292は甕口縁部。口径32cm。胎土にキンウンモを含み、3条の突帯がつく。口縁部はやや内傾し、口唇端部は肥厚している。293は甕口縁～頸部。口径は21cm。口唇部はやや垂れ下がる。外器面にはハケメがみられる。294は底径6.6cmの底部。295は甕の胴～底部。

4号土坑 (SC 04 : 第50・51図)

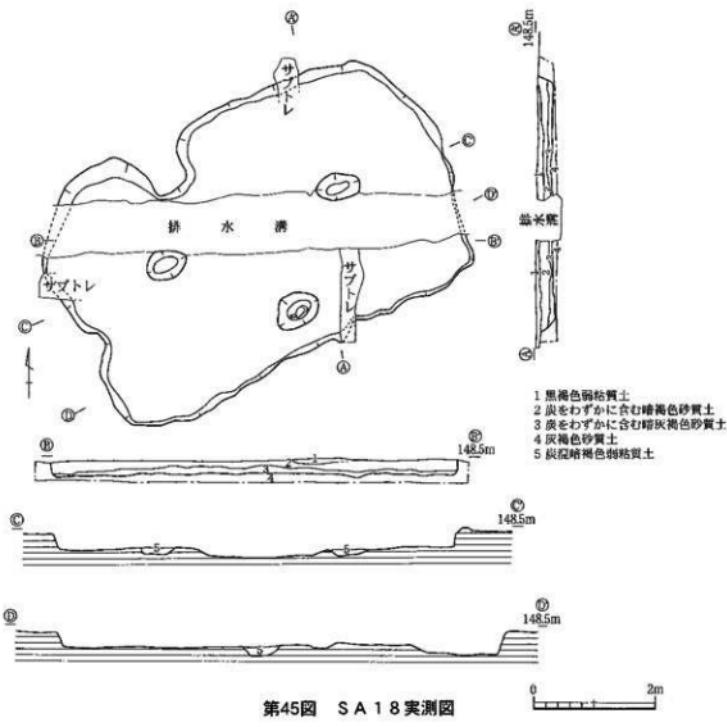
SC 04はB-II-b区で検出した。方向軸はS 70° Wで、長径1.91m、短径1mを測る。検出面から床面までの最大深度は12cm。方円状である。

出土遺物は第51図296～299である。296～298は甕底部か。296・297は胎土中にキンウンモを含む。径は296が7cm、297が4.8cm、298が6.6cm。299は甕の口縁部。

5号土坑 (SC 05 : 第50・51図)

SC 05はA-VII-b区で検出した。方向軸はN 50° Eで、長径2.07m、短径1.5mを測る。楕円状で、検出面から床面までの最大深度はわずか6cmと浅いが、遺物の出土状態は良好であった。

第51図300～305が出土遺物である。300は甕口縁部。口唇部直下の突帯には刻目があり、口唇端部にも同様に刻目がある。口径29.1cmを測る。胎土中にキンウンモを含む。301は甕口縁部。口唇部に刻目がある。302は甕底部。径は8cm。303は甕である。口径29.1cm、底径7.4cm、器高28.9～29.9cmを測る。全体的に歪みがある。口唇部の突帯はL字状だが小さく、ややダンゴ状を呈する。304は甕口縁部。口径24.3cm。口縁部はわずかに内傾している。口唇部の突帯はやや肥厚する。3条の突帯あり。305は甕。口径26.9cm、底径7.8cm、33.5～34.3cm。口縁部がやや内傾し、胴部が張り出す。口唇部突帯はやや小さめである。器壁は比較的薄い。接合のためか、穿孔が2穴ある。



第45図 SA 18 実測図



第46図 SA 18 内出土遺物実測図

6号土坑 (SC 06 : 第50・52図)

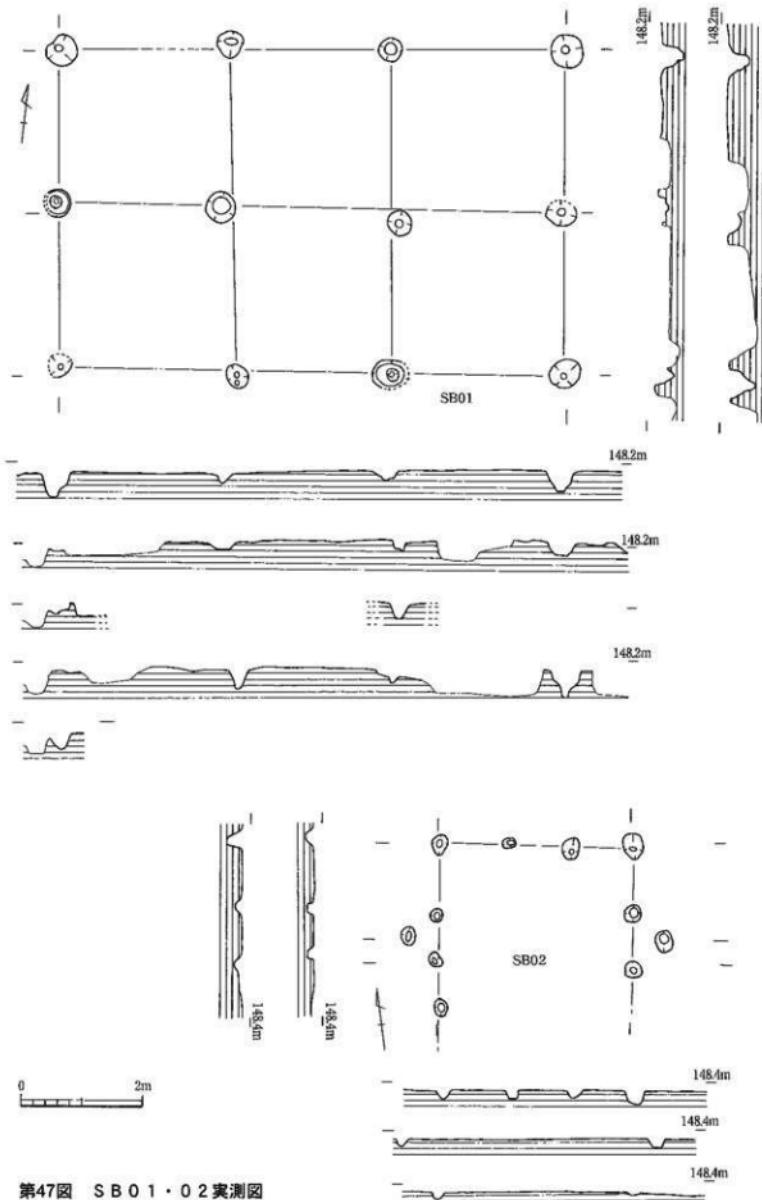
SC 06はB-II-d区で検出した。方向軸はN5°Wで、長径2.57m、短径1.41mを測る。不定形であるが、検出面から床面までの最大深度は31cmと比較的の深めである。

第52図306~317が出土遺物である。306・307は胎土中にキンウンモを含む甕の口縁部である。308は甕の口縁部で、胎土にキンウンモあり。309・310は甕底部。ともに胎土中にキンウンモあり。底径は309が6.8cm、310が7cmを測る。311・313は底部。312は口縁部と思われる。314・315・317は甕口縁部。314は断面M字状を呈する。外器面にはスグがみられる。315は突帯をもつ。317は口唇部と口唇直下の突帯に刻目がある。下城式系か。口径は26.1cm。316は甕口縁部。口唇部は垂れ下がっている。

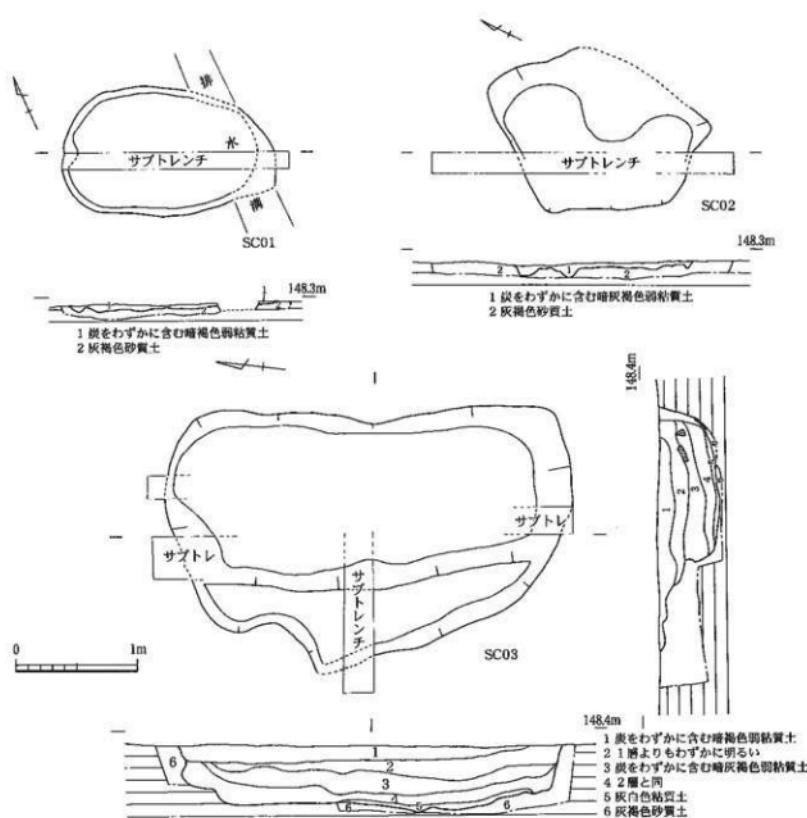
7号土坑 (SC 07 : 第50・52図)

SC 07はB-II-c区で検出した。方向軸はS85°Eで、長径1.2m、短径0.77mを測る。検出面から床面までの最大深度は15cm。梢円形状を呈する。

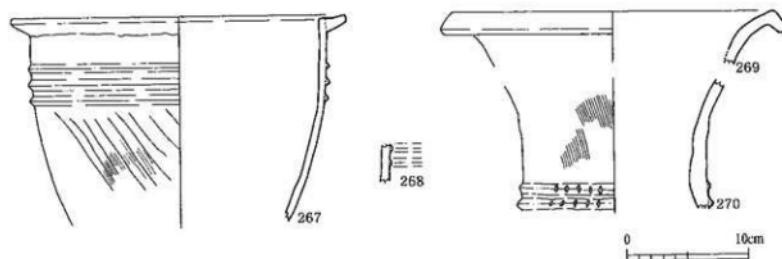
第52図に出土遺物を示した。318・319は甕の口縁部。ともに胎土中にキンウンモを含む。320は甕口縁部。口唇部は垂れ下がる。



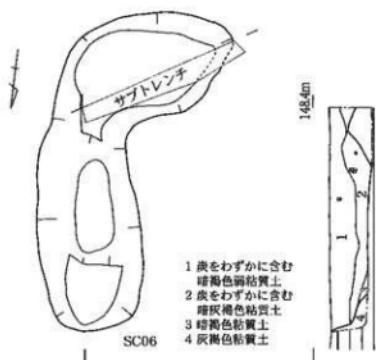
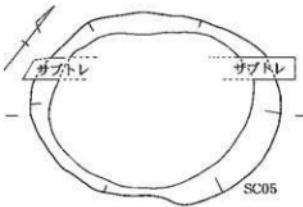
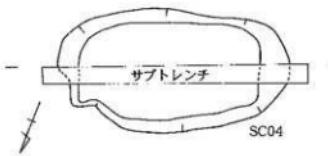
第47図 SB01・02実測図



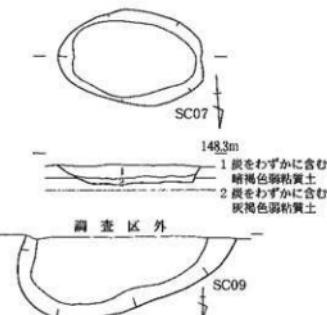
第48図 SC01・02・03実測図



第49図 SC01内出土遺物実測図

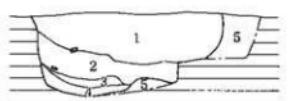
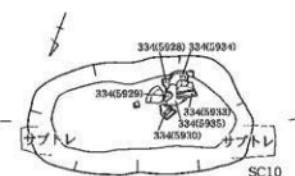
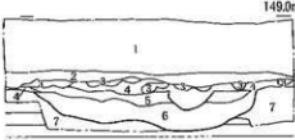


1 灰をわずかに含む
暗褐色弱粘質土
2 灰をわずかに含む
暗灰褐色粘質土
3 暗褐色粘質土
4 灰褐色粘質土



1 灰をわずかに含む
暗褐色弱粘質土
2 灰をわずかに含む
灰褐色弱粘質土

調査区外



1 灰をわずかに含む暗褐色弱粘質土
2 灰褐色土ブロックをわずかに含む暗灰褐色弱粘質土
3 灰褐色土上を多く含む暗灰褐色土
4 灰をわずかに含む暗褐色弱粘質土
5 灰褐色砂質土

第50図 SC04・05・06・07・08・09・10実測図

8号土坑（S C 0 8：第50・52図）

S C 0 8はA-VII-c、B-II-a区で検出した。方向軸はN10° Eで、長径1.64m、短径1.1mを測る。検出面から床面までの最大深度は69cmと、本遺跡では非常に深い。梢円形状である。

第52図321～330が出土遺物である。321は壺。胎土中にキンウンモを含む。322・323は甕口縁部。322は3条の突帯をもつ。口唇部は先細る。口径は28.2cm。323の口径は30.9cm。口唇端部の突帯は肥厚したままである。口唇上面は指押さえの影響で、やや瘤みかかっている。324・325は甕口縁～胴部。ともに口縁下に刻目突帯があり、突帯下にはススが付着している。下城式系か。326は胎土にキンウンモを含む甕口縁部。327・328は甕底部。底径は327が6.4cm、328が9cm。329は把手部分。330は壺の口縁～胴部。口径は23cmを測る。口唇部は垂れ下がり、頸部には2条の刻目突帯がある。肩部には2条、胴部には3条の突帯もある。

9号土坑（S C 0 9：第50図）

S C 0 9はB-II-a区、A区南壁際で検出した。南側半分は調査区外である。検出面から床面までの最大深度は約30cm。

10号土坑（S C 1 0：第50・52図）

S C 10はA-VII-c区で検出した。方向軸はS 65° Wで、長径1.85m、短径0.91mを測り、方円状を呈する。検出面から床面までの最大深度は27cmほどである。埋土は炭をわずかに含む暗灰褐色粘質土。

出土遺物は第52図331～334に示した。331は口縁下に突帯のある甕口縁部。332は刻目突帯をもつ。333・334は甕の口縁～胴部。ともに胎土中にキンウンモを含む。口径は333が32cm、334が33.3cm。333は、3条の突帯をもち、内器面には指頭痕がある。口縁形態はL字状を呈し、口唇の突帯は肥厚している。334は、口縁がわずかに内傾し、胴部はあまり張り出さない。3条の突帯があり、口唇の突帯はやや肥厚している。

11号土坑（S C 1 1：第53図）

S C 11はB-I-b区で検出した。B区北壁際にあり、南側半分は不明である。不定形であり、検出面から床面までの最大深度は20cmほどである。

12号土坑（S C 1 2：第53・54図）

S C 12はB-V-c区で検出した。SA 0 7の南にあり、東西にやや長めの形状を呈する。方向軸はN 70° Eで、長径1.45m、短径0.65mを測る。検出面から床面までの最大深度は10cmと浅めで、方円状を呈する。

第54図335～337が出土遺物である。335は石器。336・337は甕の口縁部。L字状の口縁形態である。336は22cmの口径である。

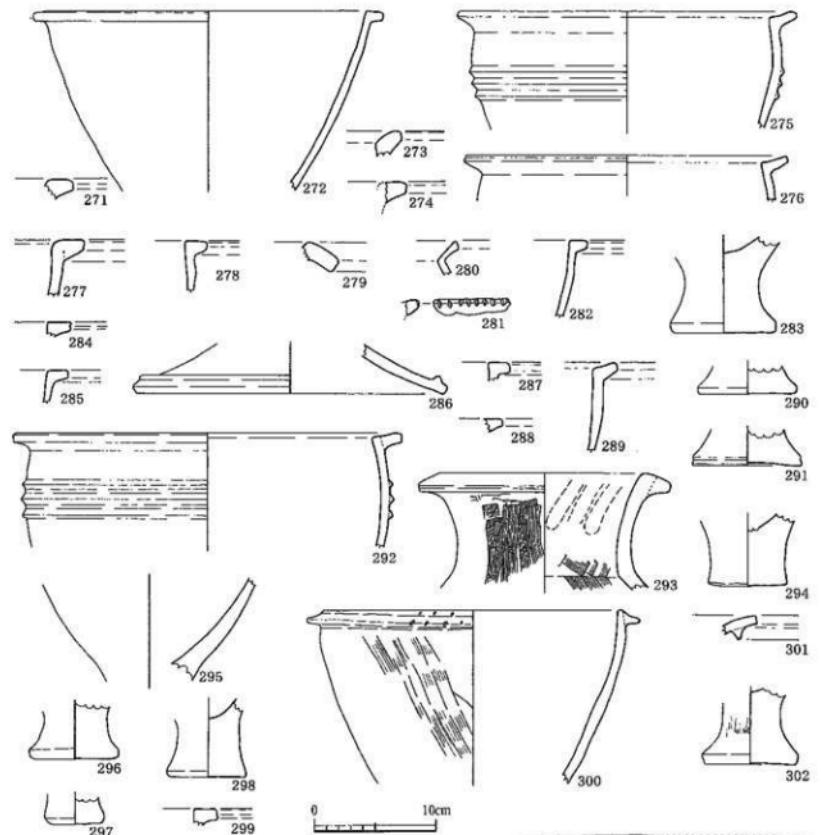
13号土坑（S C 1 3：第53・54図）

S C 13はB-X-b区で検出した。方向軸はS 75° Wで、長径3.5m、短径0.64mを測り、東西に細長い形状である。検出面から床面までの最大深度は10cmと浅い。

338・339は甕底部。底径は338が7cm、339が9cm。338には胎土中にキンウンモが含まれている。

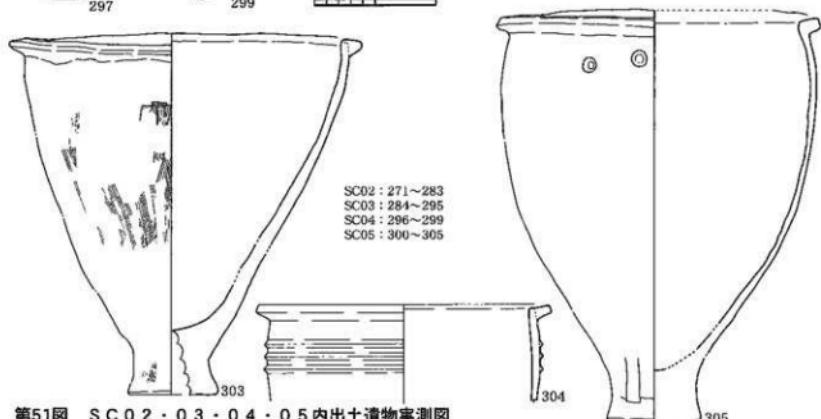
16号土坑（S C 1 6：第53図）

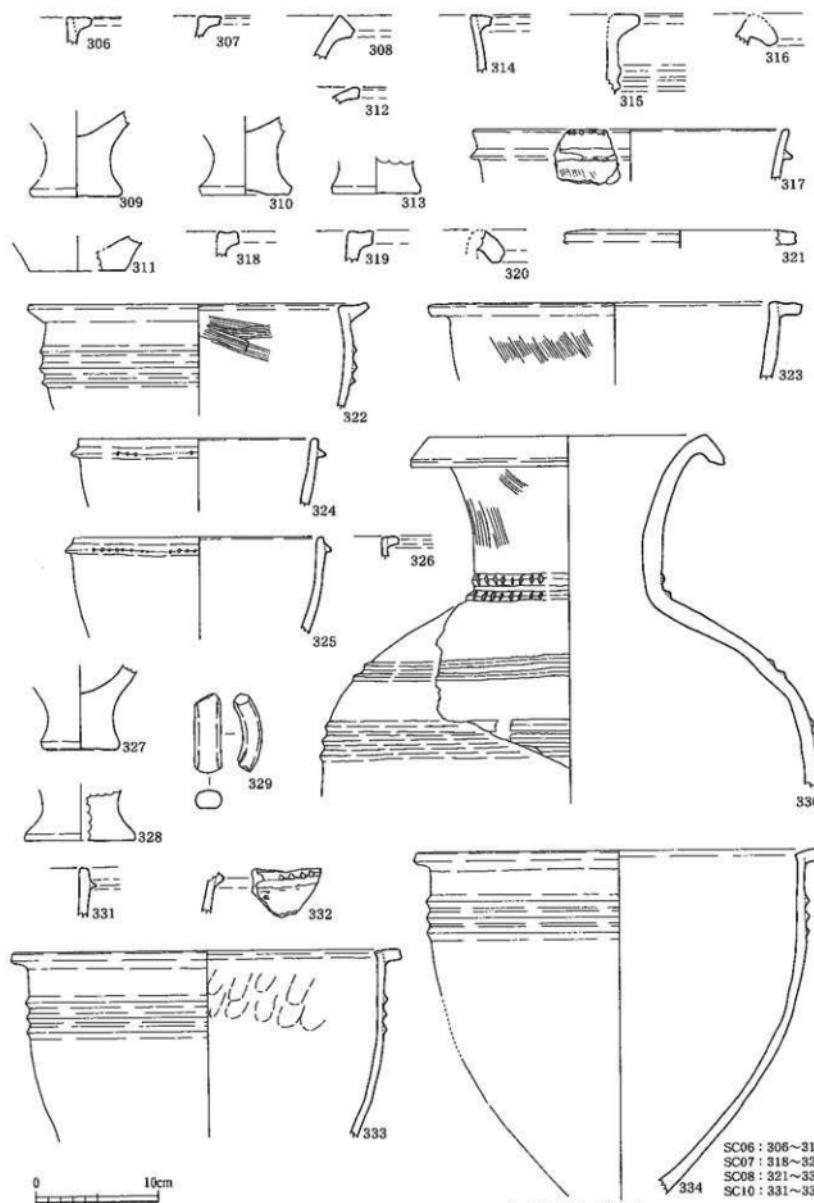
S C 16はB-VI-a区で検出した。方向軸はS 80° Eで、長径0.87m、短径0.67mを測る。ほぼ円形状を呈する。検出面から床面までの最大深度は20cm。



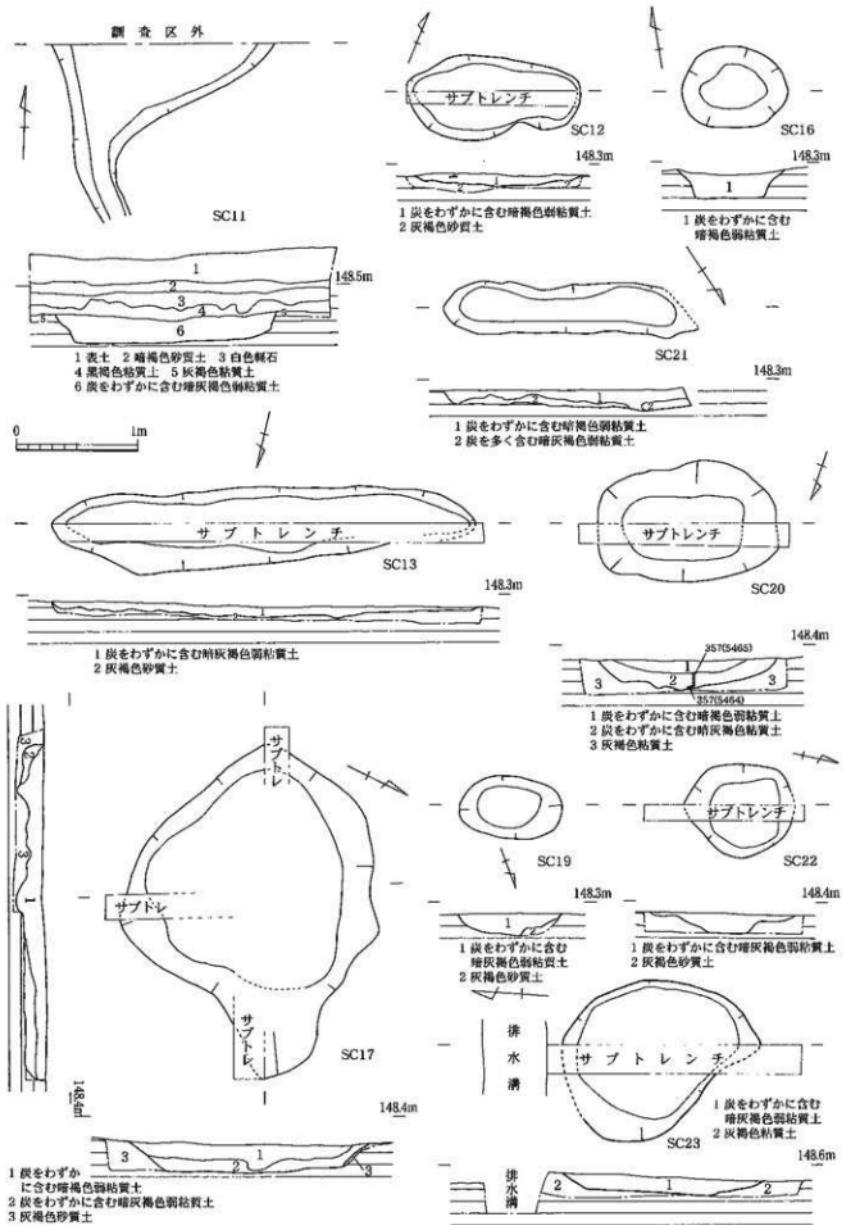
SC02 : 271~283
 SC03 : 284~295
 SC04 : 296~299
 SC05 : 300~305

第51図 SC02・03・04・05内出土遺物実測図





第52図 SC06・07・08・10内出土遺物実測図



第53図 SC11・12・13・16・17・20・21・22・23実測図

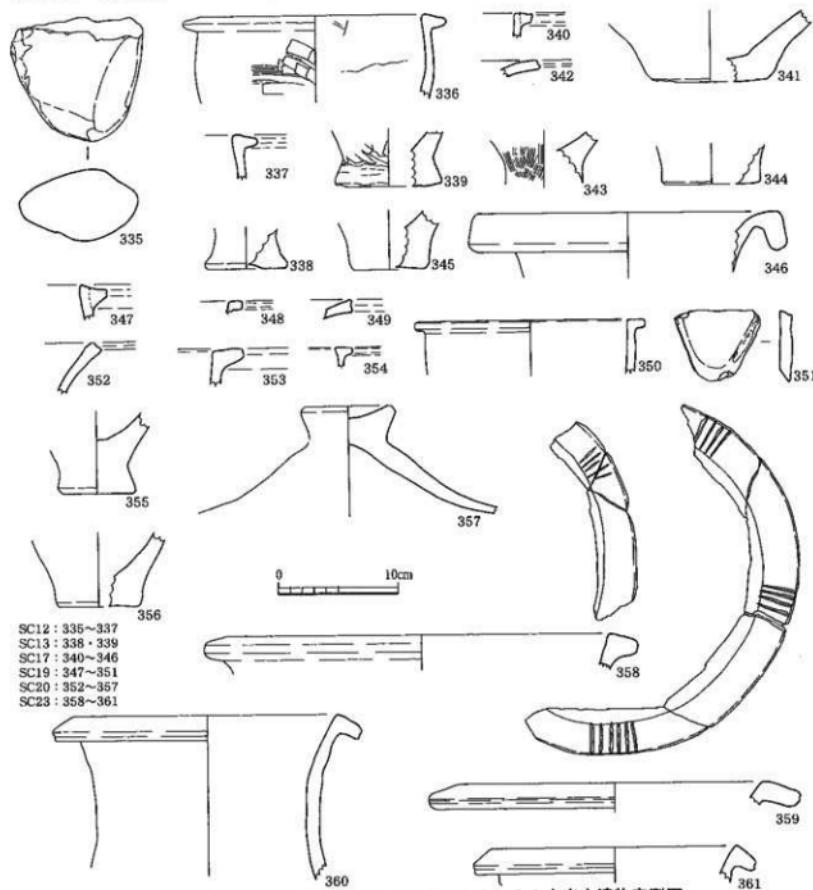
17号土坑 (SC 17 : 第53・54図)

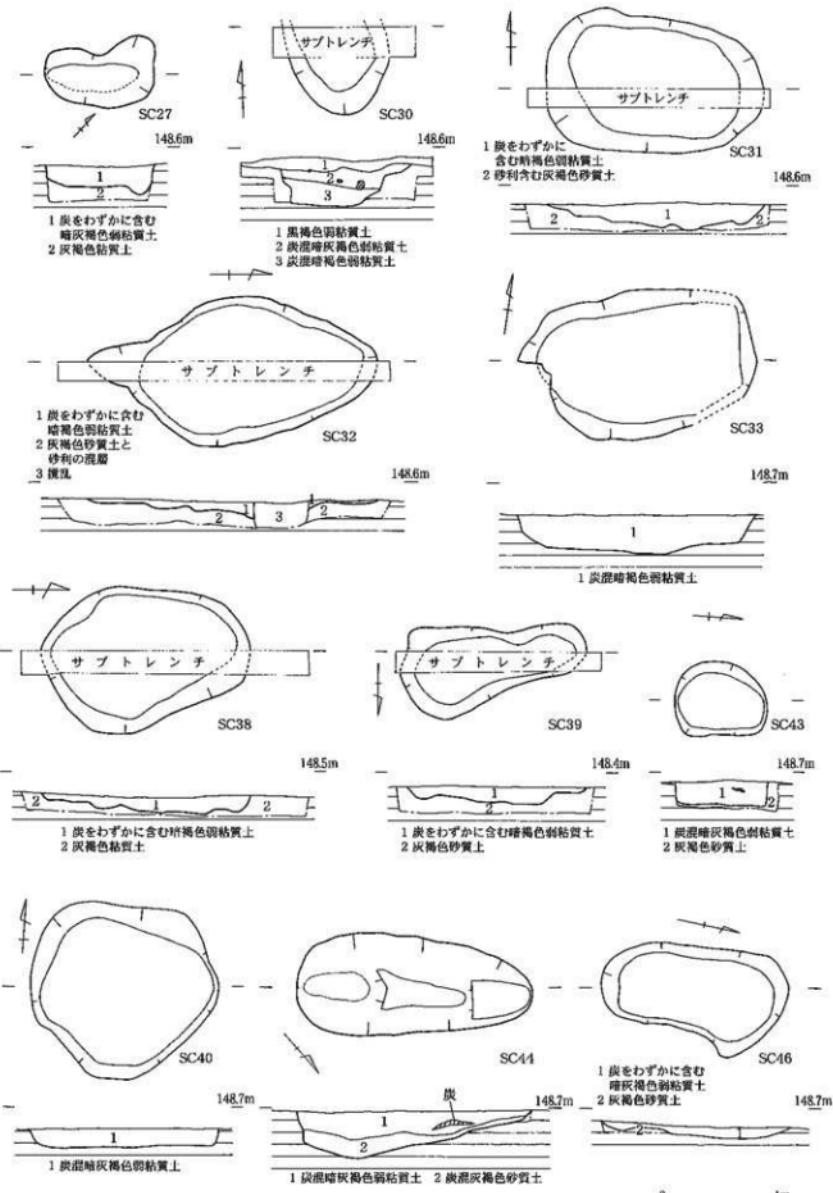
SC 17はB-VI-a区で検出した。方向軸はN65° Eで、長径2.75m、短径2.1mを測る。検出面から床面までの最大深度は23cmほどである。

出土遺物は第54図340~346である。340は壺の口縁部で、胎土中にキンウンモを含む。341は胎土にキンウンモを含む壺の底部か。径は9.6cm。342は口縁部。343は底部付近。344・345は壺底部。径は344が8.2cm、345が6cmを測る。346は口径25cmを測る壺口縁部。口唇部は外方へ垂れ下がる。

19号土坑 (SC 19 : 第54図)

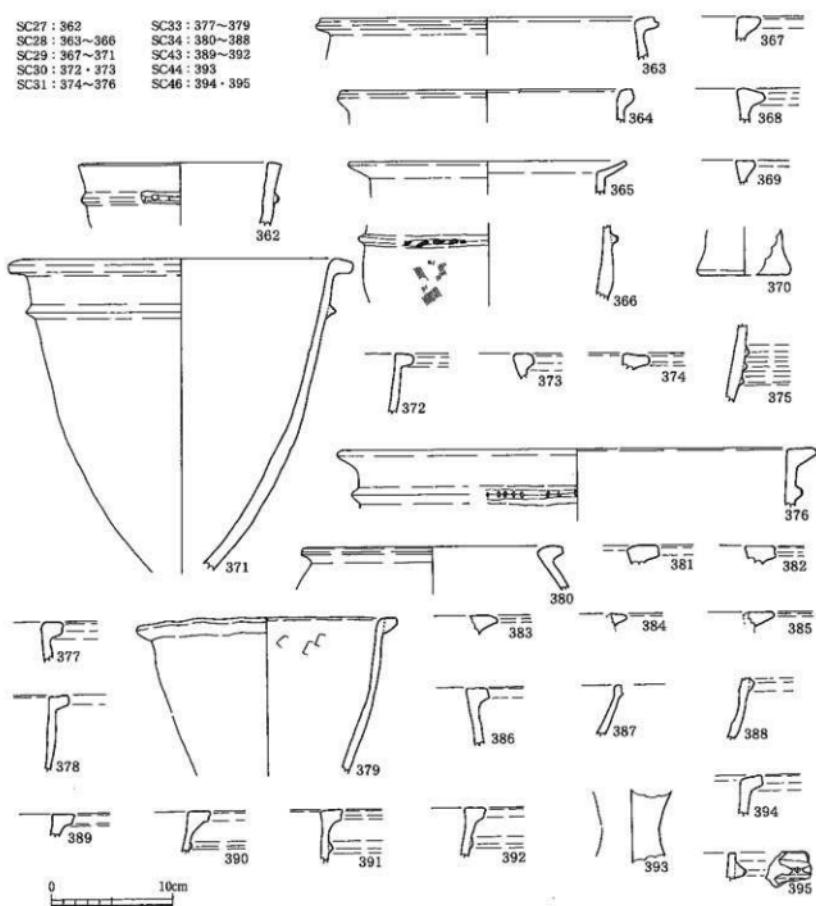
SC 19はB-II-c区で検出した。方向軸はN60° Wで、長径0.85m、短径0.5mを測る。検出面から床面までの最大深度は18cmで、楕円状である。





第55図 SC 27・30・31・32・33・38・39・40・43・44・46実測図

SC27 : 362
 SC28 : 363～366
 SC29 : 367～371
 SC30 : 372・373
 SC31 : 374～376
 SC33 : 377～379
 SC34 : 380～388
 SC43 : 389～392
 SC44 : 393
 SC46 : 394・395



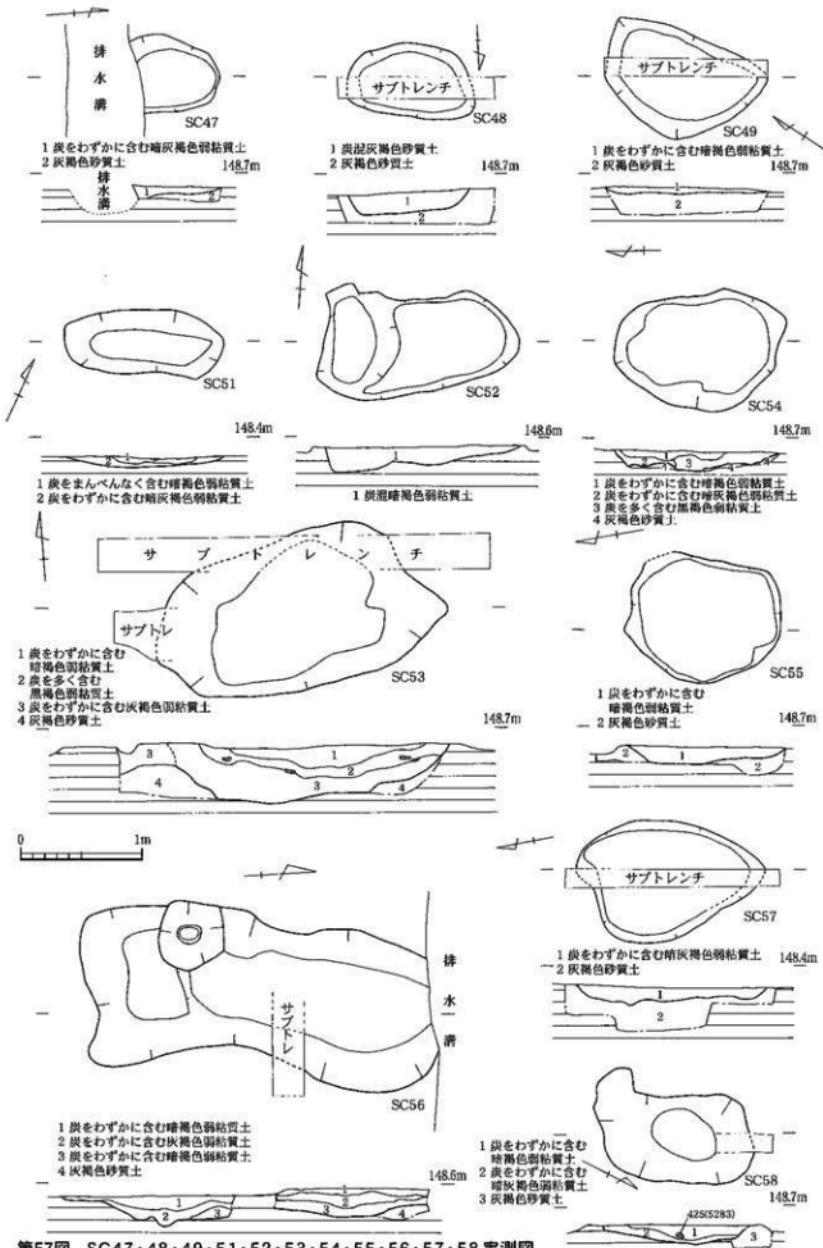
第56図 SC 24・26・27・28・29・30・31・33・34・43・44・45・46内出土遺物実測図

第54図347～351が出土遺物である。347・348は甕の口縁部である。350は甕口縁部で、口径は19.3cmを測る。口縁形態はL字状を呈する。351は石器。

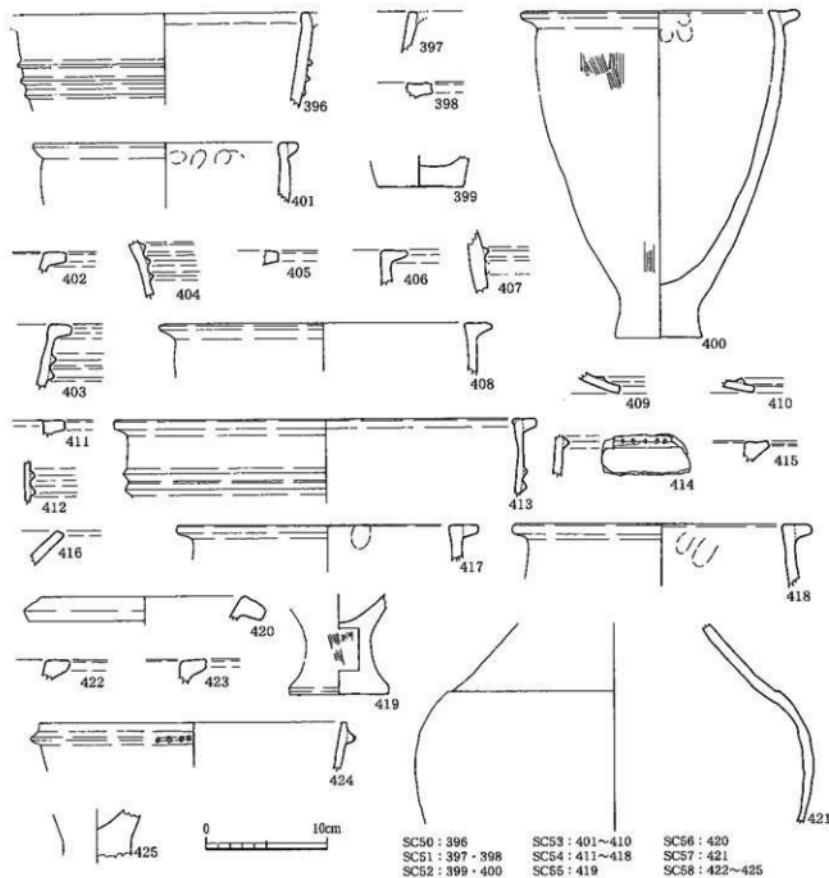
20号土坑 (SC 20 : 第53・54図)

SC 20はB-II-d区で検出した。方向軸はN75°Eで、長径1.48m、短径1mを測る。検出面から床面までの最大深度は25cmとやや深めである。やや細長めの方円状を呈する。

第54図352～357に出土遺物を示した。353・354は甕の口縁部である。355・356は底部。355はSC 03出土片と接合する。底径は355・356ともに6.4cm。357は蓋か。外器面にはミガキもわずかにみられる。



第57図 SC47・48・49・51・52・53・54・55・56・57・58 実測図



第58図 SC 50・51・52・53・54・55・56・57・58内出土遺物実測図

21号土坑（SC 21：第53図）

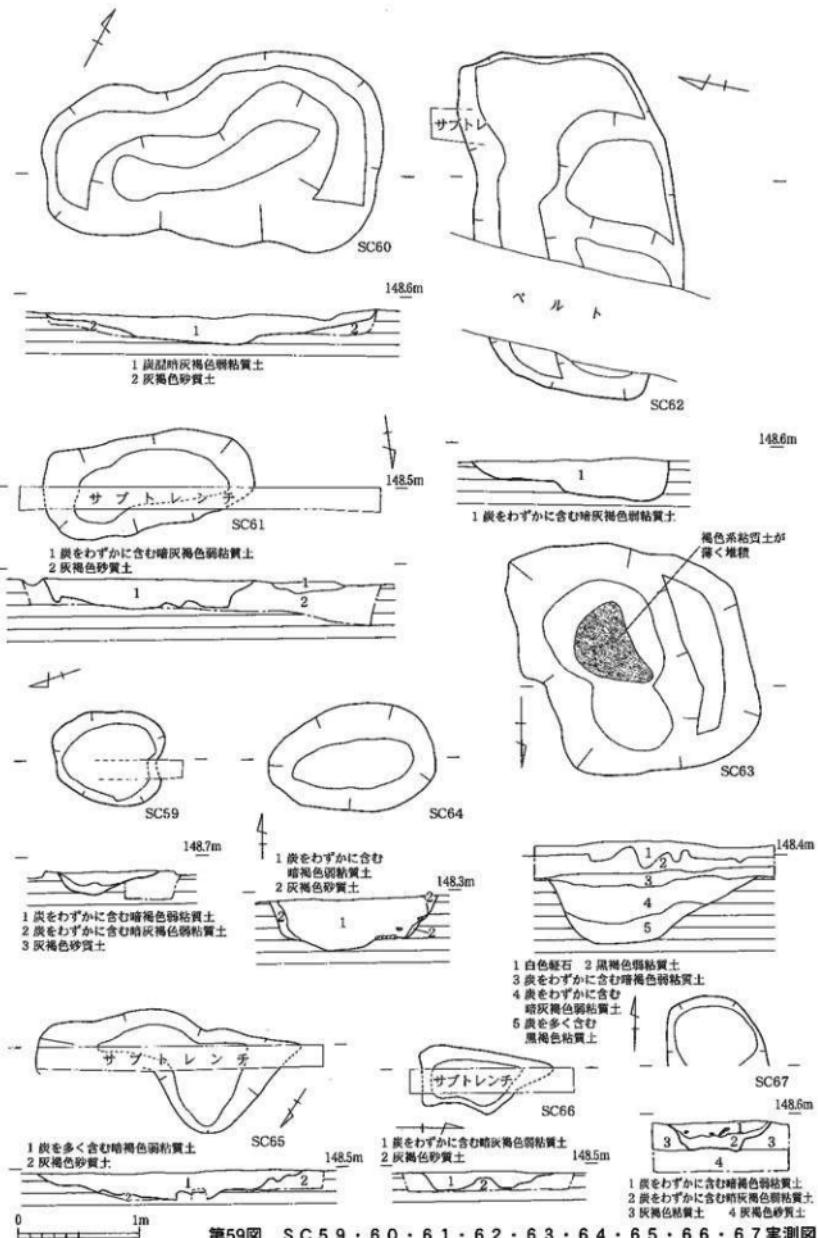
SC 21はB-II-c区で検出した。方向軸はN50°Wであり、北西-南東に細長く、長径2.1m、短径0.4mを測る。検出面から床面までの最大深度は17cm。

22号土坑（SC 22：第53図）

SC 22はB-VI-b区で検出した。ほぼ円形状を呈する。長径0.93m、短径0.77mを測る。検出面から床面までの最大深度は16cm。

23号土坑（SC 23：第53・54図）

SC 23はB-III-b区で検出した。方向軸はN30°Wで、長径1.53m、短径1.12mを測る。検出面から床面までの最大深度は13cm。形状は梢円形である。



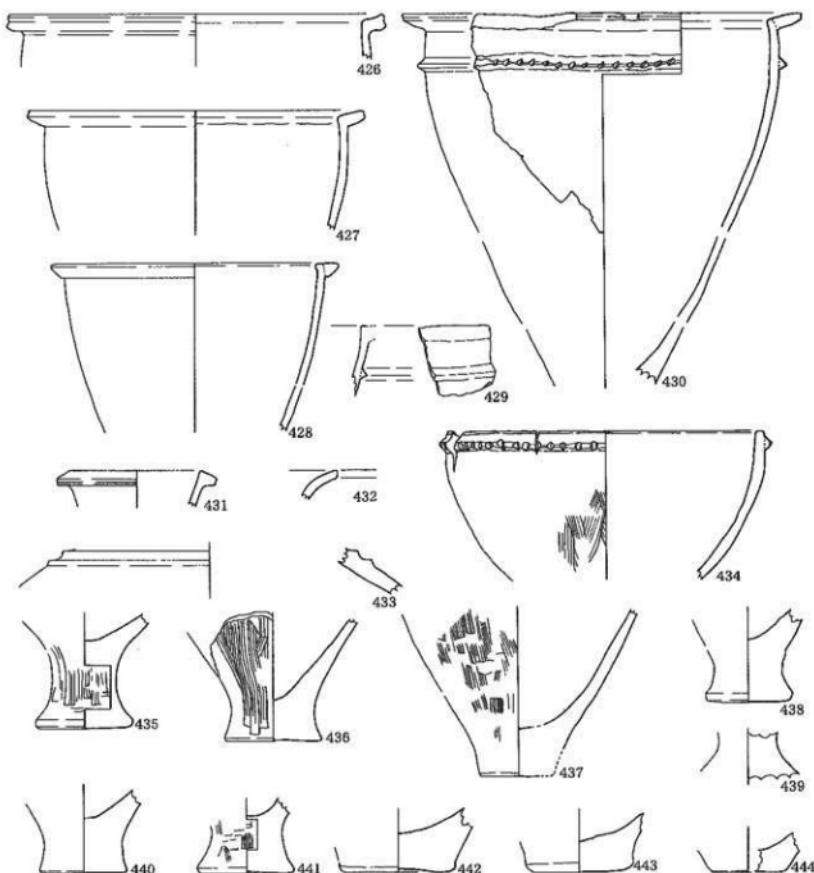
第59図 SC 59・60・61・62・63・64・65・66・67 実測図

出土遺物を第54図358～361に示した。358は壺の口縁部か。口径は36.2cmで、胎土中にキンウンモを含んでいる。口唇部に沈線をもつ。359～361は壺の口縁部である。口唇部は外方に垂れ下がっている。359は胎土中にキンウンモを含む。口唇部上辺に4～4～6の沈線が等間隔に施されている。口径は359が31cm、360が25.7cm、361が23.6cmを測る。

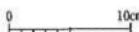
27号土坑（S C 27：第55・56図）

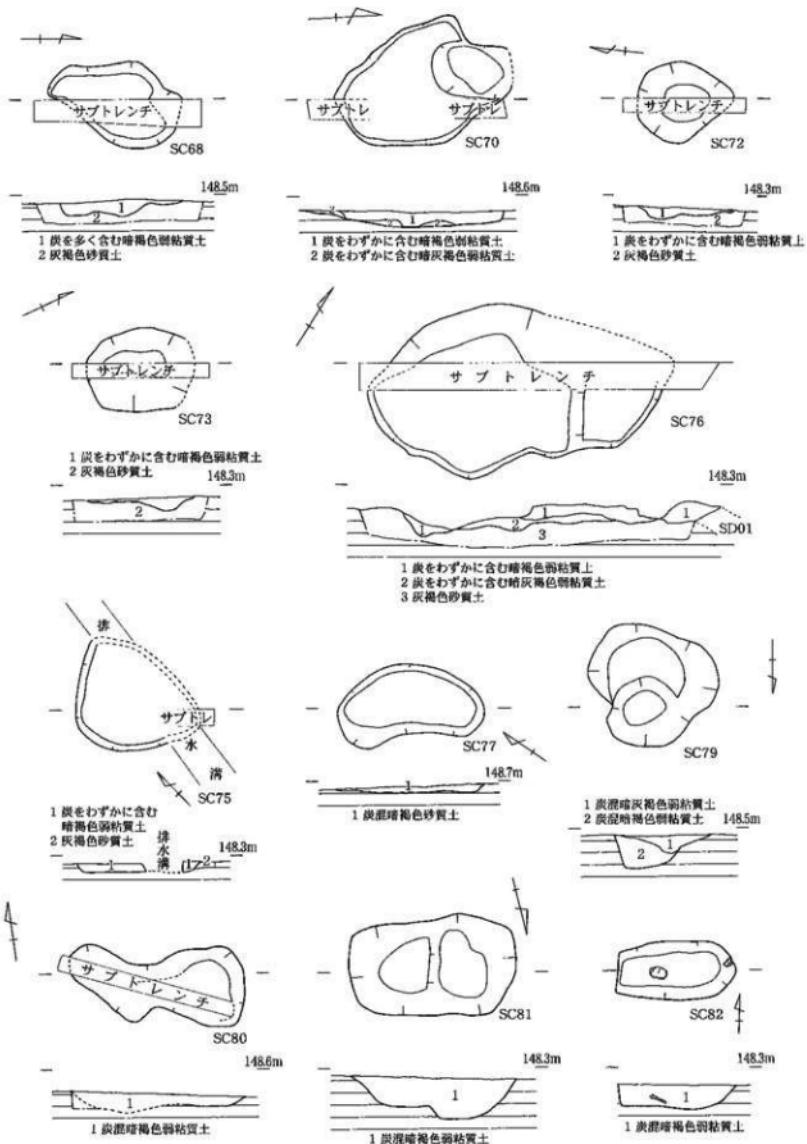
S C 27はB-VII-a区で検出した。方向軸はN45° Eで、長径0.9m、短径0.45mを測る。検出面から床面までの最大深度は24cm。

362は壺の口縁部。口径は16.8cm。口縁下に刻目突帯があげぐる。下城式系統か。



第60図 S C 63 内出土遺物実測図





0 1m

第61図 SC68・70・72・73・75・76・77・79・80・81・82実測図

28号土坑（S C 2 8 : 第56図）

S C 2 8 は B - VII - a · b 区で検出した。S C 2 7 の東隣にあたる。配置図等に掲載していないが、現場で確認し、土坑としたものである。

第56図363～366が出土遺物である。363～365は壺の口縁部である。363・364は胎土中にキンウンモを含む。口径は363が28.4cm、364が24.6cm、365が23.1cmを測る。366は胴部か。絡繆の刻目突帯がめぐる。

29号土坑（S C 2 9 : 第56図）

S C 2 9 は B - VII - a 区で検出した。S C 3 0 の南西に位置している。遺構図は掲載していない。

出土遺物は第55図367～371である。367・369は壺の口縁部。367は胎土中にキンウンモを含む。368は胎土中にキンウンモを含む口縁部。370は底径7.3cmを測る壺底部。371は壺口縁～胴部。胎土中にはキンウンモがみられる。口縁は L 字状を呈し、口唇部突帯はわずかに垂れる。口径は28.7cmを測り、口縁下に 1 条の突帯をもつ。

30号土坑（S C 3 0 : 第55・56図）

S C 3 0 は B - III - c ~ B - VII - a 区で検出した。北側半分は不明である。検出面から床面までの最大深度は40cmと比較的深い。

第56図に出土遺物を示した。372・373は壺の口縁部である。372は胎土中にキンウンモあり。

31号土坑（S C 3 1 : 第55・56図）

S C 3 1 は B - III - a 区で検出した。方円状を呈し、方向軸は S 85° E で、長径1.8m、短径1.11mを測る。検出面から床面までの最大深度は24cmほど。

第56図374～376が出土遺物である。374・376は壺の口縁部。376は口径39.5cmを測り、口縁下の突帯には刻目がある。口唇部の突帯はやや先細る。375は胴部片。三角突帯が3条確認できる。

32号土坑（S C 3 2 : 第55図）

S C 3 2 は B - III - a 区で検出した。S C 3 1 の東側に位置する。N 50° E の方向軸で、長径は2.38m、短径は1.2mである。検出面から床面までの最大深度は14cmとやや浅い。

33号土坑（S C 3 3 : 第55・56図）

S C 3 3 は B - III - c 区で検出した。方円状で、方向軸は N 70° E である。長径は1.96m、短径は1.22mを測る。検出面から床面までの最大深度は32cmとやや深い。

第56図377～379が出土遺物である。377・378は壺口縁部。ともに胎土にキンウンモが含まれている。379は壺の口縁～胴部。胎土中にキンウンモが混じり、外器面にはススが付着している。口径は21.5cmを測る。S C 2 3 出土片と接合している。

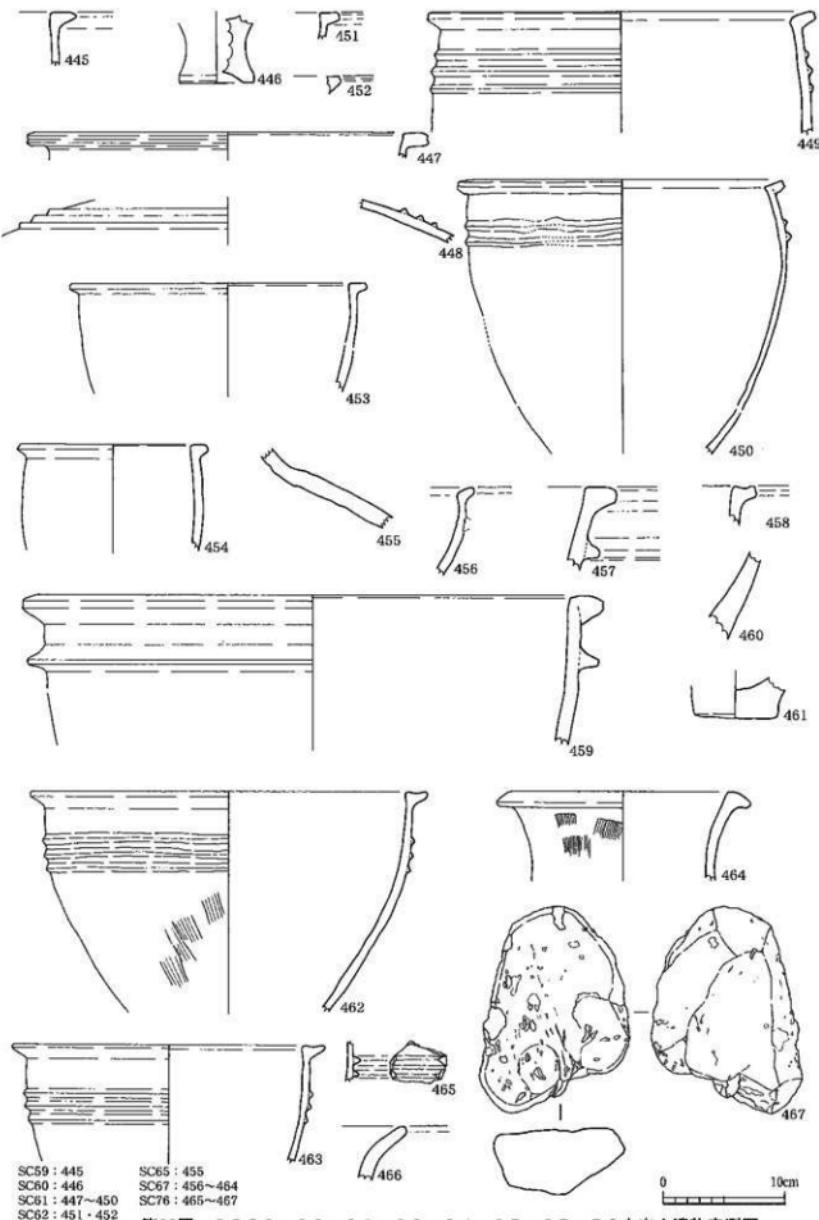
34号土坑（S C 3 4 : 第56図）

S C 3 4 は B - IV - a · b 区で検出した。大きく、浅めの土坑である。

出土遺物は第56図の380～388である。380は壺の口縁部か。口縁は内傾している。381～387は壺口縁部。388には突帯がある。

38号土坑（S C 3 8 : 第55図）

S C 3 8 は B - XI - d 区で検出した。S D 0 3 の西側に位置する。方向軸は N 5° W で、長径1.71m、



第62図 SC 59・60・61・62・64・65・67・76内出土遺物実測図

短径1.13mの楕円形状を呈する。検出面から床面までの最大深度は15cm。

39号土坑（S C 3 9：第55図）

S C 3 9はB-XI-a区で検出した。S B 0 2の北側にある。方向軸はS 80° Wで、長径1.56m、短径0.54mを測る。検出面から床面までの最大深度は14cm。

40号土坑（S C 4 0：第55図）

S C 4 0はS D 1 4の北側、C-V-a区で検出した。方向軸はN 85° Eで、長径1.5m、短径1.44mの楕円形である。検出面から床面までの最大深度は16cm。

43号土坑（S C 4 3：第55・56図）

S C 4 3はC-V-c区で検出した。方向軸はN 15° Eで、長径0.79m、短径0.64mを測る。検出面から床面までの最大深度は21cm。

第56図の389～392が出土遺物である。全て甕の口縁部で、胎土にキンウンモを含む。390～392は口縁下に1条の突帯がある。

44号土坑（S C 4 4：第55・56図）

S C 4 4はC-VI-c・d区で検出した。長方円状を呈し、方向軸はN 45° Wで、長径1.95m、短径0.78mを測る。検出面から床面までの最大深度は38cmと深い。

393は、甕脚部で胎土にキンウンモあり。

46号土坑（S C 4 6：第55・56図）

S C 4 6はC-II-a区で検出した。方向軸はN 5° Wで、長径1.55m、短径0.7mを測り、方円状を呈する。検出面から床面までの最大深度は9cmと浅い。

394は甕の口縁部で、胎土中にキンウンモを含む。395は口縁部で口縁下に刻目突帯をもつ。下城式系と思われる。

47号土坑（S C 4 7：第57図）

S C 4 7はC-II-a区で検出した。S C 4 6の南側に位置する。南側は排水路によって破壊されていた。検出面から床面までの最大深度は12cm。

48号土坑（S C 4 8：第57図）

S C 4 8はC-II-b・d区で検出した。方円状を呈し、方向軸はS 85° Eで、長径1.07m、短径0.6mを測る。検出面から床面までの最大深度は18cm。

49号土坑（S C 4 9：第57図）

S C 4 9はC-II-c区で検出した。形状は不定形で、方向軸はN 25° Wを図る。長径は1.34m、短径は0.85である。検出面から床面までの最大深度は6cmと浅い。

50号土坑（S C 5 0：第58図）

S C 5 0はB-I-c区で検出した。S D 0 8と切り合っており、S C 5 0→S D 0 8との時期差があると思われる。

396は甕の口縁部で、口径24cmを測る。口唇部の突帯が剥落している。口縁下には3条の突帯がある。

51号土坑（S C 5 1 : 第57・58図）

S C 5 1はB-I-b区で検出した。方向軸はN70° Eで、長径1.31m、短径0.52mを測り、方円状を呈する。検出面から床面までの最大深度は8cmと浅い。

397は胎土にキンウンモを含む口縁部。口唇部の突帯は剥落している。398は甕口縁部。

52号土坑（S C 5 2 : 第57・58図）

S C 5 2はA-IX-d区で検出した。方向軸はN80° Eで、長径1.61m、短径0.77mを測る。検出面から床面までの最大深度は19cm。

399は底部。胎土中にキンウンモを含む。底径は7cm。400は甕である。口径23cm、底径7cm、器高27.1cmを測る。口縁は内傾し、底部は脚状を呈する。脚部は中実。口唇部の突帯は肥厚ぎみである。

53号土坑（S C 5 3 : 第57・58図）

S C 5 3はA-IX-b区で検出した。方向軸はN80° Eで、長径2.4m、短径1.23mを測る。方円状を呈する。検出面から床面までの最大深度は44cmと深い。

出土遺物を第58図401～410に示した。401～403は甕の口縁部。胎土にはキンウンモがある。403は口縁下に2条の突帯をもつ。口径は401が22cm、404は胴部。突帯をもち、胎土にキンウンモがある。405・406は甕の口縁部。405は胎土にキンウンモあり。407は突帯をもつ甕の胴部。408は口径28cmを測る甕の口縁部。409、410は高壺底部か。

54号土坑（S C 5 4 : 第57・58図）

S C 5 4はA-X-b区で検出した。方向軸はS10° Eで、長径1.45m、短径0.95mを測る。梢円状を呈する。検出面から床面までの最大深度は17cm。

第58図411～418が出土遺物である。411は胎土にキンウンモを含む甕口縁部。412は突帯を有する胴部。キンウンモが胎土中にみられる。413は胎土にキンウンモを含む甕口縁部。口径34.5cmを測る。414は胴部。刻目突帯あり。415は甕の口縁部。スヌが付着している。416は口縁部。417は口径25cmを測る甕の口縁部である。418は甕口縁部で、口径24.8cmを測る。

55号土坑（S C 5 5 : 第57・58図）

S C 5 5はA-IX-d区で検出した。方向軸はS10° Wで、長径1.3m、短径1.02mを測る。検出面から床面までの最大深度は15cm。梢円状である。

第58図419は甕の底部。底径8.3cm。

56号土坑（S C 5 6 : 第57・58図）

S C 5 6はA-IX-a区で検出した。方向軸はN10° Eである。南北に長い方形状を呈する。長径が6m、短径が2mほどである。検出面から床面までの最大深度は34cm。

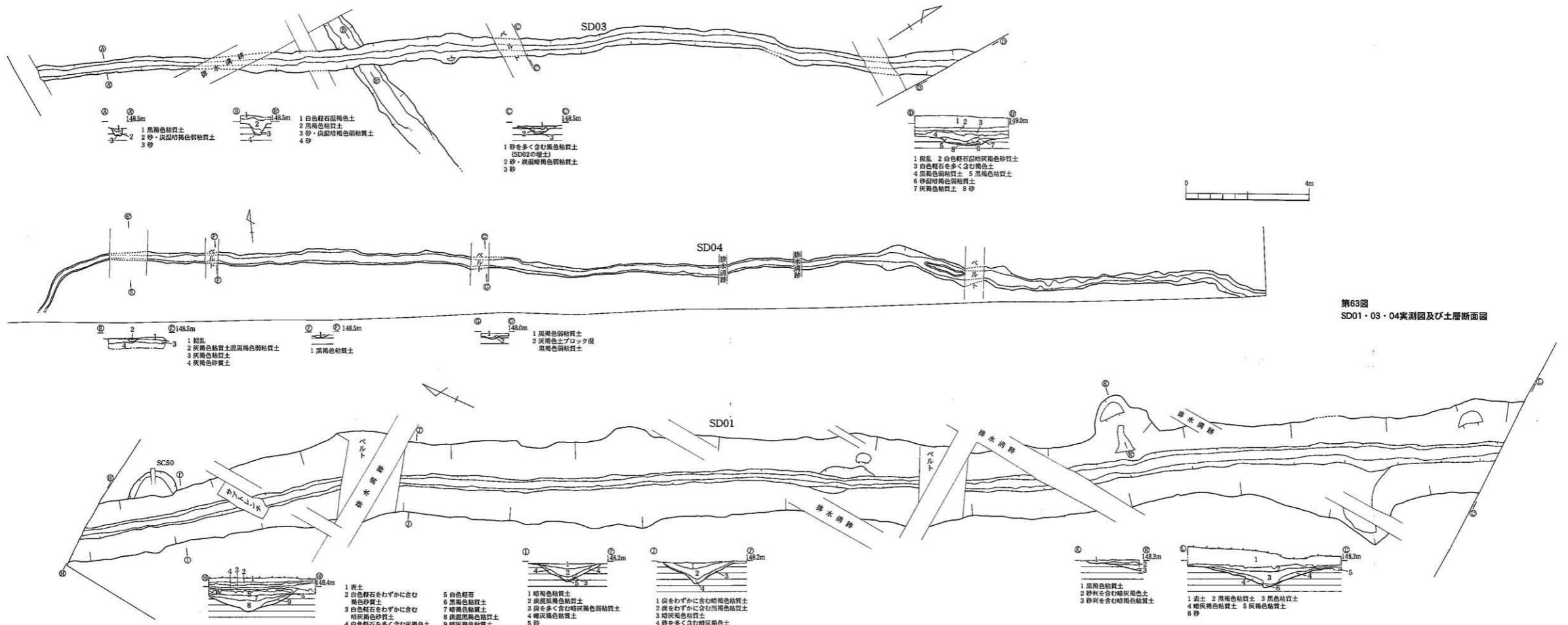
第58図420は甕の口縁部。口唇部が垂れ下がる。胎土中にキンウンモを含み、口径は20cmである。

57号土坑（S C 5 7 : 第57・58図）

S C 5 7はB-VI-a・b区で検出した。S C 1 7の東隣に位置する。方向軸はN50° Eで、長径2.9m、短径1.9mを測る。検出面から床面までの最大深度は22cm。

第58図421は甕の頸～胴部。頸部に強い稜をもつ。

58号土坑（S C 5 8 : 第57・58図）



第63図
SD01・03・04実測図及び土層断面図

S C 5 8 は A - X - a 区で検出した。S D 0 4 の北側にある。方向軸は N 20° W で、長径 2.76m、短径 1.4m を測る。楕円状を呈する。検出面から床面までの最大深度は 30cm。

第 58 図 422 ~ 425 が出土遺物である。422 ~ 424 は壺の口縁部。422・423 は胎土中にキンウンモを含む。424 は口径 25.4cm を測り、口縁下に 1 条の刻目突帯をもつ。下城式系か。425 は壺の脚部である。

59号土坑 (S C 5 9 : 第 59・62 図)

S C 5 9 は A - X - b 区で検出した。S D 0 4 の北側にあり、楕円状を呈する。方向軸は N 20° E で、長径 0.85m、短径 0.76m を測る。検出面から床面までの最大深度は 18cm。

第 62 図 445 は壺の口縁部。

60号土坑 (S C 6 0 : 第 59・62 図)

S C 6 0 は A - VI - a・b 区で検出した。S D 0 5 の北側にある。方円状を呈し、方向軸は N 60° E で、長径 2.82m、短径 1.5m を測る。検出面から床面までの最大深度は 28cm とやや深い。

第 62 図 446 は上げ底の壺底部で、底径は 6.2cm。

61号土坑 (S C 6 1 : 第 59・62 図)

S C 6 1 は A - IX - a 区で検出した。方向軸は N 85° E で、長径 1.74m、短径 0.75m を測る。検出面から床面までの最大深度は 25cm。形状は方円状である。

第 62 図 447 ~ 450 が出土遺物である。447 は壺の口縁部。口唇部の突帯は肥厚ぎみ。胎土中にキンウンモを含み、口径 33.2cm を測る。448 は壺の肩部。3 条の突帯をもつ。449 は壺の口縁部である。口縁はやや内傾し、3 条の突帯がある。450 は壺の口縁～胴部。2 条の突帯がある。

62号土坑 (S C 6 2 : 第 59・62 図)

S C 6 2 は A - IX - c 区で検出した。S D 0 4 に北接している。中央には土層観察用のベルトがある。方向軸は N 70° E で、長径 2.8m、短径 1.57m を測る。方円状を呈する。検出面から床面までの最大深度は 35cm と深い。

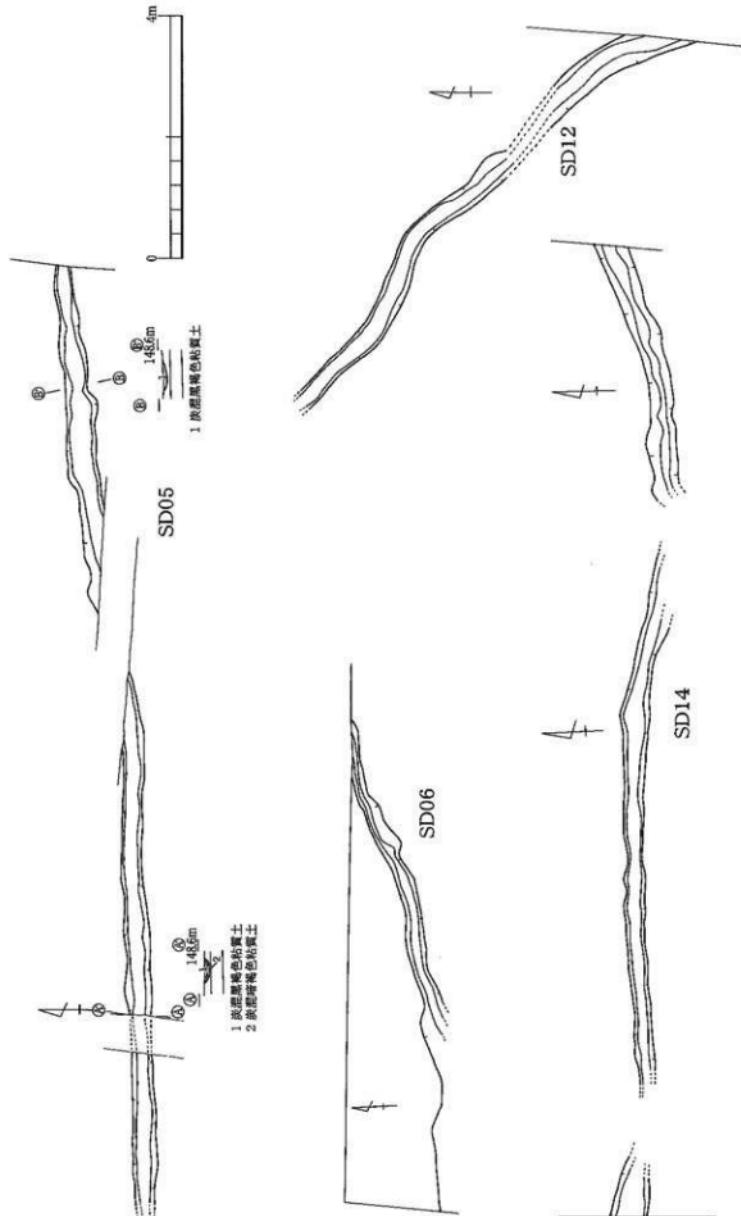
第 62 図 451・452 は壺の口縁部。

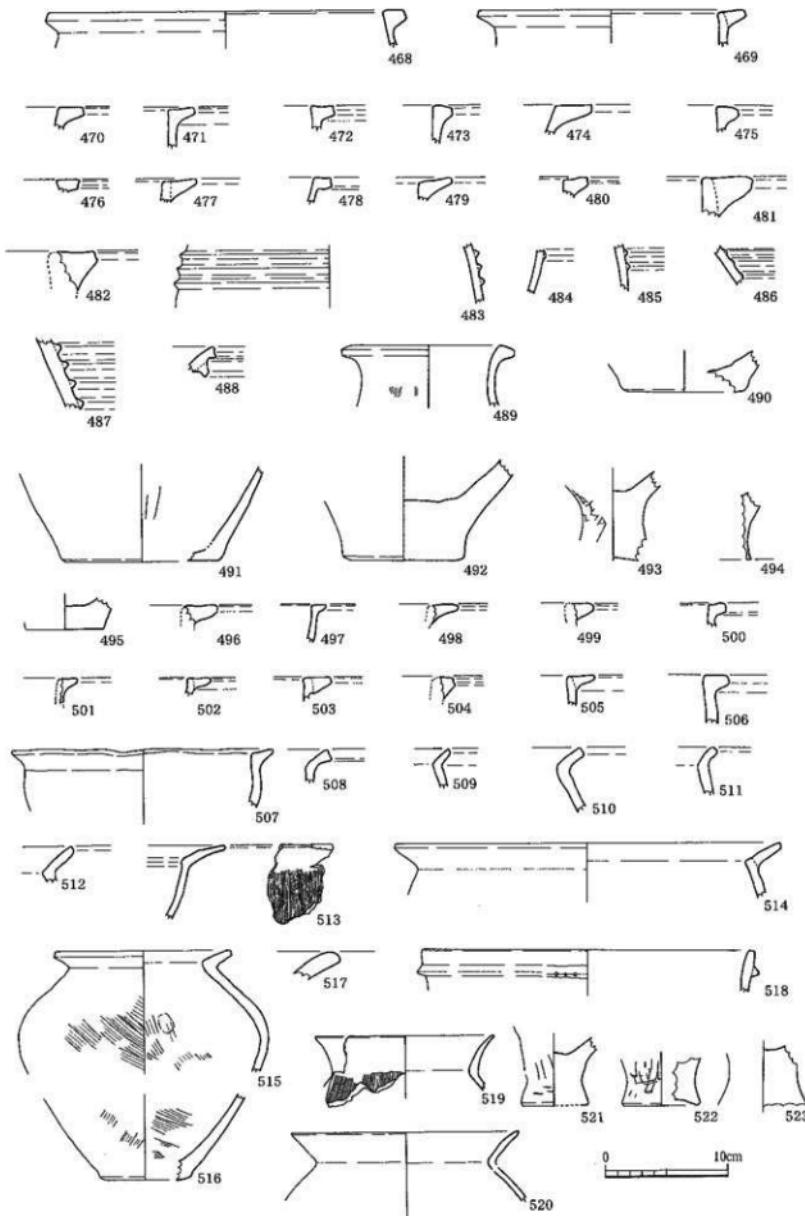
63号土坑 (S C 6 3 : 第 59・60 図)

S C 6 3 は B - II - c 区で検出した。楕円状を呈し、方向軸は S 40° E で、長径 2.4m、短径 1.72m を測る。検出面から床面までの最大深度は 50cm と非常に深い。西側はテラス状を呈している。

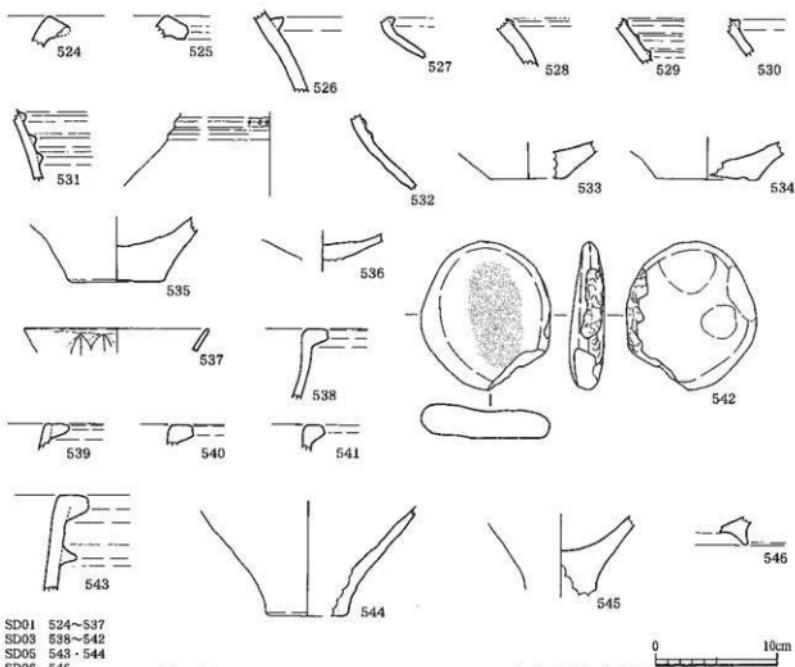
出土遺物は第 60 図 426 ~ 444 である。426 は口径 31.2cm を測る壺の口縁部で、胎土にキンウンモを含む。M 字状の口唇部突帯は、肥厚している。427 は壺の口縁～胴部。口縁がやや内傾している。口径 28cm。428 も壺口縁～胴部。口径は 23.8cm。429 は壺口縁部。430 は壺口縁～胴部。口径は 33cm。口唇部の突帯は器壁がやや薄い。口縁下に 1 条の刻目突帯をもち、スヌがみられる。胴部は張り出しが弱い。431 は胎土にキンウンモを含む壺の口縁部である。口径は 13.2cm を測る。432 は口縁部。433 は壺の肩部で、突帯がある。434 は鉢形か。口縁～胴部。口縁下に刻目突帯がある。外器面にはミガキがみられ、口径は 26.2cm を測る。435・436 は壺底部。435 は胎土にキンウンモを含む。底径は 435 が 8cm、436 が 7.9cm。437 は底径 6.4cm を測る底部。438 は壺の底部。底径 6.9cm を測り、内器面にはスヌが付着している。439 は底部付近。440・441 は壺の底部。底径 440 が 7.2cm、441 が 8cm を測る。440 には内器面にスヌあり。442・443 は壺の底部か。底径 442 が 9.7cm、443 が 8.9cm を測る。444 は底径 6cm を測る底部。

第64圖 SD05・06・12・14測溝及U層斷面圖





第65図 SD01内出土遺物実測図



第66図 SD 01・03・05・06・14 内出土遺物実測図

64号土坑 (SC 64 : 第59・62図)

SC 64はB-V-d区で検出した。方向軸はN85° Eで、長径1.4m、短径0.9mを測る。検出面から床面までの最大深度は40cmと深い。楕円状を呈する。

第62図453・454は甕の口縁部。口径は453が24.6cm、454が15.6cm。

65号土坑 (SC 65 : 第59・62図)

SC 65はA-VI-b区で検出した。方向軸がN65° Eの不定型である。長径2.15m、短径0.52mを測る。検出面から床面までの最大深度は22cm。

第62図455は甕の肩部か。

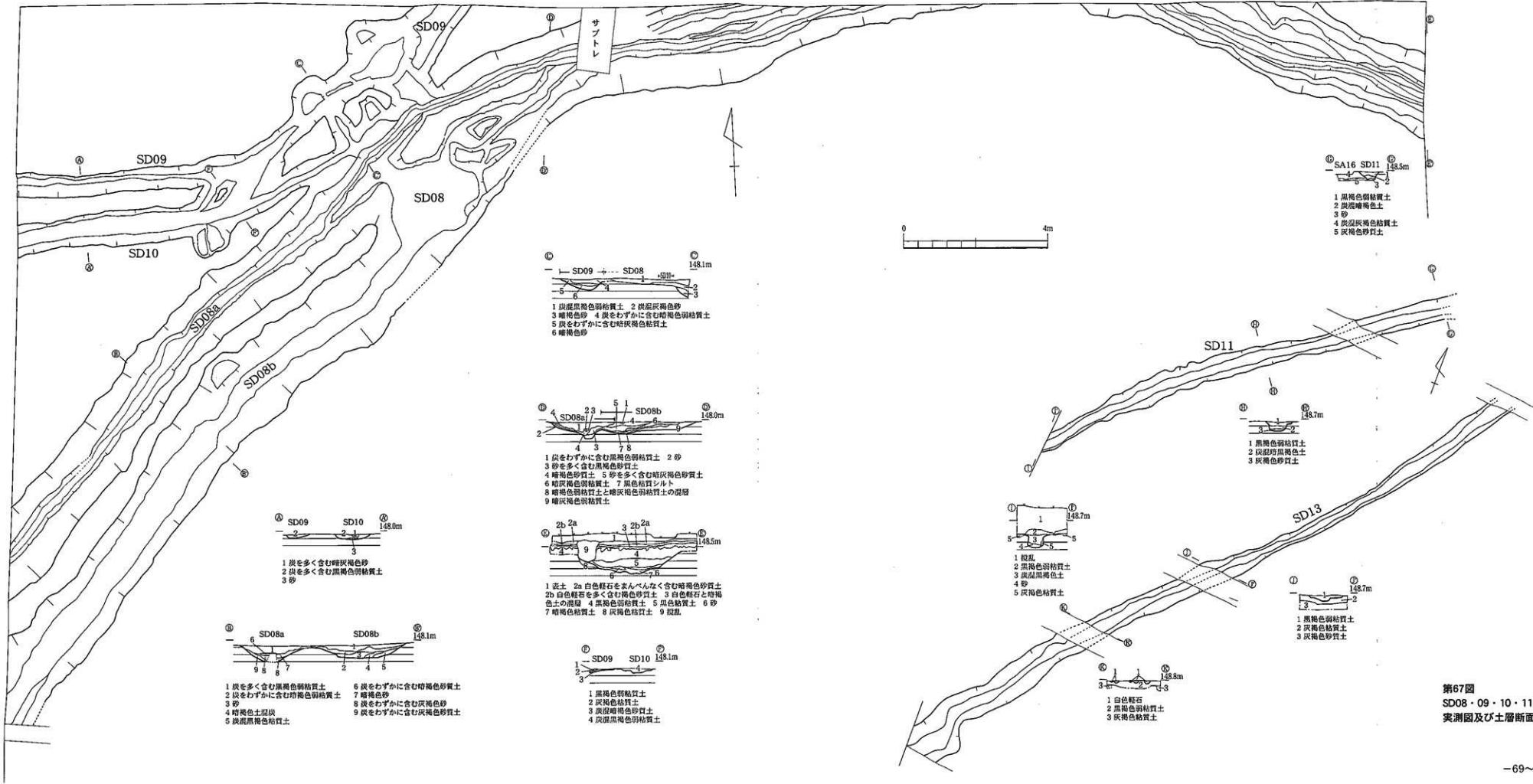
66号土坑 (SC 66 : 第59図)

SC 66はA-IX-b区で検出した。方向軸はN5° Wで、長径1.1m、短径0.45mを測る。検出面から床面までの最大深度は15cm。

67号土坑 (SC 67 : 第59・62図)

SC 67はA-IX-c区で検出した。北側半分のみ検出した。南側は近年の排水溝によって破壊されている。方向軸はN10° Wで、検出面から床面までの最大深度は20cm。楕円状を呈する。

第62図456～464が出土遺物である。456～459は甕の口縁部。全て突芯をもち、胎土にキンウンモを含む。457・459は大甕か。459の口径は48cm。460は底部付近。461は胎土にキンウンモを含む底部。



第67図
SD08・09・10・11・12
実測図及び土層断面図

底径は6.8cm。462は壺の口縁～胴部。口縁下に3条の突帯をもち、口径は32.2cmを測る。463は突帯を付す壺の口縁部。形状は462と近似している。口径は25.8cm。464は壺の口縁部。胎土にキンウンモを含み、外器面にハケメがみられる。口径は21.1cm。

68号土坑（S C 6 8 : 第61図）

S C 6 8 はA-VI-c区で検出した。方向軸はN15° Eで、長径1.1m、短径0.65mを測る。検出面から床面までの最大深度は14cm。

70号土坑（S C 7 0 : 第61図）

S C 7 0 はA-IX-c区で検出した。方向軸はN10° Wで、長径1.5m、短径0.97mを測る。検出面から床面までの最大深度は12cm。

72号土坑（S C 7 2 : 第61図）

S C 7 2 はB-IX-b区で検出した。方向軸はN10° Wで、長径0.8m、短径0.6mを測る。検出面から床面までの最大深度は10cm。

73号土坑（S C 7 3 : 第61図）

S C 7 3 はB-IX-b区で検出した。S C 7 2 の東側に位置する。方向軸はN20° Eで、長径0.9m、短径0.67mを測る。楕円状である。検出面から床面までの最大深度は10cmを測る。

75号土坑（S C 7 5 : 第61図）

S C 7 5 はB-V-b区で検出した。楕円状を呈し、方向軸はN5° Wで、長径1.14m、短径0.87mを測る。検出面から床面までの最大深度は6cmと浅い。

76号土坑（S C 7 6 : 第61・62図）

S C 7 6 はB-IX-b区、SD 0 1 の西側で検出した。方向軸はN55° Eで、長径2.55m、短径1.25mを測る。検出面から床面までの最大深度は15cm。

第62図465～467が出土遺物である。465は胴部。胎土中にキンウンモを含み、突帯をもつ。466は口縁部。胎土にはキンウンモあり。467は軽石製。

77号土坑（S C 7 7 : 第61図）

S C 7 7 はC-IV-a・c区で検出した。楕円形で方向軸はN35° Wである。長径が1.22m、短径が0.57mである。検出面から床面までの最大深度は7cmと浅い。

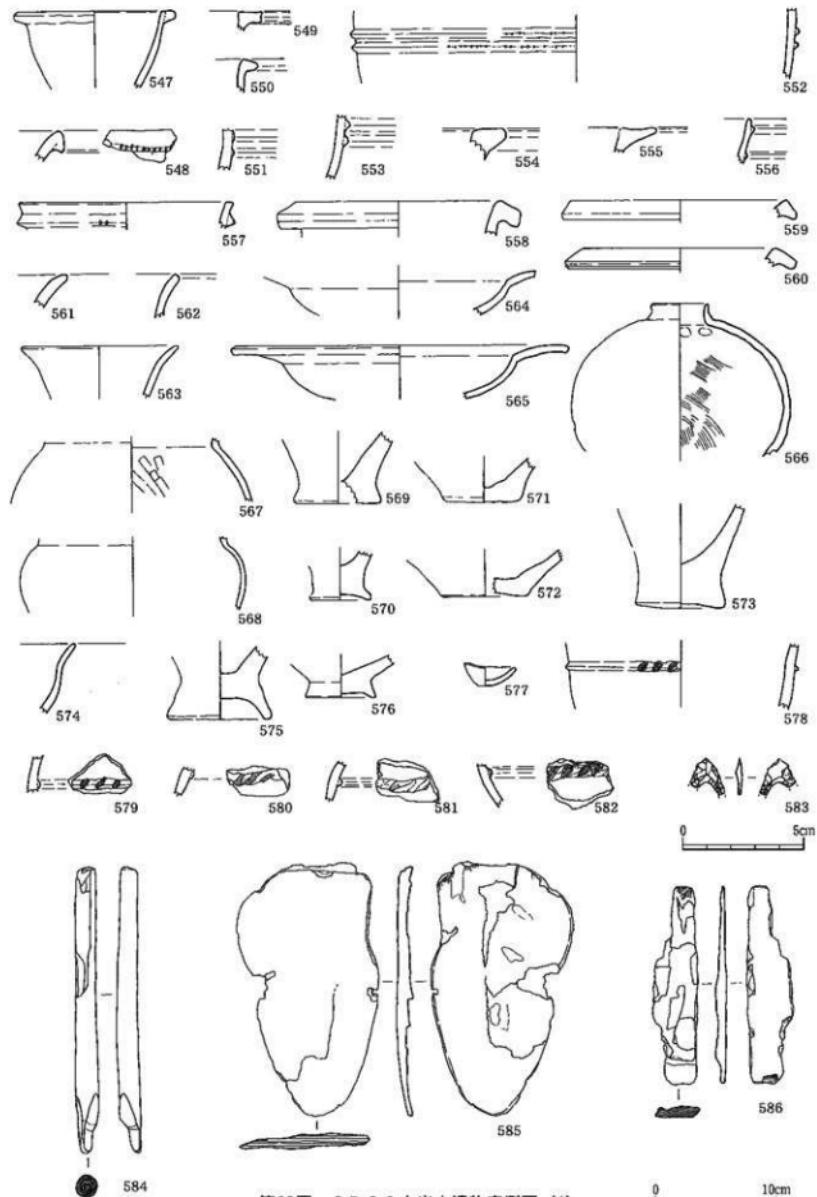
79号土坑（S C 7 9 : 第61図）

S C 7 9 はA-VI-a区で検出した。S C 6 0 の北側にある。ほぼ円形状を呈する。方向軸はS5° Eで、長径1.07m、短径0.98mを測る。検出面から床面までの最大深度は27cmとやや深い。

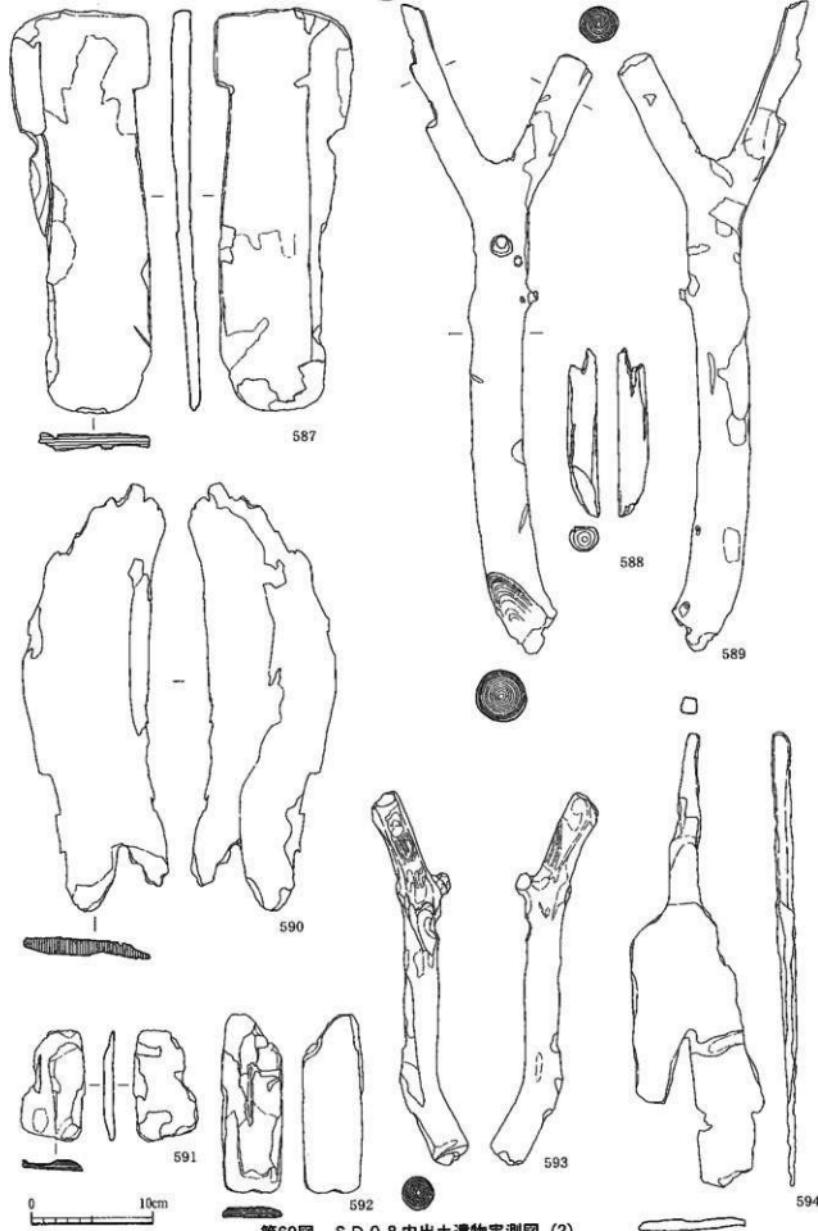
80号土坑（S C 8 0 : 第61図）

S C 8 0 はA-VIII-d区で検出した。S C 6 2 の西側にあたる。方向軸はN65° Eで、長径1.47、短径0.35mを測る。検出面から床面までの最大深度は10cm。

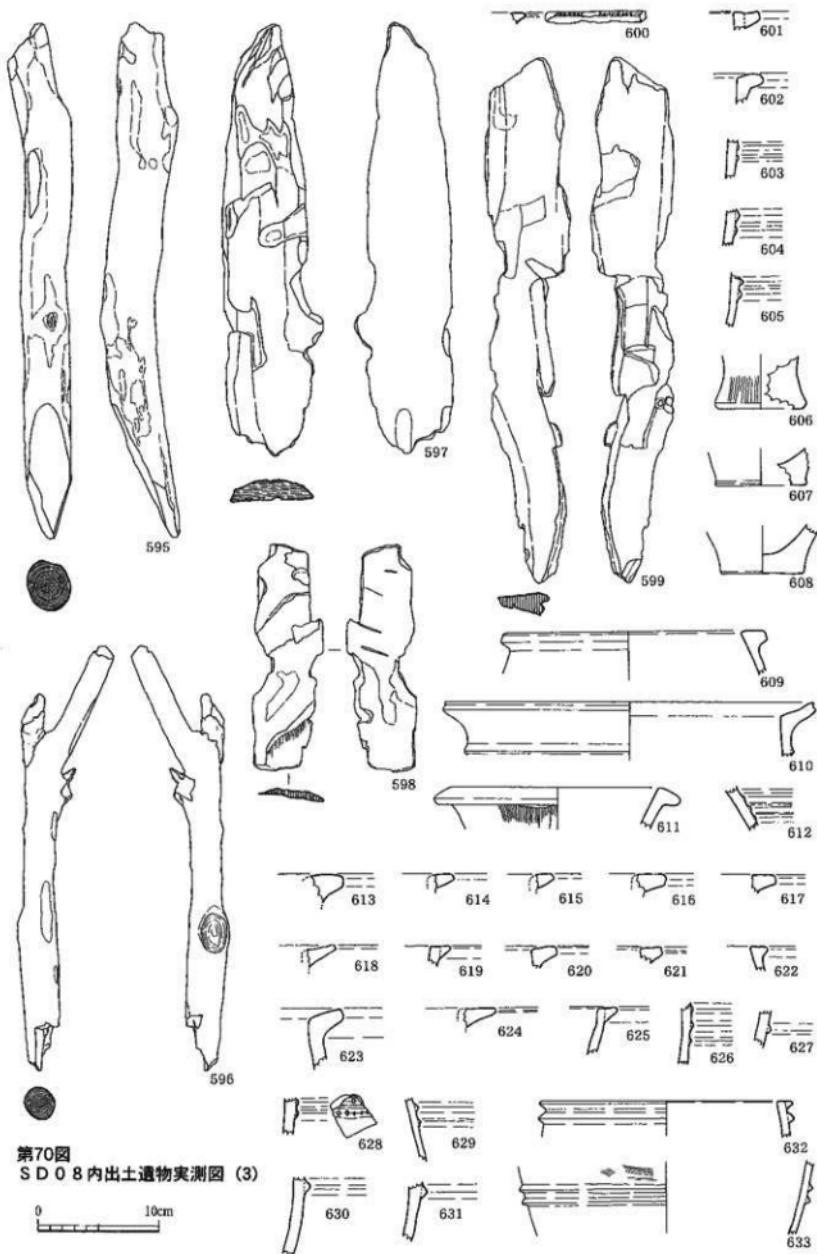
81号土坑（S C 8 1 : 第61図）



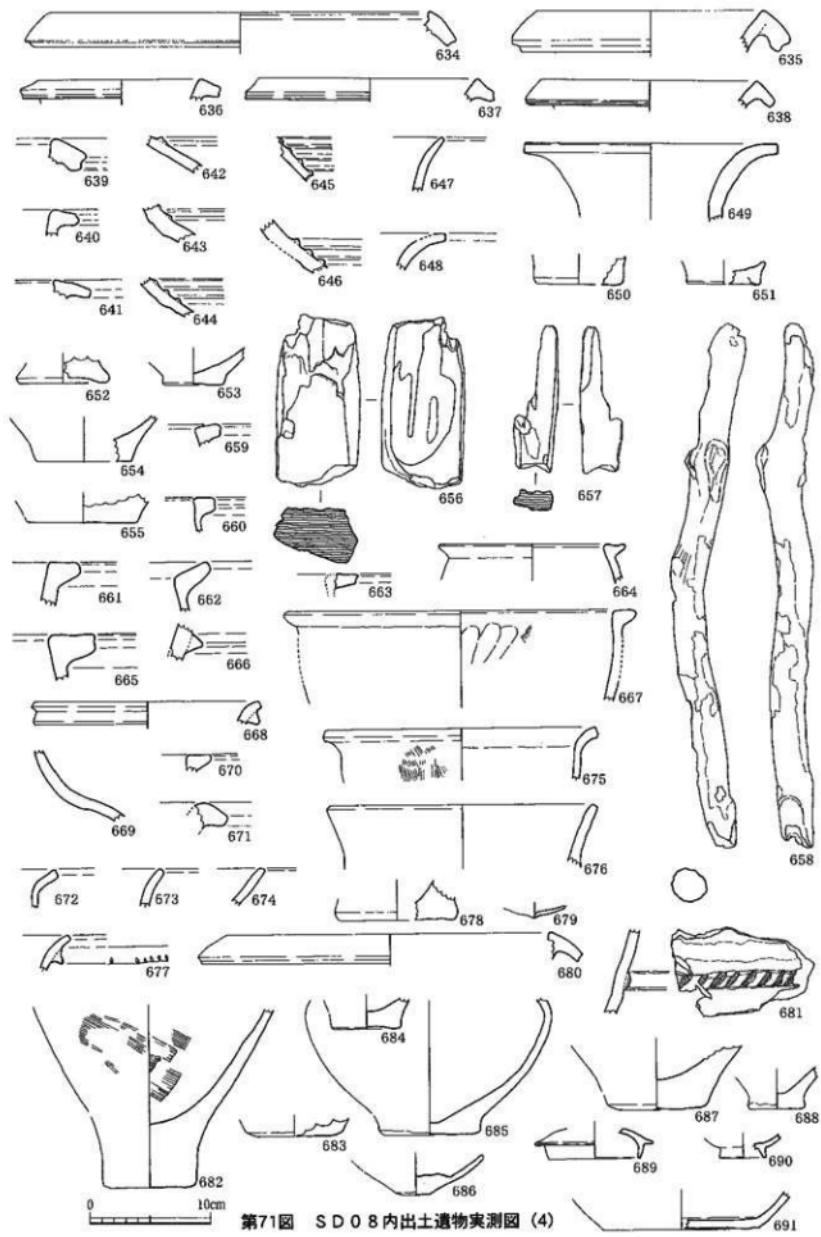
第68図 SD 08 内出土遺物実測図 (1)



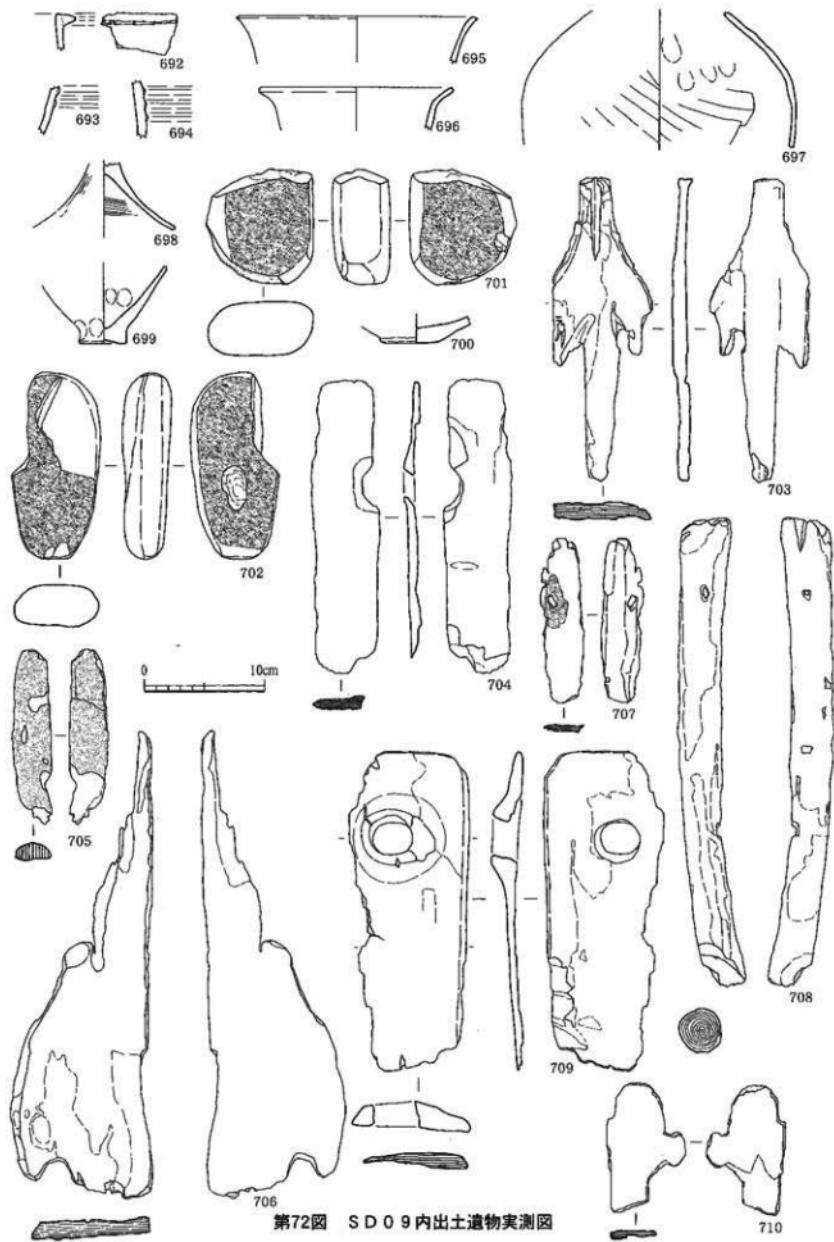
第69圖 SD08 内出土遺物実測図 (2)



第70図
SD 08 内出土遺物実測図 (3)



第71図 SD08 内出土遺物実測図(4)



第72図 SD 09 内出土遺物実測図

S C 8 1はB-V-b区で検出した。S D 0 1の東側にある。方形を呈し、方向軸はN60° Eである。長径が1.38m、短径が0.78mである。検出面から床面までの最大深度は33cmを測る。

82号土坑（S C 8 2：第61図）

S C 8 2はB-V-e区で検出した。B区西壁際である。舟形を呈し、方向軸はN40° Eである。長径0.98m、短径0.48mを測る。検出面から床面までの最大深度は20cm。

【溝状遺構】

1号溝状遺構（S D 0 1：第63・65・66図）

S D 0 1はB調査区の西側を北西-南東の方向軸で延びる。B-I-e区からB-X-c-d区にかけて位置する。最大の幅員は約2.6m、検出面からの最大深度は0.7mを測る。断面形態はV字状を呈するが、最下部は若干箱形になっている。最下部には砂の堆積もみられ、水生作用のあった可能性を示唆している。方向や幅員の状況から、A区北側を弓形状に走るS D 0 8との関連性を想定し、A区の西側に2つのトレーニチを新たに設定し、走向確認を行ったところ、S D 0 1と0 8は少なくとも重なり合っていることがわかる。

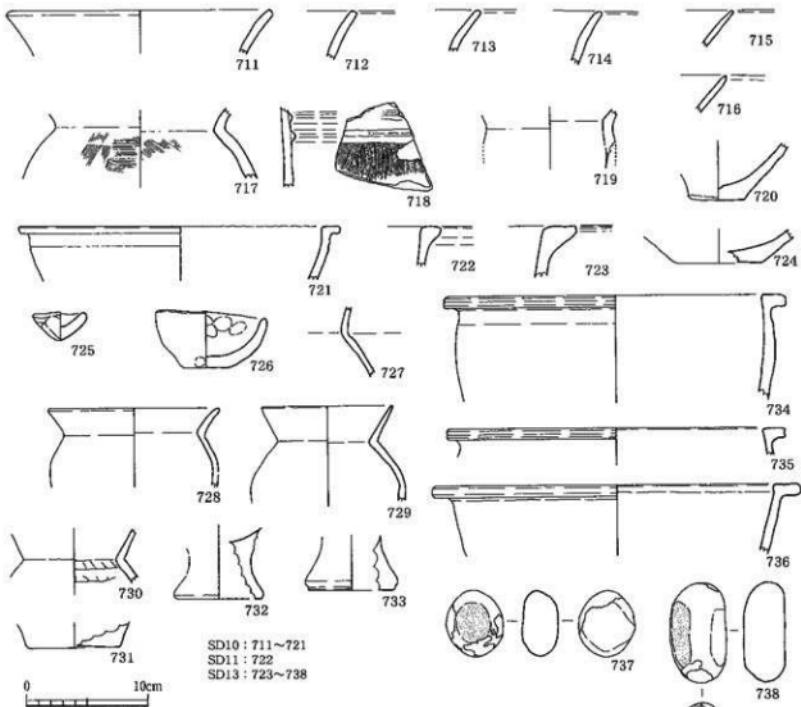
出土遺物を第65・66図468～537に示した。468～472は甕の口縁部。胎土にはキンウンモが含まれる。口径は468が129.8cm、469が22.2cmを測る。473は甕の口縁部か。キンウンモが胎土中にある。474は甕の口縁部。外器面にススが付着している。胎土にはキンウンモあり。475は甕の口縁部か。胎土にキンウンモあり。476～482は甕の口縁部。胎土中にはキンウンモあり。481・482は大甕か。483～486は胴部。突帯をもち、胎土にキンウンモを含む。483は外器面にススがみられる。487は大甕の胴部か。胎土にキンウンモを含み、突帯を付す。488は複合口縁甕の口縁部。胎土にキンウンモを含む。489は甕口縁部。口径14.4cmを測り、胎土にキンウンモあり。外器面にハケメ調整がみられる。490～495は底部。胎土中にはキンウンモが含まれる。底径は490が10cm、491が12.4cm、492が10cm、495が6.4cmを測る。493・494は甕。495は外器面にススあり。496～503、505～508、510～512、514は甕の口縁部である。500は外器面にススが付着している。505は内外の磨耗が激しい。508・511は外器面にススあり。口径は507が21.6cm、514が31.8cm。504は甕の口縁部か。509の口縁部は内外の磨耗が激しい。513の口縁部は器形が明確でない。515は甕の口縁部。内外とともにハケメがみられる。口径は14.7cmを測る。516の甕底部は底径7.4cm。515と同一か。517は口縁部。518は甕の口縁部で、口縁下に1条の刻目突帯を有する。口径は27.4cm。下城式系の型式と思われる。519・520は甕口縁部。口径は519が14.8cm、520が18.8cm。521・522は甕底部。底径は521が5.8cm、522が6.4cmを測る。523は甕脚部。524・525は甕口縁部。526は突帯をもつ胴部。527は甕の頭部か。突帯あり。528～531は胴部。突帯をもつ。529は外器面にススあり。532は甕の頭部である。刻目突帯をもつ。内外とともに磨耗している。533～535は底部。533・534は磨耗している。底径は533が5.6cm、534が8.5cm、535が7.3cmを測る。536は高坏脚部。537は青磁碗の口縁部。口径15.3cmを測る鍋蓮弁文碗である。

2号溝状遺構（S D 0 2）

S D 0 2は、B調査区のやや南側を横断している。時期的には新しいものと思われ、少なくとも中世水田跡の形成より早いことはないであろう。ほとんど面的に捉えられない状況であり、B-VI-a区においてS D 0 3と重なり合う部分のみが確認できている。

3号溝状遺構（S D 0 3：第63・66図）

S D 0 3はB調査区の南東部、B-VI-b区からB-XI-d区にかけて検出した。南西-北東方向に向いている。C調査区のS D 1 1とつながっている。幅員は70cmほど、検出面からの深度は40cm弱を



第73図 SD 10・11・13内出土遺物実測図

測る。

第66図538～542が出土遺物である。538～541は甕の口縁部。538・540・541は胎土中にキンウンモを含む。542は擦石か。

4号溝状遺構 (SD 04 : 第63図)

SD 04は、A調査区の南側、A-X-b区からB-II-a区で確認した。東西に延びており、幅員は30cm、検出面からの深度は10cmを測る。B調査区のSD 06とつながると思われる。SA 04とも切り合っているが、断面観察により、SA 04→SD 04の時期差があるものと思われる。

5号溝状遺構 (SD 05 : 第64・66図)

A-III-b区からA-XI-a・b区で確認したSD 05は、幅員が40cm、深度が約10cmである。一部排水溝によって破壊されている。

第66図543・544が出土遺物である。543は大甕の口縁部か。口縁下に1条突帯がある。胎土中にはキンウンモを含む。544は底径6.8cmを含む底部。

6号溝状遺構 (SD 06 : 第64・66図)

SD 0 6はB調査区の北端、B-I-b区で検出した。A調査区のSD 0 4とつながると思われる。幅員は30cm強を測る。

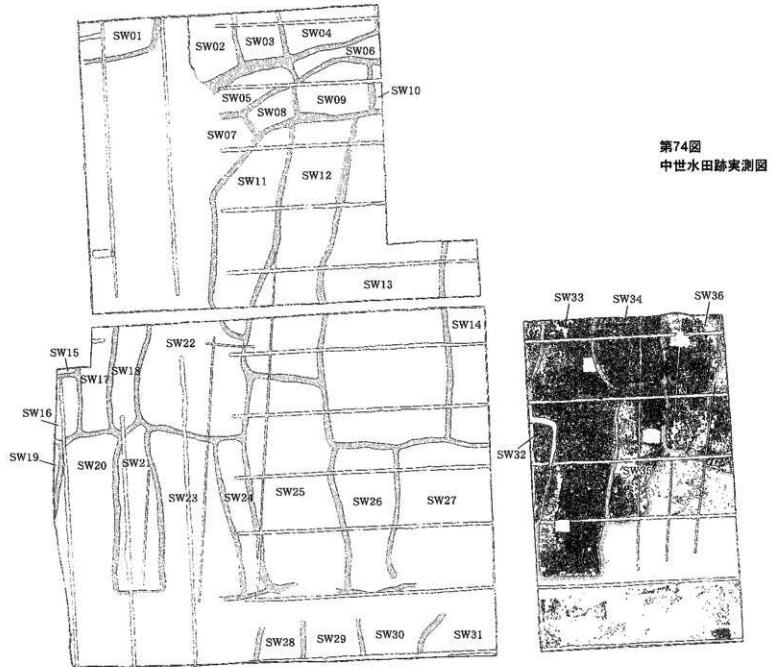
第66図545は脚部。剥落が激しい。

8号溝状遺構 (SD 0 8 : 第67~71図)

SD 0 8はA-III-b区からA-IV-c区にかけて検出した。A調査区の北側を弓形上に走向する。幅員は4m強ある。検出面からの最大深度は60cm。SD 0 9・10とも切り合っている。断面観察から、SD 0 9→SD 0 8→SD 1 0の時期差をみることができる。SD 0 8の広がりは、東西に設定したトレンチで追うことができる。特に西側では、SD 0 1とつながる可能性がある。SD 0 8自体も2つの溝が重なり合ったものであり、ここで、北側をSD 0 8a、南側をSD 0 8bとすれば、断面観察から、SD 0 8b→SD 0 8aの時期差を見出せる。北東部分では重なりが大きく、ほぼ交錯したような状態となっている。

出土遺物は第68~71図547~691に示した。遺物の取り上げ時に確認した分類でいけば、0 8aが547~599、0 8bが600~658、659以降が0 8となる。547は壺の口縁~肩部。胎土中にキンウンモを含む。口径は13.4cm。548は壺の口縁部。胎土中にキンウンモを含み、口唇部には刻目突帯をもつ。549・550は胎土にキンウンモが混じる壺の口縁部である。551・552は肩部。胎土中にキンウンモを含んでおり、551は突帯、552は刻目突帯を有する。553は突帯あり。554~557は口縁部である。554・555・557は壺。556は口唇下に2条の突帯を付す。557は口径17.8cmを測る。口縁下に刻目突帯があり、下城式系の特徴ととらえられる。558~560は壺の口縁部。口径は558が20.2cm、559が19.4cm、560が19.2cmを測る。559は口唇部が大きく垂れ下がる。561~563は口縁部。564は高杯坏部。565は高杯口縁部。口径28.2cmを測る。566は短頸の壺。口径4.8cm。567・568は肩部。567は外器面にスヌあり。569~573は底部。569・570、573は甕か、570は上げ底状を呈する。底径は569が7.2cm、570が5.1cm、571が5.9cm、572が7cm、573が7.4cmを測る。574は高杯口縁部か。575・576は底部。底径は575が8.6cm、576が5.6cmを測る。577はミニチュア土器。口径4.1cm、底径1cm、器高1.55~1.9cmを測る。578~582には全て絡縛突帯がある。583は石鑿。584~599は木製品。584は杭か。585~593は不明。594は三ツ鉢。595は杭か。600~602は甕の口縁部。胎土中にキンウンモが含まれており、600には刻目突帯がある。603~605は突帯のある肩部。胎土中にキンウンモもあり。606~608は底部。胎土中にキンウンモを含む。606は甕か。底径は606が6.8cm、607が7.2cm、608が6.6cmを測る。609・610は甕の口縁部。609は口縁が内傾している。胎土中にキンウンモもあり。口径は609が22cm、610が30.6cmを測る。611は胎土中にキンウンモを含む壺の口縁部。外器面にハケメ調整あり。口径は20.3cm。612は突帯をもつ。613~625は甕の口縁部。619・625は外器面にスヌの付着がみられる。622は内外ともに磨耗が激しい。626~631・633は肩部。全て突帯をもつが、628は刻目である。632は口縁と口唇下に突帯をもち、口径は21cmを測る。634は壺の口縁部で、口径35.6cmである。635~641は甕の口縁部。口径は635が23cm、636が16.5cm、637が20.5cm、638が20.6cmを測る。642は壺の頸部か。643・645は突帯のある壺の肩部。645の肩部は突帯あり。646の壺肩部も突帯あり。647は口縁部。648・649は壺口縁部。650~655は底部。652は甕。底径は650が6.6cm、651が6cm、652が7cm、653が5cm、654が7.6cm、655が9cmを測る。656~658は木製品。659~665・667は甕の口縁部。胎土中にキンウンモを含む。666は突帯をもち、胎土にキンウンモあり。665は大甕。664は口縁が内傾している。口径は667が29cm、664が15.5cm。668は複合口縁壺の口縁部か。胎土中にキンウンモあり。口径19cm。669の壺頸部は胎土にキンウンモあり。670は甕口縁部。671は壺口縁部。672は口縁部。673は甕口縁部。674は口縁部。675は口径25.4cmを測る甕口縁部。676の甕口縁部は外器面にスヌの付着がみられる。口径は22.4cm。677の甕口縁部は口縁下に刻目突帯がある。678の底部は10.1cmを測り、外器面にスヌがみられる。679はミニチュア土器と思われる。680の甕口縁部は口径31.7cmを測る。

N



第74図
中世水田跡実測図

アミかけは咲野

口唇部が外方へ垂れ下がる。681の胸部は絡繆突帯をもち、外器面にススが付着している。682～688は底部。底径は682・683が7.8cmを測る。684の底部は磨耗が激しい。胎土にキンウンモあり。底径は5.8cm。685は壺の底部。底径8.4cmで、外器面にススあり。底径は686が2.3cm、687が8.3cm、688が4.2cmを測る。689～691は陶器。サツマ系と思われる。689はチョカの蓋。690は瓶の底部で、内器面には蛇ノ目釉剥ぎが残る。691は底部。

9号溝状遺構 (SD 09 : 第67・72図)

SD 09はA-II-a区からA-IV-a区にあり、SD 08・10と切り合っている。断面観察から、SD 09→SD 08→SD 10の時期差が確認できる。幅員は60cm、検出面からの深度は10cmである。砂溜り状の土坑のような部分には、夥しい木片とともに、鉢片などの木製品もみられた。

第72図692～710が出土遺物である。692は壺の口縁部で、胎土中にキンウンモが含まれ、口唇部には刻目がある。693・694は突帯をもつ胸部。胎土にキンウンモがある。695は口縁部か。口径20cm。696は口縁部。口径16cm。697は壺胸部。698は高环脚部。699・700は底部。底径は699が4cm、700が4.7cmを測る。701・702は擦石。703～710は木製品。703は三ッ鉢片。704は鉢片。708は杭か。709は鉢片。

10号溝状遺構 (SD 10 : 第67・73図)

SD 10はSD 09の南側にあり、SD 08・09と切り合っている。SD 09→SD 08→SD 10の時期差あり。幅員は1m弱、検出面からの深度は40cmである。

出土遺物は第73図の711～721である。711～716は口縁部。717は壺頸部か。718の胸部は突帯をもち、胎土にはキンウンモがある。719は壺頸部か。720は底径4.7cmの底部。721はサツマ系と思われる壺の口縁部である。

11号溝状遺構 (SD 11 : 第67・73図)

SD 11はC-I-c区からC-I-b区で確認している。走向はSD 03と同じである。幅員は70cm、検出面からの深度は40cmを測る。

第73図722は胎土中にキンウンモを含む壺の口縁部である。

12号溝状遺構 (SD 12 : 第64図)

SD 12はC-II-c区からC-IV-b区で検出した。幅員は50cm。

13号溝状遺構 (SD 13 : 第67・73図)

SD 13はC-I-b区からC-III-a区にかけて確認した。幅員90cm、深度20cm弱を測る。

出土遺物を第73図723～738に示した。724の底部は底径7cm。内外ともに磨耗している。723・734～736は壺の口縁部。734・735は胎土中にキンウンモを含む。口径は734が28.2cm、735が28cm、736が30.5cmを測る。725はミニチュア土器。口径4.5cm、器高2.2～2.3cmを測る。726は口径9cm、底径3.7cm、器高4.1～4.8cm。727は壺頸部。728は壺の口縁部か。口径14cm。729は壺の口縁部で、口径10.8cm。輪積痕が残る。730は壺頸部。輪積痕が残る。731は底部。底径7.5cm。732・733は壺底部。底径は732が7.5cm、733が6.8cm。737・738は擦石。

14号溝状遺構 (SD 14 : 第64・66図)

SD 14はC-II-a区からC-VI-b区で確認した。幅員が30cm強。

第66図546は底部で、内器面は磨耗している。

【中世水田】

1~36号水田跡（SW01~36：第74図）

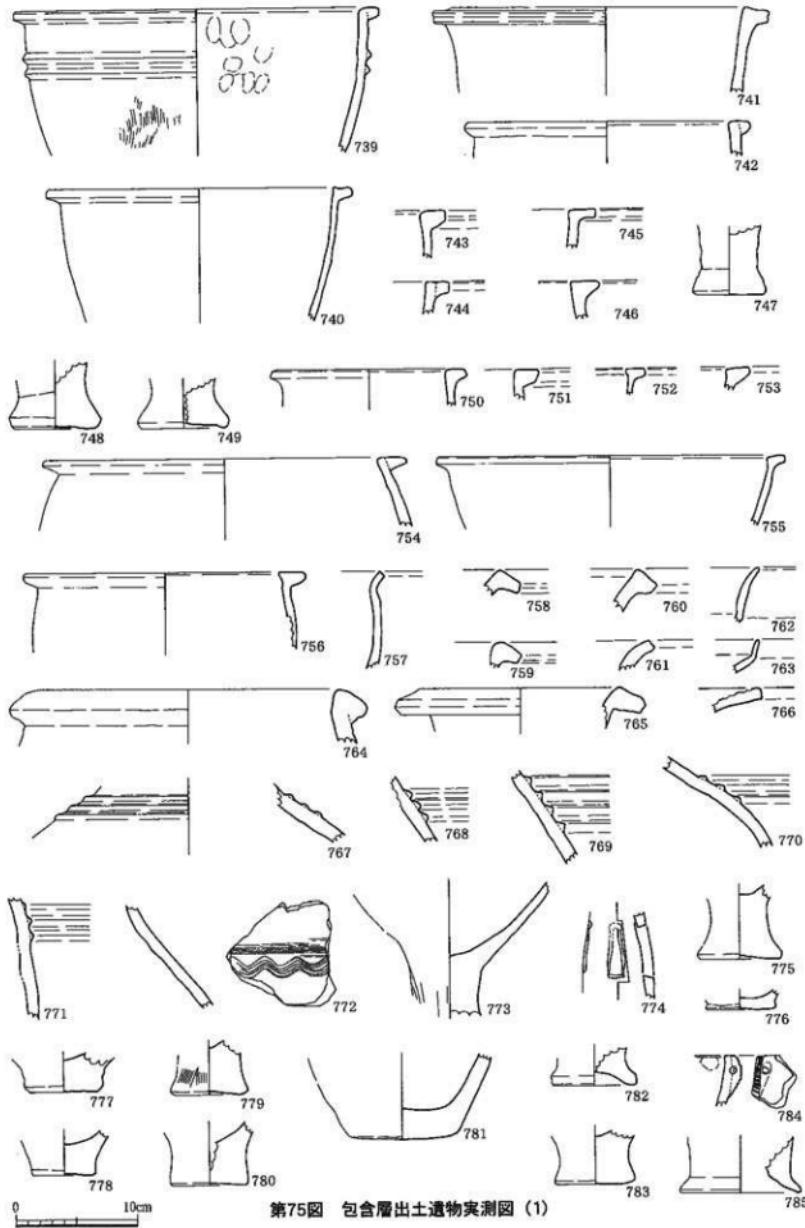
桜島噴出の軽石層上面において遺構確認を行ったところ、中世（約500~600年前）の水田を検出した。畦畔の幅は1m前後。水田の形状は南北に細長いものが多く、東側にいくほど区画面積が大きく、西側へは狭くなっている。地形的にも、東から西へ向けてわずかに傾斜しており、こうした区画構成は地形にも影響を受けていると考えられる。C区のSW32~36において、水田直上に10cm程度堆積していた桜島噴出軽石を除去すると、水田面におびただしい凹凸がみられた。現場での所見では、この凹凸は①人間の足跡、②家畜の足跡、③農耕具（鍬もしくは鋤）の痕跡にグルーピングできるのではないかと考えられる。これは市内横市地区における調査（鶴喰遺跡・肱穴遺跡など）と同様の状況である。

【包含層内出土遺物（第75・76図）】

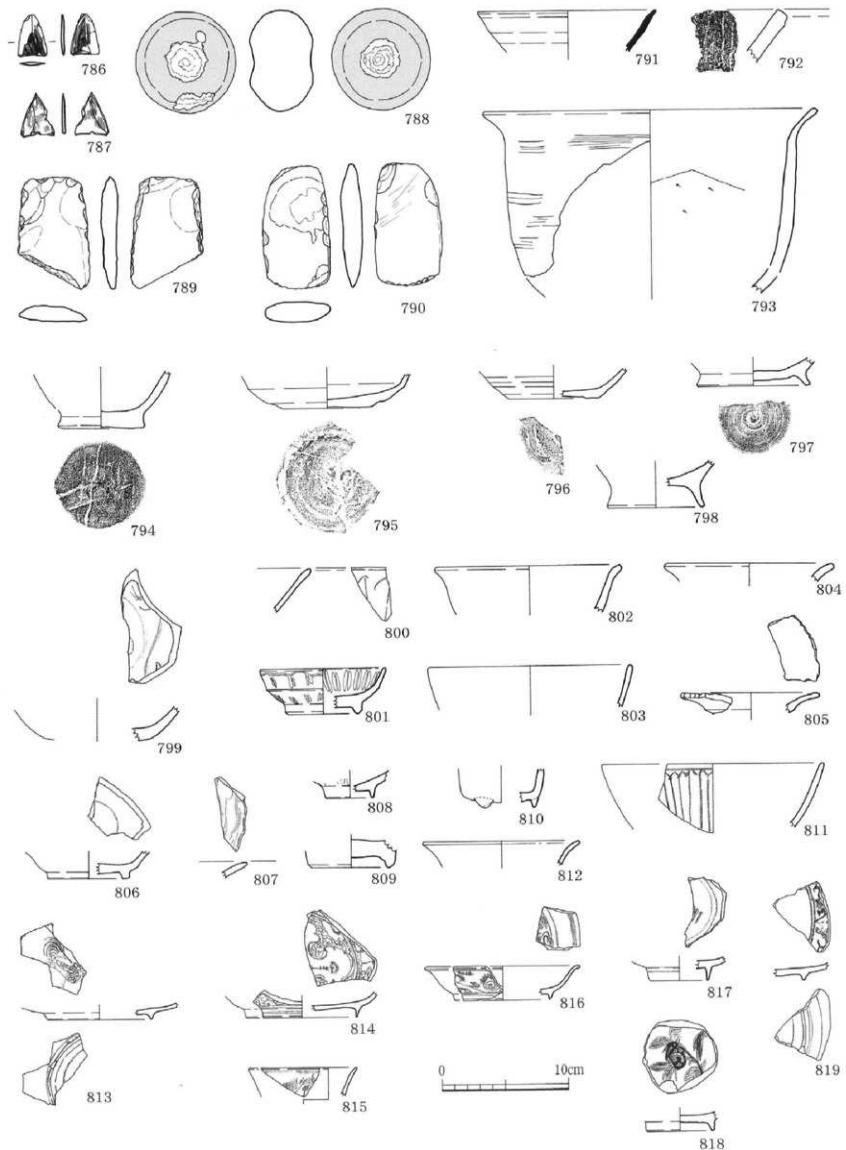
本遺跡内での遺物包含層は基本土層のIV・V層である。特にV層からの出土が主といえる。

包含層内出土遺物を第75・76図739以降に示した。

739~746は甕の口縁部である。全ての胎土にキンウンモが含まれる。739には突帯がある。746は外器面にススが付着する。口縁径は、739が30.2cm、740が25.4cm、741が27.9cm、742が23.6cmを測る。747~749は甕の底部。胎土にキンウンモがある。底部径は、747が6cm、748が7cm、749が7.2cmを測る。750~757は甕の口縁部。750にはキンウンモが含まれる。口縁径は、754が30cm、755が28.8cm、756が23.4cmである。758~760は壺の口縁部。761~763は口縁部である。764・765は壺の口縁部。口径は764が39.5cmで、765が20.8cm。766は口縁部。767は壺の頸部。768は壺の肩部。突帯をもつ。769は胴部で、胎土にキンウンモを含む。突帯がある。770は壺の肩部で、突帯がある。771の胴部は突帯をもつ。772の壺肩部は波状文がみられる。外器面にススあり。773は甕の脚部で、キンウンモがある。774は矢羽透をもつ高坏脚部である。775~783は底部。775は甕でキンウンモあり。776は内外にススがみられる。778はキンウンモがある。779は甕で、上げ底を呈する。780は上げ底気味である。783は甕で、外器面は磨耗している。底径は、775が7cm、776が5.8cm、777が6.6cm、778が5.3cm、779が5.4cm、780が6cm、781が9.9cm、782が7cm、783が5.3cmを測る。784は口縁部。口唇部には斜縫位に突帯があり、刻目が施され、穿孔がなされている。785は底部か。786・787は石鎚。788は敲石か。789・790は石斧。789は刃部が欠落し、790は磨耗が夥しい。791は須恵器坏の口縁部。792は布痕土器。793は甕。口径は26.7cm。794は土器師坏底部。底面に線刻がある。底径6.9cm。795・796は坏底部。底面はへら切り離してある。底径はともに7cmを測る。797は内黒坏の高台部で、底径9cmである。798は塊の底部か。底径は7.4cm。799~811は青磁である。799は碗の底部付近。劃画文がある。I類に相当。800は錦蓮弁文碗の口縁部。IIb類に相当する。801は小坏。口径10cm、底径3.2cm、器高3.6cmを測る。IV類、14世紀前半に比定される。802~804は碗の口縁部。IV類に相当。口径は802が15cm、803が16.3cm、804が13.4cmを測る。805は稜花皿の口縁部。15世紀後半頃か。口径11cm。806はIV類に相当する龍泉窯系碗の高台部。底径は6.5cm。807は稜花皿の口縁部。劃画文あり。15世紀後半頃か。808は錦蓮弁文を施す坏の底部。底径は3.8cm。III類に相当。809は龍泉窯系碗の底部である。IV期以降にある。底径は6cmを測る。810は香炉の底部。811は線描蓮弁文を施す碗の口縁部である。口径は17.6cmである。上田B類にあたる。812は白磁碗の口縁部。内器面口唇部は無釉で、いわゆる「口禿」である。口径は12.4cm。813~819は染付。813は景德鎮系皿の底部。底径は8cm。814は景德鎮系深皿の底部。底径は8.8cm。815は景德鎮系碗の口縁部。口径は8.6cmを測る。816は景德鎮系皿。口径12.4cm、底径7.8cm、器高2.75cmを測る。817は漳州窯系碗の底部。底径は4.6cm。見込みに「寿」あり。16世紀代の所産。818は漳州窯系の蓮子碗底部。16世紀代。底径は5.4cm。819は肥前系である。唐草文が施されている。18~19世紀か。



第75図 包含層出土遺物実測図(1)



第76図 包含層内出土遺物実測図（2）

第一表 出土遺物觀察表(1)

部品No.	種別	地区(都道府県)	地番	法 口徑(厘米)	底 底(厘米)	深 深(厘米)	廣 廣(厘米)	外 外(厘米)	圓 圓(厘米)	色		地 地(厘米)	土 土(厘米)	上 上(厘米)	備 備考
										内	面				
1	石器	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	61.41	ビーズ 黄色	
2	土器	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3mm以下の地物	41.00	奥口部底	
3	土器	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3mm以下の地物	41.04	口部底	
4	土器	S A 0 1	—	—	—	—	—	ナヂ	ナヂ	—	—	2mm以下Fの地物	41.02 - 41.03	底部	
5	土器	—	—	—	—	—	—	ナヂ	ナヂ	—	—	3mm以下Fの地物	41.03	底部	
6	石器	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	無
7	石器	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	無
8	土器	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3mm以下Fの地物	41.08	奥口部底	
9	土器	S A 0 2	—	—	—	—	—	ナヂ	ナヂ	—	—	1mm以下Fの地物	1.307	奥口部底	突起あり キンクンモ
10	土器	—	—	5.5	—	—	—	ナヂ	ナヂ	—	—	1mm以下Fの地物	—	—	無
11	土器	—	—	—	—	—	—	ナヂ	ナヂ	—	—	3mm以下Fの地物	44.27	奥口部底	
12	土器	—	—	—	—	—	—	ナヂ	ナヂ	—	—	2mm以下Fの地物	—	—	口部底 キンクンモ
13	土器	—	—	—	—	—	—	ハケ	ハケ	—	—	3mm以下Fの地物	36.74	底部 キンクンモ	
14	土器	—	—	—	—	—	—	ナヂ	ナヂ	—	—	3mm以下Fの地物	36.67	奥口部底 キンクンモ	
15	土器	—	—	—	—	—	—	ナヂ	ナヂ	—	—	2mm以下Fの地物	5.131	受压部 キンクンモ	
16	土器	—	—	—	—	—	—	ナヂ	ナヂ	—	—	1mm以下Fの地物	—	—	底部 キンクンモ
17	土器	—	—	—	—	—	—	ナヂ	ナヂ	—	—	3mm以下Fの地物	—	—	3mm以下Fの地物
18	土器	—	—	26.7~27.9	—	—	—	ナヂハケ	ナヂハケ	—	—	3mm以下Fの地物	—	—	3mm以下Fの地物
19	土器	—	—	—	—	—	—	ナヂ	ナヂ	—	—	3mm以下Fの地物	—	—	3mm以下Fの地物
20	土器	—	—	—	—	—	—	ハケ	ハケ	—	—	3mm以下Fの地物	36.69	奥口部底 キンクンモ	
21	土器	—	—	—	—	—	—	ナヂ	ナヂ	—	—	3mm以下Fの地物	—	—	3mm以下Fの地物
22	土器	—	—	—	—	—	—	ナヂ	ナヂ	—	—	3mm以下Fの地物	37.27	奥口部底 キンクンモ	
23	土器	S A 0 3	27	—	—	—	—	ナヂハケ	ナヂハケ	—	—	3mm以下Fの地物	—	—	3mm以下Fの地物
24	土器	—	—	20.9	—	—	—	ナヂハケ	ナヂハケ	—	—	3mm以下Fの地物	61.34	奥口部底 キンクンモ	
25	土器	—	—	28	—	—	—	ナヂハケ	ナヂハケ	—	—	3mm以下Fの地物	37.19	奥口部底 キンクンモ	
26	土器	—	—	23.6	—	—	—	ナヂ	ナヂ	—	—	3mm以下Fの地物	65.68	奥口部底 外斜	
27	土器	—	—	29.5	—	—	—	ナヂ	ナヂ	—	—	2mm以下Fの地物	37.05	奥口部底	
28	土器	—	—	25.4	—	—	—	ナヂハケ	ナヂハケ	—	—	4mm以下Fの地物	37.29 - 38.40 - 45.65	奥口部底 突起あり 外スコットヒゲ	
29	土器	—	—	23.8	—	—	—	ナヂ	ナヂ	—	—	5mm以下Fの地物	4.35	奥口部底 キンクンモ	
30	土器	—	—	25.4	—	—	—	ナヂ	ナヂ	—	—	2mm以下Fの地物	65.84	奥口部底	
31	土器	—	—	25.2	—	—	—	ナヂ	ナヂ	—	—	3mm以下Fの地物	37.07	奥口部底	
32	土器	—	—	—	—	—	—	ナヂ	ナヂ	—	—	—	37.09	奥口部底	
33	土器	—	—	21.2	—	—	—	ナヂ	ナヂ	—	—	4mm以下Fの地物	44.62	奥口部底	
34	土器	—	—	26	5.8	38.5	—	ナヂハケ	ナヂハケ	—	—	3mm以下Fの地物	65.62	奥口部底	
35	土器	—	—	—	7.3	—	—	ナヂ	ナヂ	—	—	3mm以下Fの地物	45.5 - 59.14	奥口部底	

第2表 出土遺物觀察表 (2)

種別	学名	外観				内観				性状		備考
		高	幅	厚	色	高	幅	厚	色	葉上部%	葉下部%	
細胞組織光鏡 S A 0 3	口器(頭部)	7.7	—	ナデ	—	口器(10YR8/2)	—	—	Immatureな部分	3723	早苗期	
	—	6.4	—	ナデ	ナデ	口器(10YR7/2)	—	—	Immatureな部分	444	質実部	
	—	7	—	ナデ	ナデ	口器(10YR8/3)	—	—	Immatureな部分	6403	早苗部	
	—	6.4	—	ナデ	ナデ	口器(10YR7/1)	—	—	Immatureな部分	3673	早苗部	
	—	6.2	—	ナデ	ナデ	口器(10YR7/3)	—	—	Immatureな部分	—	幼虫期	
	—	28.6	—	ナデ	ナデ	口器(10YR8/1)	—	—	Immatureな部分	3891	當口部	
	—	42	—	ナデ	ナデ	口器(2.5YR8/2)	—	—	Immatureな部分	—	當口部	
	—	7.9	—	ナデ	ナデ	口器(10YR8/2)	—	—	Immatureな部分	—	當口部	
	—	9	—	ナデ	ナデ	口器(10YR7/1)	—	—	Immatureな部分	—	當口部	
	—	7.6	—	ナデ	ナデ	口器(10YR8/2)	—	—	Immatureな部分	6554	當口部	
細胞組織光鏡 S A 0 4	口器(頭部)	26	—	ナデ	ナデ	口器(7.5YR8/3)	—	—	2mm以下の部分	23・26・36・38	供試部	キンクンヒ
	—	25	—	ナデ	ナデ	口器(7.5YR5/3)	—	—	2mm以下の部分	36・37	供試部	キンクンヒ
	—	28.6	—	ナデ	ナデ	口器(10YR5/3)	—	—	2mm以下の部分	4037	質口部	キンクンヒ
	—	20.3	—	ナデ	ナデ	口器(10YR8/3)	—	—	2mm以下の部分	235・4036	質口部	キンクンヒ
	—	50	—	ナデ	ナデ	口器(10YR6/3)	—	—	2mm以下の部分	6191	質口部	キンクンヒ
	—	61	—	ナデ	ナデ	口器(10YR5/3)	—	—	2mm以下の部分	4045	質口部	キンクンヒ
	—	52	—	ナデ	ナデ	口器(7.5YR7/3)	—	—	2mm以下の部分	2994	質口部	キンクンヒ
	—	53	—	ナデ	ナデ	口器(7.5YR7/4)	—	—	2mm以下の部分	18	質口部	キンクンヒ
	—	74	—	ナデ	ナデ	口器(7.5YR5/4)	—	—	2mm以下の部分	4037	質口部	キンクンヒ
	—	55	—	ナデ	ナデ	口器(7.5YR6/2)	—	—	2mm以下の部分	—	質口部	キンクンヒ
細胞組織光鏡 S A 0 5	口器(頭部)	—	—	ナデ	ナデ	口器(7.5YR6/4)	—	—	2mm以下の部分	4077	質口部	キンクンヒ
	—	56	—	ナデ	ナデ	口器(7.5YR6/4)	—	—	2mm以下の部分	—	質口部	キンクンヒ
	—	7.8	—	ナデ	ナデ	口器(7.5YR6/4)	—	—	2mm以下の部分	—	質口部	キンクンヒ
	—	7.8	—	ナデ	ナデ	口器(7.5YR7/2)	—	—	2mm以下の部分	6136	質口部	キンクンヒ
	—	5.8	—	ナデ	ナデ	口器(7.5YR6/4)	—	—	2mm以下の部分	6218	質口部	キンクンヒ
	—	—	—	ナデ	ナデ	口器(10YR7/2)	—	—	2mm以下の部分	6159	質口部	キンクンヒ
	—	17.4	—	ナデ	ナデ	口器(10YR8/3)	—	—	2mm以下の部分	5378	質口部	キンクンヒ
	—	25	—	ナデ	ナデ	口器(10YR7/2)	—	—	2mm以下の部分	—	質口部	キンクンヒ
	—	25.8	—	ナデ	ナデ	口器(10YR7/2)	—	—	2mm以下の部分	—	質口部	キンクンヒ
	—	41.2	—	ナデ	ナデ	口器(10YR7/2)	—	—	2mm以下の部分	—	質口部	キンクンヒ
細胞組織光鏡 S A 0 6	口器(頭部)	22.3	—	ナデ	ナデ	口器(10YR7/3)	—	—	2mm以下の部分	4070	質口部	キンクンヒ
	—	23.6	—	ナデ	ナデ	口器(10YR8/2)	—	—	2mm以下の部分	19・20・53630	大葉(1葉目)	キンクンヒ
	—	63	—	ナデ	ナデ	口器(10YR8/3)	—	—	2mm以下の部分	—	供試部	キンクンヒ
	—	64	—	ナデ	ナデ	口器(10YR8/3)	—	—	2mm以下の部分	3011	質口部	キンクンヒ
	—	65	—	ナデ	ナデ	口器(10YR7/2)	—	—	2mm以下の部分	—	質口部	キンクンヒ
	—	66	—	ナデ	ナデ	口器(7.5YR6/2)	—	—	2mm以下の部分	2988	質口部	キンクンヒ
	—	67	—	ナデ	ナデ	口器(10YR8/2)	—	—	2mm以下の部分	—	花柱	
	—	68	—	ナデ	ナデ	口器(10YR8/4)	—	—	2mm以下の部分	34	花柱	
	—	69	—	ナデ	ナデ	口器(10YR8/3)	—	—	2mm以下の部分	2970	花柱	
	—	24.2	—	ナデ	ナデ	口器(10YR8/3)	—	—	2mm以下の部分	—	花柱	

第3表 出土遺物観察表(3)

標印No.	組別	地区(遺跡名)	地層(層位)	地層(層位)	高さ	外寸	内寸	表面	施土	出土No.	備考	
											口幅(底幅)	底幅(底幅)
71	土器		21	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	4069	泥付高所施土?	
72	土器		—	8	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	2665・2697	施土部	
73	土器		—	8.0	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	2953	内施土	
74	土器	3.A.0.4	—	7.2	—	ナデハケ	ナデ	ナデハケ	ナデ	61.90	豊松原	
75	土器	—	—	8	—	ナデハケ	ナデ	ナデハケ	ナデ	61.97・594	裏面 施土	キクンモ
76	土器	—	—	7.2	—	ナデハケ	ナデ	ナデハケ	ナデ	2957	年輪	
77	土器	—	—	8	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	—	施土部	
78	石器	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
79	土器	—	11.4	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	5415	良口部	
80	土器	S.A.0.5	10.3	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	4338	裏口部	
81	土器	—	5.3	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	4839	裏口部	
82	土器	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	4138	裏口部 施土	キクンモ
83	土器	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	4194	豊口部	キクンモ
84	土器	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	4844	受口部	キクンモ
85	土器	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	4847	裏口部	キクンモ
86	土器	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	4845	裏口部	キクンモ
87	土器	—	—	6	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	4117	受口部	キクンモ
88	土器	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	1059	豊口部 施土	キクンモ
89	土器	—	26.8	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	4135	豊口部 施土	キクンモ
90	土器	S.A.0.6	20.8	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	4133	豊口部	キクンモ
91	土器	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	4116	豊口部	キクンモ
92	土器	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	5445	豊口部	キクンモ
93	土器	—	19.2	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	4112	豊口部	
94	土器	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	4144	豊口部	
95	土器	—	18.2	—	—	ナハ	ナハ	ナハ	ナハ	—	豊口部	
96	土器	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	4192	豊口部 施土	
97	土器	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	—	豊口部	
98	土器	—	7.2	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	—	豊口部	
99	土器	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	4305	豊口部	キクンモ
100	土器	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	940	豊口部	
101	土器	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	2816	受口部	
102	土器	S.A.0.7	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	—	豊口部	
103	土器	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	4256	受口部	
104	土器	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	939	豊口部	キクンモ
105	土器	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	—	—	

第4表 出土遺物観察表 (4)

No.	種別	出所(遺跡名)	地	外、面	内、面	色	地		土	地上部No.	備考
							高	幅			
106	土器		—	—	ナデ	にぶい・薄青 (10YR6/3)	にぶい・薄青 (10YR6/3)	3mm以下の鉢形	2308	口縁部	
107	土器		20	—	ナデ	にぶい・薄青 (10YR7/3)	薄青色 (10YR8/3)	ごく薄い小の鉢形	4318	質口部	
108	土器		24.8	—	ナデ	薄青色 (10YR8/4)	薄青色 (7.5YR8/3)	2mm以下鉢形	4273	質口部	
109	土器		30.2	—	ナデ	にぶい・薄青 (10YR7/4)	にぶい・薄青 (10YR7/4)	4276	質口部・鋸形		
110	土器		—	—	ナデ	—	にぶい・薄青 (10YR7/3)	3mm以下鉢形	920	鋸形・突起あり	
111	土器		—	—	ナデ	にぶい・薄青 (10YR7/3)	にぶい・薄青 (10YR7/3)	3mm以下鉢形	5509	後縁部・突起あり	
112	土器		7.5	—	ナデ	にぶい・薄青 (7.5YR7/3)	にぶい・薄青 (10YR7/3)	3mm以下鉢形	4232	後縁部	
113	土器		—	5	ナデ	淡青色 (10YR8/4) - 淡青色 (7.5YR7/2)	にぶい・薄青 (7.5YR7/4)	3mm以下鉢形	4283	後縁部	
114	土器		—	8.8	ナデ	にぶい・薄青 (7.5YR7/3)	にぶい・薄青 (7.5YR7/4)	3mm以下鉢形	4281 - 4333	後縁部	
115	土器		—	6	ナデ	ナデ	にぶい・薄青 (10YR7/3)	にぶい・薄青 (10YR7/3)	4287	底部	
116	土器		—	6.2	ナデ	ナデ	淡青色 (7.5YR8/4)	3mm以下鉢形	5607	後縁部	
117	土器		—	8.1	ナデ	ナデ	にぶい・薄青 (10YR5/3)	にぶい・薄青 (10YR5/3)	2313 - 4537	-柄	キンクンモ
118	土器		—	—	ナデ	—	—	—	534	横石	
119	土器		—	18.6	ナデ	淡青色 (7.5YR8/3)	灰白 (10YR8/2)	3mm以下鉢形	4231 - 4236	後縁部・底部	突起あり
120	土器		—	—	ナデ	淡青色 (7.5YR8/3)	灰白 (10YR8/2)	3mm以下鉢形	4503	後縁部	突起あり
121	土器		—	—	ナデ	—	にぶい・薄青 (10YR6/4)	3mm以下鉢形	4235 - 4236	後縁部	キンクンモ
122	土器		—	—	ナデ	—	—	—	2312	横石	
123	土器		—	—	ナデ	にぶい・薄青 (7.5YR5/4)	にぶい・薄青 (7.5YR5/2)	ごく薄い小の鉢形	4329	横石	
124	土器		35.2	—	ナデ	ナデ	にぶい・薄青 (7.5YR7/6)	にぶい・薄青 (7.5YR6/4)	4757 - 5514	質口部	キンクンモ
125	土器		—	—	ナデ	—	にぶい・薄青 (7.5YR5/4)	ごく薄い小の鉢形	4729	質口部	キンクンモ
126	土器		—	—	ナデ	—	にぶい・薄青 (7.5YR5/4)	2mm以下鉢形	—	質口部	キンクンモ
127	土器		—	—	ナデ	—	にぶい・薄青 (7.5YR5/4)	2mm以下鉢形	—	質口部	キンクンモ
128	土器		—	—	ナデ	ナデ	4mm以下鉢形	ごく薄い小の鉢形	4764	横部	突起あり キンクンモ
129	土器		—	6.8	ナデ	ナデ	にぶい・薄青 (10YR6/4)	にぶい・薄青 (7.5YR5/4)	5540 - 5541	底部	キンクンモ
130	土器		—	7.7	ナデ	ナデ	—	3mm以下鉢形	4728	質口部	キンクンモ
131	土器		—	—	ナデ	ナデ	4mm以下鉢形	ごく薄い小の鉢形	4761	質口部	キンクンモ
132	土器		—	—	ナデ	ナデ	4mm以下鉢形	ごく薄い小の鉢形	4763	質口部	キンクンモ
133	土器		—	—	ナデ	ナデ	4mm以下鉢形	ごく薄い小の鉢形	4748	質口部	キンクンモ
134	土器		—	—	ナデ	ナデ	4mm以下鉢形	4mm以下鉢形	4723	大質口部	キンクンモ
135	土器		—	—	ナデ	ナデ	4mm以下鉢形	4mm以下鉢形	2333	質口部	
136	土器		—	—	ナデ	ナデ	4mm以下鉢形	4mm以下鉢形	2330	質口部	入ス
137	土器		—	—	ナデ	ナデ	にぶい・薄青 (7.5YR7/3)	ごく薄い小の鉢形	2359	質口部	
138	土器		—	—	ナデ	—	にぶい・薄青 (10YR7/3)	4mm以下鉢形	4715	質口部	
139	土器		—	—	ナデ	ナデ	灰白 (10YR8/2)	2mm以下鉢形	4743 - 4750	質口部	
140	土器		—	6.5	ナデ	ナデ	灰白 (7.5YR8/2)	—	2334	質口部	

第5表 出土遺物観察表 (5)

部No.	種別	地区(遺跡名)	口径(原寸)	底径(原寸)	高さ	外周	内周	質	地	地上HNo.	備考
141	土器		—	8.4	—	ナデ	ナデ	陶質	陶質	4123	陶器部
142	土器		—	6	—	ナデ	ナデ	陶質	陶質	2342	安佐部
143	土器		—	7.5	—	ナデ	—	上部漆付(漆付)下部陶質	陶質	4711・5151・5341	サランシモ
144	土器		—	6	—	ナデ	ナデ	陶質(10788/2)	陶質	4720	要地部
145	土器		—	8.2	—	ナデ	—	死ぬ(10788/2)～焼(2351/1)	陶質	4759	気泡
146	石器		—	—	—	—	—	—	—	—	放石
147	土器		32.4	—	—	ナデ	ナデ	陶質	陶質	4745	要口部
148	土器		28	—	—	ナデ	ナデ	陶質(10788/2)	陶質	4746	要口部
149	土器		24	—	—	ナデ	ナデ	陶質(10788/3)	陶質	2345	要口部
150	土器		22.6	—	—	ナデ	ナデ	陶質(10788/2)	陶質	2320	要口部
151	土器		27.8	—	—	ナデ	ナデ	陶質(10787/3)	陶質	2389・4744・5519	要口部
152	土器		27.4	—	—	ナデ	ナデ	陶質(10787/3)	陶質	4724	要口部 安新あり
153	土器		26.8	—	—	ナデ	ナデ	陶質(10787/3)	陶質	7341・5137	要口部 安新あり
154	土器		—	—	—	ハケ	ミガキ	にぶい陶(10787/3)	陶質	—	—
155	石器		—	—	—	—	—	—	—	5452	—
156	土器		—	—	—	ナデ	—	にぶい陶(75786/4)	陶質	1096	要口部 キンクンモ
157	土器		—	—	—	ナデ	—	にぶい陶(75785/3)	陶質	1077	要口部 キンクンモ
158	土器		—	—	—	ナデ	—	にぶい陶(75786/4)	陶質	—	要口部 キンクンモ
159	土器		—	—	—	ナデ	—	にぶい陶(75785/3)	陶質	1099	要口部 キンクンモ
160	土器		—	—	—	ナデ	—	にぶい陶(75787/4)	陶質	4201	要口部 キンクンモ
161	土器		—	—	—	ナデ	—	陶質(10786/3)	陶質	1054	大口部 キンクンモ
162	土器		18.2	—	—	ナデ	—	にぶい陶(75786/3)	陶質	—	要口部 エヌスモ
163	土器		21.6	—	—	ハケ	ナデ	陶の付着物～陶の付着物(10787/3)	陶質	4227	要口部 エヌスモ
164	土器		—	—	—	ナデ	—	にぶい陶(10787/6)	陶	1106	要口部
165	土器		—	—	—	ナデ	—	陶(10787/6)	陶質	—	要口部
166	土器		—	—	—	ナデ	—	にぶい陶(10785/3)	陶質	1110	要口部
167	土器		—	—	—	ナデ	—	にぶい陶(10787/3)	陶質	4251	口袖部
168	土器		—	—	—	ナデ	ナデ	陶(10786/4)	陶質	1079	萬井遺跡
169	土器		—	—	—	ナデ	—	にぶい陶(75786/3)	陶質	4213	要口部 安新あり
170	土器		—	—	8.2	—	ナデ	にぶい陶(10786/3)	陶質	1082	削面 刃目尖端あり
171	土器		—	—	6.5	—	ナデ	陶(75786/2)～陶(75784/2)	陶質	6000	要地部 キンクンモ
172	土器		35.4	—	—	ナデ	ナデ	にぶい陶(75785/3)	陶質	4776	要口部
173	土器		27	—	—	ナデ	ナデ	陶(75785/2)	陶質	5266・6081	要口部 安新あり
174	土器		18.6	—	—	ナデ	ナデ	にぶい陶(75785/3)	陶質	—	要口部 安新あり オランゴモ 口唇部
175	土器		33.7	—	—	ナデ	ナデ	にぶい陶(75785/4)	陶質	—	要口部 安新あり オランゴモ 口唇部

第六表 出土遺物観察表 (6)

器形、種別	地紋(模様地筋)	縦	横	高	底	外、面	内、面	内、面	地、土	地上部%	備考
176 土器	縦目(直線地筋)	—	—	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	3mm以下の底地合	52.5%	實口鉢形
177 土器	—	14	—	—	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	3mm以下の底地合	53.5%	口絞ぎ
178 土器	S A 10	14.3	—	—	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	3mm以下の底地合	—	口絞ぎ
179 土器	—	8.2	—	ハラ	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	3mm以下の底地合	61.4%	實底形
180 土器	—	7.6	—	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	3mm以下の底地合	—	後底
181 土器	—	6.4	—	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	3mm以下の底地合	61.6%	底面
182 土器	—	—	—	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	3mm以下の底地合	45.6%	實口鉢形 キンケンモ
183 土器	—	—	—	ナダ	—	ナダ	ナダ	ナダ	3mm以下の底地合	—	實口鉢形 キンケンモ
184 土器	—	—	—	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	3mm以下の底地合	—	實口鉢形 キンケンモ
185 土器	—	—	—	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	3mm以下の底地合	48.6%	實口鉢形 実底あり キンケンモ
186 土器	—	—	—	ナダ	—	ナダ	ナダ	ナダ	3mm以下の底地合	—	口絞ぎ
187 土器	—	—	—	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	3mm以下の底地合	—	實口鉢形
188 土器	—	—	—	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	3mm以下の底地合	45.2%	肩井底あり
189 土器	—	—	—	ナダ	—	ナダ	ナダ	ナダ	3mm以下の底地合	45.9%	實口鉢形
190 土器	—	29	—	ハラ	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	3mm以下の底地合	45.9%	實口鉢形
191 土器	—	—	—	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	3mm以下の底地合	45.8%	實口鉢形
192 土器	—	—	—	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	3mm以下の底地合	53.9%	實口鉢形
193 土器	—	—	—	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	3mm以下の底地合	—	實口鉢形
194 土器	—	24.6	—	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	3mm以下の底地合	45.6%	口絞ぎ 二支状口縁 刻目陶器あり
195 土器	S A 11	—	—	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	3mm以下の底地合	45.7%	後底あり
196 土器	—	—	—	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	3mm以下の底地合	41.0%	實底形 陶器あり
197 土器	—	—	—	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	3mm以下の底地合	45.9%	實底形 陶器あり
198 土器	—	26.5	—	ハラ	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	3mm以下の底地合	45.6% - 53.6%	實所縫合?
199 土器	—	—	—	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	3mm以下の底地合	—	肩井底?
200 土器	—	—	—	ハラ	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	4mm以下の底地合	45.6% - 48.5%	底形 キンケンモ
201 土器	—	6.8	—	ハラ	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	3mm以下の底地合	53.0%	實底形
202 土器	—	6.5	—	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	3mm以下の底地合	45.2%	實底形
203 土器	—	4.5	—	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	3mm以下の底地合	63.3%	實底形
204 土器	—	6	—	ハラ	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	3mm以下の底地合	45.7%	底形
205 土器	—	6	—	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	3mm以下の底地合	45.5%	底形
206 土器	—	7.2	—	—	ハラ	ナダ	ナダ	ナダ	—	49.2%	底形
207 土器	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	底形あり
208 石器	—	—	—	—	—	—	—	—	—	48.4%	石臼丁
209 石器	—	—	—	—	—	—	—	—	—	66.7%	石臼丁
210 石器	—	—	—	—	—	—	—	—	—	45.4%	石臼?

出土遺物概覽表 (7)

第9表 出土遺物観察表 (8)

組合番号	種別	測定(直線距離) 基準(原寸)	外 国		内 国		地	地	土	地	上部地盤
			高	幅	高	幅					
246	土槽	—	—	—	ナダ	ナダ	にぶい奥壁 (10YR 6/6)	にぶい奥壁 (10YR 6/6)	3mm以下地盤	2030-0739	窓口地盤 キンケンモ
247	土槽	—	6.8	—	ナダ	ナダ	にぶい奥壁 (10YR 6/3)	にぶい奥壁 (10YR 6/3)	4mm以下地盤	2022	窓口地盤 キンケンモ
248	土槽	—	6.7	—	ナダ	ナダ	にぶい奥壁 (10YR 6/3)	にぶい奥壁 (10YR 6/3)	3mm以下地盤	5623	窓口地盤 キンケンモ
249	土槽	—	—	—	ナダ	—	にぶい奥壁 (10YR 6/3)	—	2mm以下地盤	2035	窓口地盤 キンケンモ
250	土槽	—	—	—	ナダ	ナダ	奥壁 (2.5YR 7/2)	奥壁 (2.5YR 7/2)	2mm以下地盤	5734	窓口地盤
251	土槽	—	—	—	ナダ	—	奥壁 (2.5YR 7/2)	奥壁 (2.5YR 7/2)	—	6138	六面削り 尖端あり
252	土槽	46.8	—	—	ナダ	ナダ	奥壁 (5YR 5/4)-底白 (10YR 7/2)	奥壁 (5YR 5/4)-底白 (10YR 7/2)	3mm以下地盤	2028	窓口地盤 キンケンモ
253	土槽	—	7	—	ナダ	—	奥壁 (2.5YR 7/2)	奥壁 (2.5YR 7/2)	—	—	—
254	土槽	—	11	—	ナダ	ナダ	奥壁 (2.5YR 7/2)	奥壁 (2.5YR 7/2)	2mm以下地盤	5750	底部
255	土槽	—	23	—	ナダ	ナダ	奥壁 (10YR 6/2)	奥壁 (10YR 6/2)	3mm以下地盤	5599-5614	窓口地盤
266	土槽	—	—	—	ナダ	ナダ	にぶい奥壁 (10YR 7/4)	にぶい奥壁 (10YR 7/4)	3mm以下地盤	5761-5762	底部
267	土槽	—	—	—	ナダ	ナダ	奥壁 (2.5YR 6/2)	奥壁 (2.5YR 6/2)	3mm以下地盤	5776-5779	窓口地盤
268	石槽	—	10.4	—	ナダ	ナダ	奥壁 (2.5YR 6/2)	奥壁 (2.5YR 6/2)	—	5781	底石
269	石槽	—	—	—	ナダ	ナダ	奥壁 (10YR 6/2)	奥壁 (10YR 6/2)	3mm以下地盤	5949	底板
270	土槽	—	—	—	ナダ	ナダ	奥壁 (2.5YR 6/2)	奥壁 (2.5YR 6/2)	3mm以下地盤	5942	奥壁 開口あり
281	土槽	—	—	—	ナダ	ナダ	奥壁 (10YR 6/2)	奥壁 (10YR 6/2)	3mm以下地盤	5981	安堵あり
282	土槽	—	—	—	ナダ	ナダ	奥壁 (2.5YR 7/4)	奥壁 (2.5YR 7/4)	3mm以下地盤	5982	六面削り 尖端あり
263	土槽	—	—	—	ナダ	ナダ	奥壁 (10YR 6/2)	奥壁 (10YR 6/2)	3mm以下地盤	—	—
264	土槽	—	—	—	ナダ	ナダ	奥壁 (2.5YR 6/2)	奥壁 (2.5YR 6/2)	3mm以下地盤	5948	石板
265	土槽	—	19.4	—	ナダ	ナダ	にぶい奥壁 (10YR 7/3)	にぶい奥壁 (10YR 7/3)	3mm以下地盤	5387	底板
266	土槽	—	6.7	—	ナダ	ナダ	奥壁 (10YR 6/3)	奥壁 (10YR 6/3)	3mm以下地盤	—	—
267	土槽	—	27.6	—	ナダ	ナダ	にぶい奥壁 (10YR 6/3)	にぶい奥壁 (10YR 6/3)	3mm以下地盤	4339	底板
268	土槽	—	—	—	ナダ	ナダ	奥壁 (10YR 6/2)	奥壁 (10YR 6/2)	4mm以上地盤	6345-6346	窓口地盤
269	土槽	—	28.5	—	ナダ	ナダ	奥壁 (10YR 6/2)	奥壁 (10YR 6/2)	4mm以上地盤	4340-4341	窓口地盤
270	土槽	—	—	—	ナダ	ナダ	奥壁 (10YR 6/2)	奥壁 (10YR 6/2)	4mm以上地盤	4346-4347	窓口地盤 刻目地盤あり
271	土槽	—	—	—	ナダ	ナダ	奥壁 (2.5YR 6/3)	奥壁 (2.5YR 6/3)	3mm以下地盤	3546-3547	窓口地盤
272	土槽	—	28.9	—	ナダ	ナダ	奥壁 (2.5YR 6/3)	奥壁 (2.5YR 6/3)	3mm以下地盤	3548-3549	窓口地盤 キンケンモ
273	土槽	—	—	—	ナダ	ナダ	奥壁 (10YR 6/2)	奥壁 (10YR 6/2)	3mm以下地盤	6585	窓口地盤
274	土槽	—	—	—	ナダ	—	奥壁 (10YR 6/2)	奥壁 (10YR 6/2)	3mm以下地盤	807	窓口地盤 口底部削りあり
275	土槽	—	—	—	ナダ	ナダ	奥壁 (10YR 6/2)	奥壁 (10YR 6/2)	3mm以下地盤	803-805	窓口地盤 洗浄済
276	SC 0.2	26.6	—	—	ナダ	ナダ	奥壁 (2.5YR 6/2)	奥壁 (2.5YR 6/2)	3mm以下地盤	3594	窓口地盤
277	土槽	—	—	—	ナダ	ナダ	奥壁 (2.5YR 6/2)	奥壁 (2.5YR 6/2)	3mm以下地盤	5402	窓口地盤 新規
278	土槽	—	—	—	ナダ	ナダ	にぶい奥壁 (2.5YR 6/2)	にぶい奥壁 (2.5YR 6/2)	3mm以下地盤	5110	窓口地盤 キンケンモ
279	土槽	—	—	—	ナダ	ナダ	奥壁 (10YR 6/2)	奥壁 (10YR 6/2)	—	794	窓口地盤 キンケンモ
280	土槽	—	—	—	ナダ	ナダ	奥壁 (10YR 6/2)	奥壁 (10YR 6/2)	—	807	窓口地盤

第9表 出土遺物観察表 (9)

部名、種別	地区(地層)・地質	口唇(側面)	縦	横	高	外観	内観	色	土	出土No.	備考	
											左	右
281 土器		—	—	—	—	直筒(10YR7/6)	—	—	2mm以下の粘土	806	斜面鋸歯あり	
282 土器	SC 0.2	—	—	—	—	ナデ	ナデ	に赤い斑(10YR7/6)	4mm以下粘土	3368・359	裏面鋸歯 キンクンモ	
283 土器	1.15	—	—	8.8	—	ナデ	ナデ	に赤い斑(7A5YR7/4)	2mm以下粘土	791	裏面鋸歯 キンクンモ	
284 土器	1.15	—	—	—	—	ナデ	ナデ	に赤い斑(7A5YR7/4)	2mm以下粘土	1556	裏面鋸歯 キンクンモ	
285 土器	1.15	—	—	—	—	ナデ	ナデ	に赤い斑(7A5YR8/3)	2mm以下粘土	1554	裏面鋸歯 キンクンモ	
286 土器	1.15	—	—	24.8	—	ナデ	ナデ	に赤い斑(7A5YR8/3)	2mm以下粘土	5492	裏面鋸歯 キンクンモ	
287 土器	—	—	—	—	—	ナデ	ナデ	に赤い斑(7A5YR8/2)	2mm以下粘土	—	口縁部	
288 土器	1.15	—	—	—	—	—	—	原白(10YR8/2)	2mm以下粘土	—	裏面鋸歯	
289 土器	1.15	—	—	—	—	ナデ	ナデ	に赤い斑(7A5YR5/4)	2mm以下粘土	5483	裏面鋸歯	
290 土器	—	—	8.2	—	—	ナデ	—	—	2mm以下粘土	3	裏面鋸歯	
291 土器	—	—	9	—	—	ナデ	—	—	3mm以下粘土	4353	裏面鋸歯 裏赤あり キンクンモ	
292 土器	—	—	32	—	—	ナデ	ナデ	に赤い斑(7A5YR6/4)	3mm以下粘土	1557	裏面鋸歯 裏赤あり キンクンモ	
293 土器	—	—	21	—	—	ナデハガ	ナデハガ	原白(10YR8/2)	4mm以下粘土	54177	裏面鋸歯	
294 土器	—	—	6.6	—	—	ナデ	ナデ	原白(10YR8/2)	4mm以下粘土	5480	裏面鋸歯	
295 土器	—	—	—	—	—	ナデ	ナデ	に赤い斑(10YR7/2)	3mm以下粘土	5457	裏面~瓶底	
296 土器	—	—	—	—	—	ナデ	—	—	4mm以下粘土	4364	裏面鋸歯 キンクンモ	
297 土器	SC 0.4	—	—	4.8	—	ナデ	—	—	3mm以下粘土	1567	裏面鋸歯 キンクンモ	
298 土器	—	—	6.6	—	—	ナデ	ナデ	原白(10YR8/2)	2mm以下粘土	5467	裏面鋸歯	
299 土器	—	—	—	—	—	ナデ	ナデ	原白(10YR8/3)	3mm以下粘土	1565	裏面鋸歯	
300 土器	—	—	27.6	—	—	ハケ	ナデ	に赤い斑(10YR5/3)	5mm以下粘土	3746・3749	斜面鋸歯あり キンクンモ	
301 土器	—	—	—	—	—	ナデ	ナデ	に赤い斑(10YR7/3)	2mm以下粘土	5673	裏面鋸歯 口縁部のみ	
302 土器	—	—	8	—	—	ナデハガ	ナデハガ	原白(10YR8/2)	—	3753	裏面鋸歯	
303 土器	—	—	29.1	7.4	28.8-25.9	ナデハガ	ナデハガ	に赤い斑(10YR7/3)	7mm以下粘土	—	裏	
304 土器	—	—	24.3	—	—	ナデ	ナデ	原白(25YR7/3)	4mm以下粘土	—	裏口縁部	
305 土器	—	—	26.9	7.8	33.5-34.3	ナデ	ナデ	に赤い斑(10YR8/3)	4mm以下粘土	—	裏	
306 土器	—	—	—	—	—	ナデ	ナデ	原白(10YR8/4)	2mm以下粘土	5457	裏面鋸歯 キンクンモ	
307 土器	—	—	—	—	—	ナデ	ナデ	原白(10YR8/4)	2mm以下粘土	—16	裏面鋸歯 キンクンモ	
308 土器	—	—	—	—	—	ナデ	ナデ	に赤い斑(10YR8/3)	3mm以下粘土	1544	裏面鋸歯 キンクンモ	
309 土器	—	—	—	—	—	ナデ	ナデ	に赤い斑(10YR8/4)	5mm以下粘土	6014	裏面鋸歯 キンクンモ	
310 土器	SC 0.6	—	—	6.6	—	ナデ	ナデ	に赤い斑(10YR7/3)	3mm以下粘土	6015	裏面鋸歯 キンクンモ	
311 土器	4.15	—	—	7	—	ナデ	ナデ	原白(23YR8/2)	5mm以下粘土	5458	裏面	
312 土器	—	—	—	—	—	ナデ	ナデ	に赤い斑(10YR8/4)	3mm以下粘土	—	口縁部	
313 土器	—	—	—	—	—	ナデ	ナデ	原白(10YR8/2)	3mm以下粘土	5460	裏口縁部 女子平安 カスス	
314 土器	—	—	—	—	—	ナデ	ナデ	に赤い斑(10YR7/3)	5mm以下粘土	1541	裏口縁部 裏赤あり	
315 土器	—	—	—	—	—	ナデ	ナデ	原白(10YR8/3)	5mm以下粘土	—	裏口縁部	

第10表 出土遺物調査表 (10)

回No.	場所	種別	地区(施設名)	施設名	法	采集	内面	外面	内面	地		出土	出土位置	
										高さ	幅			
316	土器	口唇(施設)	施設	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	4mm以下	10YR6/2	4mm以下	44012 出土位置	
317	土器	S C 0 6	—	26.1	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	5mm以下	10YR6/2	5mm以下	44013 出土位置	
318	土器	S C 0 7	—	—	—	—	ナデ	—	ナデ	5mm以下	10YR6/4	5mm以下	44014 出土位置	
319	土器	—	—	—	—	—	ナデ	—	ナデ	5mm以下	10YR6/4	5mm以下	44015 出土位置	
320	土器	S C 0 8	—	—	—	—	ナデ	—	ナデ	5mm以下	10YR6/2	5mm以下	44016 出土位置	
321	土器	—	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	5mm以下	10YR6/4	4mm以下	44017 出土位置	
322	土器	—	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	5mm以下	10YR6/2	5mm以下	44018 出土位置	
323	土器	—	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	5mm以下	10YR7/3	5mm以下	44019 出土位置	
324	土器	—	—	—	—	—	ナデ	—	ナデ	5mm以下	10YR7/3	5mm以下	44020 出土位置	
325	土器	—	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	5mm以下	10YR7/2	5mm以下	44021 出土位置	
326	土器	—	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	5mm以下	10YR7/2	5mm以下	44022 出土位置	
327	土器	—	—	6.4	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	5mm以下	10YR8/2	5mm以下	44023 出土位置	
328	土器	—	—	9	—	—	ナデ	—	ナデ	5mm以下	10YR8/2	5mm以下	44024 出土位置	
329	土器	—	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	5mm以下	10YR8/2	5mm以下	44025 出土位置	
330	土器	—	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	5mm以下	10YR8/2	5mm以下	44026 出土位置	
331	土器	—	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	5mm以下	10YR8/2	5mm以下	44027 出土位置	
332	土器	S C 1 0	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	5mm以下	10YR8/2	5mm以下	44028 出土位置	
333	土器	—	—	32	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	5mm以下	10YR8/2	5mm以下	44029 出土位置	
334	土器	—	—	33.3	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	5mm以下	10YR8/2	5mm以下	44030 出土位置	
335	石器	S C 1 2	—	—	—	—	ナデ	—	ナデ	5mm以下	10YR8/2	5mm以下	44031 出土位置	
336	土器	—	—	22	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	5mm以下	10YR8/2	5mm以下	44032 出土位置	
337	土器	—	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	5mm以下	10YR8/2	5mm以下	44033 出土位置	
338	土器	S C 1 3	—	—	7	—	ナデ	—	ナデ	5mm以下	10YR8/2	5mm以下	44034 出土位置	
339	土器	—	—	—	9	—	ナデ	ナデ	ナデ	5mm以下	10YR8/4	5mm以下	44035 出土位置	
340	土器	—	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	5mm以下	10YR8/3	5mm以下	44036 出土位置	
341	土器	—	—	—	9.6	—	ナデ	ナデ	ナデ	5mm以下	10YR8/3	5mm以下	44037 出土位置	
342	土器	S C 1 7	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	5mm以下	10YR7/3	5mm以下	44038 出土位置	
343	土器	—	—	—	—	—	ハゲ	—	ハゲ	5mm以下	10YR8/1	5mm以下	44039 出土位置	
344	土器	—	—	8.2	—	—	ナデ	—	ナデ	5mm以下	10YR7/2	5mm以下	44040 出土位置	
345	土器	—	—	6	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	5mm以下	10YR8/2	5mm以下	44041 出土位置	
346	土器	S C 1 9	—	—	25	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	5mm以下	10YR8/2	5mm以下	44042 出土位置
347	土器	—	—	—	9.6	—	ナデ	—	ナデ	5mm以下	10YR8/2	5mm以下	44043 出土位置	
348	土器	—	—	—	—	—	ナデ	—	ナデ	5mm以下	10YR5/1	5mm以下	44044 出土位置	
349	土器	—	—	—	—	—	ナデ	—	ナデ	5mm以下	10YR5/2	5mm以下	44045 出土位置	
350	土器	—	—	19.3	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	5mm以下	10YR8/2	5mm以下	44046 出土位置	

第11表 出土遺物觀察表 (11)

登記No.	種別	地区(場所)備考	法 口括(通路)	底 深	邊 幅	高 度	圓 周	外 面	内 面	質	色	外 面	内 面	土	著上(%)	備 考	
左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右
351	石器	SC 19	—	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	—	—	4440	毛石?
352	土器	SC 20	—	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	—	—	4399 - 5466	高井底?
353	土器	SC 20	—	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	—	—	1549	窓口部
354	土器	SC 20-20	—	6.4	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	2mm以下の粘合物	—	—	4387	窓口部
355	土器	SC 20	—	6.4	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	3mm以下の粘合物	5410 - 6099	底		
356	土器	SC 20	—	6.4	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	1.2mm以下の粘合物	4388	底		
357	土器	SC 20	—	6.4	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ごく薄い質感	5464 - 5465	底		
358	土器	SC 20	—	6.4	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	3mm以下の粘合物	6034 - 6035	窓口部		
359	土器	SC 23	31	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ごく薄い質感	5463	窓口部		
360	土器	SC 23	25.7	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	3mm以下の粘合物	1580 - 1781	窓口部		
361	土器	SC 23	23.6	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	3mm以下の粘合物	1762	窓口部		
362	土器	SC 27	16.8	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	3mm以下の粘合物	1871	窓口部		
363	土器	SC 27	28.4	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	3mm以下の粘合物	1872	窓口部		
364	土器	SC 28	24.6	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	3mm以下の粘合物	1915	窓口部		
365	土器	SC 28	23.1	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	3mm以下の粘合物	1877	窓口部		
366	土器	SC 28	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	3mm以下の粘合物	1878	窓口部		
367	土器	SC 28	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	3mm以下の粘合物	1639	窓口部		
368	土器	SC 29	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	3mm以下の粘合物	1639	窓口部		
369	土器	SC 29	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	3mm以下の粘合物	1639	窓口部		
370	土器	SC 29	—	7.3	—	—	ナデ	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	3mm以下の粘合物	1638	窓口部		
371	土器	SC 29	—	25.7	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ごく薄い質感	1627 - 1631	窓口部		
372	土器	SC 30	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	3mm以下の粘合物	1678	窓口部		
373	土器	SC 30	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	3mm以下の粘合物	1639	窓口部		
374	土器	SC 31	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	3mm以下の粘合物	1791	窓口部		
375	土器	SC 31	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	3mm以下の粘合物	5406	新規 三角突起		
376	土器	SC 31	—	39.5	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	3mm以下の粘合物	5407	窓口部		
377	土器	SC 33	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ごく薄い質感	5203	窓口部		
378	土器	SC 33	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	3mm以下の粘合物	1634	窓口部		
379	土器	SC 33	21.5	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	3mm以下の粘合物	1872	窓口部		
380	土器	SC 33	21.7	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	3mm以下の粘合物	1791	窓口部		
381	土器	SC 34	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	3mm以下の粘合物	1603	窓口部		
382	土器	SC 34	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	3mm以下の粘合物	1603	窓口部		
383	土器	SC 34	—	—	—	—	ナデ	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	3mm以下の粘合物	1902	窓口部		
384	土器	SC 34	—	—	—	—	ナデ	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	3mm以下の粘合物	1906	窓口部		
385	土器	SC 34	—	—	—	—	ナデ	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	3mm以下の粘合物	1908	窓口部		

第12表 出土遺物目録表 (12)

品名	類別	地點	層位(標高)	地質	外観	内観	測定	出土	出土場所	
396 土器	SC 3-4	—	—	ナデ	にぶい縁 (7.5YR 5/2)	にぶい縁 (10YR 5/3)	2mm以下のおかげ	4806	貝口地底	
387 土器	SC 4	—	—	ナデ	—	—	3mm以下のおかげ	1807	貝口地底 口溶接接着剤	
388 土器	SC 4	—	—	ナデ	—	—	3mm以下のおかげ	1905	削部 異常あり	
389 土器	SC 4	—	—	ナデ	にぶい縁 (7.5YR 6/4)	底板 (10YR 6/1)	3mm以下のおかげ	5107	貝口地底 キンコンモ	
390 土器	SC 4-3	—	—	ナデ	にぶい縁 (7.5YR 6/6)	底 (7.5YR 6/6)	3mm以下のおかげ	6418	貝口地底 キンコンモ	
391 土器	SC 4	—	—	ナデ	にぶい縁 (7.5YR 6/4)	にぶい縁 (10YR 6/4)	4mm以下のおかげ	2108	貝口地底 キンコンモ	
392 土器	SC 4	—	—	ナデ	にぶい縁 (7.5YR 6/4)	底 (10YR 6/6)	3mm以下のおかげ	6417 - 6422	貝口地底 キンコンモ	
393 土器	SC 4-4	—	—	ナデ	—	—	2mm以下のおかげ	2138 - 2139	140 オンシラモ	
394 土器	SC 4-6	—	—	ナデ	にぶい縁 (7.5YR 6/3)	にぶい縁 (10YR 6/1)	2mm以下のおかげ	2278	貝口地底 キンコンモ	
395 土器	SC 5-0	24	—	ナデ	ナデ	にぶい縁 (10YR 7/2)	にぶい縁 (10YR 7/2)	2mm以下のおかげ	2219	
396 土器	SC 5-0	—	—	ナデ	底板 (10YR 6/2)	にぶい縁 (10YR 7/2)	2mm以下のおかげ	2389	貝口地底 口溶接接着剤	
397 土器	SC 5-1	—	—	ナデ	ナデ	にぶい縁 (7.5YR 6/4)	ごく小さなおかげ	3580	口溶接 キンコンモ	
398 土器	SC 5-1	—	—	ナデ	ナデ	にぶい縁 (10YR 7/3)	にぶい縁 (10YR 7/3)	2mm以下のおかげ	2579	
399 土器	SC 5-2	—	7	—	ナデ	底板 (10YR 6/2)	にぶい縁 (7.5YR 6/4)	ごく小さなおかげ	4469	底部 キンコンモ
400 土器	SC 5-2	23	7	27.1	ナデ	底板 (10YR 6/3)	底板 (10YR 6/3)	3mm以下のおかげ	—	底部 壁部 壁部
401 土器	SC 5-2	22	—	…	ナデ	底板 (10YR 7/2)	にぶい縁 (10YR 5/4)	ごく小さなおかげ	3900	貝口地底 キンコンモ
402 土器	SC 5-2	—	—	ナデ	ナデ	底板 (10YR 7/2)	にぶい縁 (10YR 5/3)	ごく小さなおかげ	3883	貝口地底 キンコンモ
403 土器	SC 5-2	—	—	ナデ	ナデ	にぶい縁 (7.5YR 6/3)	にぶい縁 (10YR 5/4)	ごく小さなおかげ	3857 - 3905	貝口地底 キンコンモ
404 土器	SC 5-2	—	—	ナデ	ナデ	にぶい縁 (10YR 6/2)	底板 (10YR 6/2)	ごく小さなおかげ	3852 - 3852	貝口地底 キンコンモ
405 土器	SC 5-3	—	—	ナデ	—	—	—	—	—	
406 土器	SC 5-3	—	—	ナデ	ナデ	にぶい縁 (10YR 7/3)	底板 (10YR 6/2)	ごく小さなおかげ	3897	貝口地底
407 土器	SC 5-3	—	—	ナデ	ナデ	底板 (10YR 6/4)	底板 (10YR 6/3)	2mm以下のおかげ	3881	底面部 朱色あり
408 土器	SC 5-3	28	—	ナデ	ナデ	にぶい縁 (10YR 7/3)	にぶい縁 (10YR 7/3)	4mm以下のおかげ	3878	貝口地底
409 土器	SC 5-4	—	—	ナデ	ナデ	にぶい縁 (10YR 6/2)	にぶい縁 (10YR 6/2)	ごく小さなおかげ	—	底所持者?
410 土器	SC 5-4	—	—	ナデ	ナデ	にぶい縁 (10YR 7/4)	にぶい縁 (10YR 7/3)	3mm以下のおかげ	3873	口溶接
411 土器	SC 5-4	—	—	ナデ	ナデ	にぶい縁 (10YR 6/3)	にぶい縁 (10YR 5/4)	ごく小さなおかげ	4607	貝口地底 キンコンモ
412 土器	SC 5-4	—	—	ナデ	ナデ	にぶい縁 (7.5YR 6/3)	にぶい縁 (7.5YR 6/4)	ごく小さなおかげ	5224	削部 異常あり キンコンモ
413 土器	SC 5-4	34.6	—	—	ナデ	にぶい縁 (10YR 6/3)	にぶい縁 (10YR 6/3)	3mm以下のおかげ	5304 - 5308	貝口地底 キンコンモ
414 土器	SC 5-4	—	—	ナデ	ナデ	底板 (10YR 6/2)	底板 (10YR 6/3)	ごく小さなおかげ	4512	削部 製作過程
415 土器	SC 5-4	—	—	ナデ	ナデ	底板 (10YR 6/2)	にぶい縁 (10YR 7/3)	ごく小さなおかげ	5309	貝口地底 スズ
416 土器	SC 5-4	—	—	ナデ	ナデ	底 (10YR 4/1)	にぶい縁 (10YR 7/2)	ごく小さなおかげ	5306	口溶接
417 土器	SC 5-4	25	—	—	ナデ	底板 (10YR 6/2)	にぶい縁 (10YR 6/3)	2mm以下のおかげ	5295	貝口地底
418 土器	SC 5-5	24.8	—	—	ナデ	にぶい縁 (10YR 6/3)	底板 (10YR 6/2)	3mm以下のおかげ	5310	貝口地底
419 土器	SC 5-5	—	8.3	—	ナデ	ナデ	底板 (10YR 6/4)	4mm以下のおかげ	4493 - 4497	底部 異常あり
420 土器	SC 5-5	20	—	ナデ	ナデ	にぶい縁 (7.5YR 6/4)	3mm以下のおかげ	5279	口溶接 キンコンモ	

第13表 出土遺物觀察表 (13)

品目No.	種別	地区(施設)地番	地	位置	高	幅	面	外	内	面	施	土	施上計画No.	備 考		
421	土器	SC 57	—	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナメ	4mm以下下の地盤	5497~5499+5500	施用一時的		
422	土器	SC 58	—	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナメ	2mm以下の地盤	4499	受口施用 キンクンセ		
423	土器	SC 58	—	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナメ	ごく薄い地盤	4500	受口施用 キンクンセ		
424	土器	SC 58	25.4	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナメ	3mm以下の地盤	5282	受口施用 キンクンセ		
425	土器	SC 58	—	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナメ	3mm以下の地盤	5283	受口施用 キンクンセ		
426	土器	SC 58	31.2	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナメ	3mm以下の地盤	6306	受口施用 キンクンセ		
427	土器	SC 58	28	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナメ	3mm以下の地盤	6304+6321	受口施用 キンクンセ		
428	土器	SC 58	23.8	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナメ	3mm以下の地盤	5281	受口施用 キンクンセ		
429	土器	SC 58	—	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナメ	2mm以下の地盤	6304	受口施用 キンクンセ		
430	土器	SC 58	33	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナメ	1mm以下の地盤	5281	受口施用 キンクンセ		
431	土器	SC 58	—	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナメ	1mm以下の地盤	6175	受口施用 キンクンセ		
432	土器	SC 58	13.2	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナメ	1mm以下の地盤	5201	口植用 突起あり		
433	土器	SC 58	—	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナメ	3mm以下の地盤	6325	受口施用 キンクンセ		
434	土器	SC 58	26.2	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナメ	1mm以下の地盤	6327	受口施用 キンクンセ		
435	土器	SC 58	—	8	—	ハケ	ナデ	ナデ	ナデ	ナメ	1mm以下の地盤	5243+5355	受口施用 キンクンセ			
436	土器	SC 58	—	7.9	—	ハケ	ナデ	ナデ	ナデ	ナメ	1mm以下の地盤	5178+5189+5237	底部			
437	土器	SC 58	—	6.4	—	ハケ	ナデ	ナデ	ナデ	ナメ	ごく薄い地盤	6307	底?部			
438	土器	SC 58	—	6.9	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナメ	3mm以下の地盤	6326	底部			
439	土器	SC 58	—	6	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナメ	1mm以下の地盤	6349	受口施用 キンクンセ			
440	土器	SC 58	—	7.2	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナメ	1mm以下の地盤	6353	受口施用 キンクンセ			
441	土器	SC 58	—	8	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナメ	1mm以下の地盤	6310	受口施用 キンクンセ			
442	土器	SC 58	—	9.7	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナメ	3mm以下の地盤	6307	底?部			
443	土器	SC 58	—	8.9	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナメ	ごく薄い地盤	5183	底部			
444	土器	SC 58	—	6	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナメ	3mm以下の地盤	—	受口施用			
445	土器	SC 58	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナメ	1mm以下の地盤	6082	受口施用			
446	土器	SC 58	—	6.2	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナメ	1mm以下の地盤	6329	受口施用 キンクンセ			
447	土器	SC 58	—	33.2	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナメ	3mm以下の地盤	5834	受口施用 キンクンセ			
448	土器	SC 61	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナメ	1mm以下の地盤	5834	受口施用 キンクンセ			
449	土器	SC 61	30	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナメ	ごく薄い地盤	—	受口施用 キンクンセ			
450	土器	SC 62	27	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナメ	3mm以下の地盤	—	受口施用 キンクンセ			
451	土器	SC 62	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナメ	1mm以下の地盤	—	受口施用			
452	土器	SC 62	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナメ	1mm以下の地盤	—	受口施用			
453	土器	SC 64	24.6	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナメ	2mm以下の地盤	5985	受口施用			
454	土器	SC 64	15.6	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナメ	2mm以下の地盤	5990	受口施用			
455	土器	SC 65	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナメ	2mm以下の地盤	5995	受口施用			

第14表 出土遺物調査表 (14)

標記No.	場所	出土(遺物)地名	遺物(用具)名	遺物(用具)種類	外 国		内 國		内 國		外 国		遺 物		備 考
					内 國	外 国	内 國	外 国	内 國	外 国	内 國	外 国	内 國	外 国	
456	土蔵	—	—	—	ナヂ	4560 気口横幅 実量あり キンクンモ									
457	土蔵	—	—	—	ナヂ	4675 大気口横幅 実量あり キンクンモ									
458	土蔵	—	—	—	ナヂ	4686 夏口横幅 実量あり キンクンモ									
459	土蔵	—	—	—	ナヂ	4695 大夏口横幅 実量あり キンクンモ									
460	土蔵	SC 67	—	—	ナヂ	5585 底部分付 キンクンモ									
461	土蔵	—	6.6	—	ナヂ	5574 亂縫 キンクンモ									
462	土蔵	—	32.2	—	ナヂナジ	4676 亂縫 開口横幅 実量あり									
463	土蔵	—	25.8	—	ナヂ	4683 -4694 亂縫 開口横幅 実量あり									
464	土蔵	—	21.1	—	ハヤ	ナヂ	5380-5381 亂縫 実量あり キンクンモ								
465	土蔵	SC 76	—	—	ナヂ	6057 亂縫 実量あり キンクンモ									
466	土蔵	—	—	—	風呂	6059 口縫幅 キンクンモ									
467	石	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6063 石
468	土蔵	—	29.8	—	ナヂ	2404 亂縫 キンクンモ									
469	土蔵	B104	—	22.2	—	ナヂ	3415 密口横幅 キンクンモ								
470	土蔵	—	—	—	ナヂ	—									
471	土蔵	—	—	—	ナヂ	3469 密口横幅 キンクンモ									
472	土蔵	—	—	—	ナヂ	3462 密口横幅 キンクンモ									
473	土蔵	—	—	—	ナヂ	5554 密口横幅 キンクンモ									
474	土蔵	—	—	—	ナヂ	3469 密口横幅 キンクンモ									
475	土蔵	—	—	—	ナヂ	3465 密口横幅 キンクンモ									
476	土蔵	—	—	—	ナヂ	—									
477	土蔵	—	—	—	ナヂ	3476 密口横幅 キンクンモ									
478	土蔵	—	—	—	ナヂ	3346 密口横幅 キンクンモ									
479	土蔵	SD 01	—	—	ナヂ	3535 密口横幅 キンクンモ									
480	土蔵	—	—	—	ナヂ	3440 密口横幅 キンクンモ									
481	土蔵	—	—	—	ナヂ	940 大気口横幅 キンクンモ									
482	土蔵	—	—	—	ナヂ	3461 大夏口横幅 キンクンモ									
483	土蔵	—	—	—	ナヂ	3364 亂縫 実量あり キンクンモ									
484	土蔵	—	—	—	ナヂ	3250 亂縫 実量あり キンクンモ									
485	土蔵	—	—	—	ナヂ	3385 亂縫 実量あり キンクンモ									
486	土蔵	—	—	—	ナヂ	4405 亂縫 実量あり キンクンモ									
487	土蔵	—	—	—	ナヂ	3303 大気口横幅 キンクンモ									
488	土蔵	B1-3	—	22.6	—	ナヂ	—								
489	土蔵	—	14.4	—	ナヂナジ	4405 亂縫 実量あり キンクンモ									
490	土蔵	—	10	—	ヨリ	3419-3421 亂縫 キンクンモ									

第15表 出土遺物観察表（15）

登録No.	種別	地区(構跡地名)	法 口徑(Φmm)	底 径 高	外 面	内 面	井 筒	井 壁	地 盤		地 上 部 分 上 部 材 料
									内 面 材 料	井 壁 材 料	
491	土器		—	12.4	—	—	ナデ	ナデ	に-灰-陶 (7.5YR5/4)	に-灰-陶 (7.5YR5/4)	3mm以下地盤合
492	土器		—	10	—	—	ナデ	ナデ	に-灰-陶 (7.5YR5/3)	に-灰-陶 (7.5YR5/3)	4mm以下地盤合
493	土器		—	—	—	—	ナデ	ナデ	に-灰-陶 (7.5YR6/4)	に-灰-陶 (7.5YR6/4)	3mm以下地盤合
494	土器		—	—	—	—	ナデ	ナデ	地 (7.5YR6/6)	地 (7.5YR6/6)	4mm以下地盤合
495	土器		—	8.4	—	—	ナデ	ナデ	灰陶 (10YR6/4)	灰陶 (10YR6/4)	ごく-小-陶 (7.5YR7/2)
496	土器		—	—	—	—	ナデ	ナデ	灰陶 (10YR6/3)	灰陶 (10YR6/3)	2mm以下地盤合
497	土器	SD01	—	—	—	—	ナデ	ナデ	に-灰-陶 (10YR6/3)	に-灰-陶 (10YR6/3)	4mm以下地盤合
498	土器	B12c	—	—	—	—	ナデ	ナデ	灰陶 (10YR6/3)	灰陶 (10YR6/3)	2mm以下地盤合
499	土器	A2a	—	—	—	—	ナデ	—	地 (10YR8/2)	—	—
500	土器		—	—	—	—	ナデ	ナデ	灰陶 (7.5YR6/5)	灰陶 (7.5YR6/5)	2mm以下地盤合
501	土器		—	—	—	—	ナデ	ナデ	灰陶 (10YR7/3)	灰陶 (10YR7/3)	2mm以下地盤合
502	土器		—	—	—	—	ナデ	ナデ	灰陶 (10YR8/2)	灰陶 (10YR8/2)	ごく-小-陶 (7.5YR7/2)
503	土器		—	—	—	—	ナデ	ナデ	灰陶 (10YR8/2)	灰陶 (10YR8/2)	3mm以下地盤合
504	土器		—	—	—	—	ナデ	—	に-灰-陶 (10YR7/2)	—	—
505	土器		—	—	—	—	ナデ	ナデ	地 (7.5YR8/3)	地 (7.5YR8/3)	3mm以下地盤合
506	土器		—	—	—	—	ナデ	ナデ	地 (10YR7/2)	地 (10YR7/2)	2mm以下地盤合
507	土器		21.6	—	—	—	ナデ	ナデ	地 (10YR7/2)	地 (10YR7/2)	3mm以下地盤合
508	土器		—	—	—	—	ナデ	ナデ	地 (10YR7/2)	地 (10YR7/2)	ごく-小-陶 (7.5YR7/2)
509	土器		—	—	—	—	ナデ	ナデ	地 (5YR8/4)	地 (5YR8/4)	2mm以下地盤合
510	土器		—	—	—	—	ナデ	ナデ	地 (10YR7/3)	地 (10YR7/3)	2mm以下地盤合
511	土器		—	—	—	—	ナデ	ナデ	地 (5YR8/3)	地 (5YR8/3)	3mm以下地盤合
512	土器		—	—	—	—	ナデ	ナデ	地 (10YR7/1)	地 (10YR7/1)	ごく-小-陶 (7.5YR7/2)
513	土器		—	—	—	—	ナデ	ナデ	地 (10YR7/2)	地 (10YR7/2)	3mm以下地盤合
514	土器		31.8	—	—	—	ナデ	ナデ	地 (10YR7/3)	地 (10YR7/3)	ごく-小-陶 (7.5YR7/2)
515	土器		14.7	—	—	—	ナデ	ナデ	地 (10YR6/2)	地 (10YR6/2)	3mm以下地盤合
516	土器		—	7.4	—	—	ナデ	ナデ	地 (10YR7/2)	地 (10YR7/2)	3mm以下地盤合
517	土器	B10c	—	—	—	—	ナデ	ナデ	地 (10YR7/3)	地 (10YR7/3)	3mm以下地盤合
518	土器		27.4	—	—	—	ナデ	ナデ	地 (5YR8/3)	地 (5YR8/3)	4mm以下地盤合
519	土器		14.8	—	—	—	ナデ	ナデ	灰陶 (10YR8/2)	灰陶 (10YR8/2)	4mm以下地盤合
520	土器		18.6	—	—	—	ナデ	ナデ	灰陶 (10YR8/2)	灰陶 (10YR8/2)	ごく-小-陶 (7.5YR6/4)
521	土器		—	5.6	—	—	ナデ	ナデ	地 (5YR8/4)	地 (5YR8/4)	3mm以下地盤合
522	土器		—	6.4	—	—	ナデ	ナデ	地 (7.5YR7/4)	地 (7.5YR7/4)	—
523	土器		—	—	—	—	ナデ	ナデ	地 (5YR8/4)	地 (5YR8/4)	2mm以下地盤合
524	土器		—	—	—	—	ナデ	ナデ	地 (10YR8/3)	地 (10YR8/3)	3mm以下地盤合
525	土器		—	—	—	—	ナデ	ナデ	地 (10YR8/3)	地 (10YR8/3)	3mm以下地盤合

第16表 出土遺物目録表 (16)

図No.	場所	地区(施設)及 口経(通路)	法 延 度	全 幅	内 面	外 面	内 面		外 面		地 土	高さ(?)	
							直 通	横 通	直 通	横 通			
526	土槽	—	—	—	ナデ	ナデ	灰白	(10YR8/2)	灰白	(10YR8/2)	3mm以下±0.5mm	34.90	
527	土槽	—	—	—	ナデ	ナデ	灰黒	(2.5Y7/7)	2mm以下±0.5mm	33.47	堅密な？ 実存あり	—	
528	土槽	—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	(10YR8/3)	にぶい黄褐色	(10YR8/3)	3mm以下±0.5mm	36.14	
529	土槽	—	—	—	ナデ	ナデ	灰黒	(10YR8/3)	5mm以下±0.5mm	32.97	堅密 実存あり 外スス	—	
530	土槽	—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	(10YR8/3)	にぶい黄褐色	(10YR8/3)	3mm以下±0.5mm	34.13	
531	土槽	SD 0.1	—	—	ナデ	ナデ	灰黒	(10YR8/3)	灰黒	(10YR8/3)	3mm以下±0.5mm	33.78	
532	土槽	SD 0.3	—	—	ナデ	ナデ	灰黒	(2.5YR8/3)	灰黒	(2.5YR8/3)	3mm以下±0.5mm	33.00	
533	土槽	—	—	5.6	—	ナデ	ナデ	灰黒	(2.5Y7/7)	灰黒	(2.5Y7/7)	2mm以下±0.5mm	23.72
534	土槽	—	—	8.5	—	ナデ	剥離	にぶい黒	(7.5YR7/4)	—	—	低粘 膨化	—
535	土槽	—	—	7.3	—	ナデ	ナデ	灰黒	(2.5YR8/3)	2mm以下±0.5mm	31.45	低粘 膨化	—
536	土槽(井戸)	—	—	—	ナデ	ナデ	灰黒	(2.5Y7/7)	灰白	(2.5Y7/7)	2mm以下±0.5mm	31.53	
537	土槽	—	—	15.3	—	—	—	—	—	—	—	高所削減	—
538	土槽	—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黒	(7.5YR8/3)	にぶい黒	(7.5YR8/3)	2mm以下±0.5mm	36.61	
539	土槽	SD 0.5	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	(10YR7/2)	にぶい黄褐色	(10YR7/2)	3mm以下±0.5mm	35.56	
540	土槽	SD 0.6	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黒	(5YR6/4)	にぶい黒	(5YR6/4)	2mm以下±0.5mm	48.82	
541	土槽	SD 1.4	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黒	(7.5YR6/4)	にぶい黒	(7.5YR6/4)	4mm以下±0.5mm	35.60	
542	土槽	SD 1.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	50.65 僧石	—
543	土槽	SD 0.5	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黒	(10YR7/2)	にぶい黒	(10YR7/2)	4mm以下±0.5mm	17.6	
544	土槽	SD 0.6	—	6.5	ナデ	ナデ	白	(5YR7/6)	白	(5YR7/6)	2mm以下±0.5mm	17.4	
545	土槽	SD 0.6	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黒	(7.5YR8/2)	灰白	(10YR7/1)	3mm以下±0.5mm	44.08	
546	土槽	SD 1.4	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黒	(7.5YR7/3)	白	(5YR7/6)	ごくねじれの黒	42.3	
547	土槽	SD 1.5	—	13.4	—	ナデ	ナデ	にぶい黒	(10YR7/3)	にぶい黒	(10YR7/3)	3mm以下±0.5mm	27.90
548	土槽	—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黒	(7.5YR6/4)	にぶい黒	(7.5YR6/4)	2mm以下±0.5mm	31.69	
549	土槽	—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黒	(7.5YR6/3)	にぶい黒	(7.5YR6/3)	1mm以下±0.5mm	28.60	
550	土槽	—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黒	(7.5YR6/4)	にぶい黒	(7.5YR6/4)	2mm以下±0.5mm	45.54	
551	土槽	—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	(10YR8/3)	にぶい黄褐色	(10YR8/3)	2mm以下±0.5mm	280.07	
552	土槽	—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黒	(7.5YR6/3)	にぶい黒	(7.5YR6/3)	3mm以下±0.5mm	285.2~64.3?	
553	土槽	SD 0.8	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黒	(7.5YR6/3)	にぶい黒	(7.5YR6/3)	2mm以下±0.5mm	25.68	
554	土槽	—	—	—	ナデ	ナデ	灰黒	(7.5TR8/4)	灰黒	(7.5TR8/4)	2mm以下±0.5mm	25.65	
555	土槽	—	—	—	ナデ	ナデ	灰黒	(10YR8/2)	にぶい黄褐色	(10YR8/2)	3mm以下±0.5mm	27.68	
556	土槽	—	—	—	ナデ	ナデ	黑	(5YR8/2)	ごくねじれの黒	(5YR8/2)	2mm以下±0.5mm	45.54	
557	土槽	—	17.8	—	ナデ	ナデ	灰白	(10YR8/2)	灰白	(10YR8/2)	2mm以下±0.5mm	31.58	
558	土槽	—	20.2	—	ナデ	ナデ	にぶい黒	(7.5YR7/8)	にぶい黒	(7.5YR7/8)	3mm以下±0.5mm	28.64	
559	土槽	—	19.4	—	ナデ	ナデ	にぶい黒	(10YR7/2)	にぶい黒	(10YR7/2)	2mm以下±0.5mm	31.13	
560	土槽	—	19.2	—	ナデ	ナデ	灰黒	(2.5Y7/2)	灰黒	(2.5Y7/2)	3mm以下±0.5mm	61.54	

第17表 出土遺物観察表 (17)

遺物No.	種別	部位(頭骨・骨盆)	口径(横幅) × 高さ(縦幅)	内面	外面	表面	色		測定上印記	備考	
							内面	外面			
561	土器		—	—	ナデ	ナデ	青灰褐色 (10YR6/3)	青灰褐色 (10YR6/3)	3mm以下6枚合	口部無	
562	土器		—	—	ナデ	ナデ	青灰褐色 (10YR7/2)	灰白 (G5YR7/1)	3mm以下6枚合	口部無	
563	土器		13.6	—	—	ナデ	—	—	3mm以下6枚合	口部無	
564	土器		—	—	ナデ	ナデ	青灰褐色 (10YR6/4)	青灰褐色 (10YR6/4)	3mm以下6枚合	25mm	
565	土器		28.2	—	ナデ	—	青灰褐色 (10YR5/4)	—	2mm以下6枚合	4558・4910 高井山遺跡	
566	土器		4.8	—	ナデ	ナデ	青灰褐色 (10YR5/8)	青灰褐色 (10YR7/8)	4mm以下6枚合	—	
567	土器		—	—	ナデ	ナデ	青灰褐色 (10YR6/30)	青灰褐色 (10YR6/30)	2mm以下6枚合	2484・2563 網原・外ヌヌ	
568	土器		—	—	ナデ	ナデ	青灰褐色 (10YR6/3)	青灰褐色 (10YR6/3)	3mm以下6枚合	網原	
569	土器		—	—	ナデ	ナデ	青灰褐色 (10YR7/0)	青灰褐色 (10YR7/0)	3mm以下6枚合	先述無	
570	土器		—	—	ナデ	ナデ	青灰褐色 (10YR7/2)	青灰褐色 (10YR7/2)	4mm以下6枚合	見在地	
571	土器		—	—	ナデ	ナデ	青灰褐色 (10YR7/3)	青灰褐色 (10YR7/3)	4mm以下6枚合	—	
572	土器		—	—	ナデ	ナデ	青灰褐色 (10YR7/4)	青灰褐色 (10YR7/4)	2mm以下6枚合	3125 高井	
573	土器		—	—	ナデ	ナデ	青灰褐色 (10YR8/0)	青灰褐色 (10YR8/0)	4mm以下6枚合	—	
574	土器		—	—	ナデ	ナデ	青灰褐色 (10YR8/3)	青灰褐色 (10YR8/3)	2mm以下6枚合	先述無	
575	土器		—	—	ナデ	ナデ	青灰褐色 (10YR8/4)	青灰褐色 (10YR8/4)	3mm以下6枚合	—	
576	土器		—	—	ナデ	ナデ	青灰褐色 (10YR8/30)	青灰褐色 (10YR8/30)	3mm以下6枚合	2079 新規	
577	土器	S D e 8	4.1	1	1.55~1.8	ナデ	ナデ	青白 (10YR8/2)	青白 (10YR8/2)	3mm以下6枚合	ミニニアリテ
578	土器		—	—	ナデ	ナデ	青灰褐色 (10YR6/3)	青灰褐色 (10YR6/3)	3mm以下6枚合	新規・被燒痕	
579	土器		—	—	ナデ	ナデ	青灰褐色 (10YR5/2)	青灰褐色 (10YR5/2)	3mm以下6枚合	新規・被燒痕	
580	土器		—	—	ナデ	ナデ	青灰褐色 (10YR6/3)	青 (5YR7/6)	4mm以下6枚合	3091 新規失火	
581	土器		—	—	ナデ	ナデ	青灰褐色 (10YR7/4)	青 (5YR7/8)	3mm以下6枚合	3116 新規失火	
582	土器		—	—	ナデ	ナデ	青灰褐色 (10YR7/2)	青灰褐色 (10YR7/2)	3mm以下6枚合	2531 新規失火	
583	木製品		—	—	—	—	—	—	—	2791 石原	
584	木製品		—	—	—	—	—	—	—	5817	
585	木製品		—	—	—	—	—	—	—	5821	
586	木製品		—	—	—	—	—	—	—	5821	
587	木製品		—	—	—	—	—	—	—	5821	
588	木製品		—	—	—	—	—	—	—	6113 等級4	
589	木製品		—	—	—	—	—	—	—	5821 等級3	
590	木製品		—	—	—	—	—	—	—	2574	
591	木製品		—	—	—	—	—	—	—	5821 等級3	
592	木製品		—	—	—	—	—	—	—	6113 板? 等級4	
593	木製品		—	—	—	—	—	—	—	5821 板? 等級3	
594	木製品		—	—	—	—	—	—	—	5817 板	
595	木製品		—	—	—	—	—	—	—	5850 板	

第18表 出土遺物調査表 (18)

順位	組別	地区(施設名)・番号	金		銀		銅		外		内		鐵		土		地上部		地中	
			直径(横幅)	高さ(深幅)	径	高さ	外	内	面	色	外	内	面	色	外	面	内	面	外	面
506	木製品		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	木質	木質
507	木製品		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	木質	木質
508	木製品		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	木質	木質
509	木製品		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	木質	木質
600	土器		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
601	土器		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
602	土器		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
603	土器		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
604	土器		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
605	土器		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
606	土器		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
607	土器		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
608	土器		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
609	土器		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
610	土器		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
611	土器		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
612	土器		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SD08	土器		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
613	土器		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
614	土器		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
615	土器		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
616	土器		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
617	土器		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
618	土器		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
619	土器		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
620	土器		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
621	土器		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
622	土器		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
623	土器		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
624	土器		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
625	土器		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
626	土器		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
627	土器		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
628	土器		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
629	土器		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
630	土器		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

第19表 出土遺物観察表 (19)

目次No.	種 別	地区(場所)地圖	法	規 則	外 面	内 面	色			地	土	施 上式No.	備 考
					口唇(端部)	底	唇	唇	唇				
631	土器		—	—	ナデ	ナデ	青銅鏡 (7.5TYR6/3)	透鏡 (10YR6/3)	3mm以下の物貯合	2746	銅鏡 実物		
632	土器		21	—	ナデ	ナデ	青銅鏡 (10YR6/3)	透鏡 (10YR6/2)	5mm以下の物貯合	2722	銅鏡 実物あり		
633	土器		—	—	ナデ	ナデ	青銅鏡 (10YR6/2)	透鏡 (10YR6/2)	3mm以下の物貯合	6500	銅鏡 実物あり		
634	土器		26.6	—	ナデ	ナデ	青銅鏡 (10YR7/2)	透鏡 (10YR7/2)	3mm以下の物貯合	656 - 2612 - 358	銅鏡 実物		
635	土器		23	—	ナデ	ナデ	青銅鏡 (7.5TYR7/4)	透鏡 (10YR7/2)	4mm以下の物貯合	6439	銅口鏡		
636	土器		16.5	—	ナデ	ナデ	青銅鏡 (10YR7/2)	透鏡 (10YR7/2)	3mm以下の物貯合	2711	銅口鏡		
637	土器		20.6	—	ナデ	ナデ	青銅鏡 (10YR8/3)	透鏡 (10YR8/3)	3mm以下の物貯合	2450	銅口鏡		
638	土器		—	—	ナデ	ナデ	青銅鏡 (10YR6/1)	透鏡 (10YR6/1)	3mm以下の物貯合	2753	銅口鏡		
639	土器		—	—	ナデ	ナデ	青銅鏡 (10YR7/2)	透鏡 (10YR7/2)	3mm以下の物貯合	2323	銅口鏡		
640	土器		—	—	ナデ	ナデ	青銅鏡 (10YR7/2)	透鏡 (10YR7/2)	3mm以下の物貯合	2468	銅口鏡		
641	土器		—	—	ナデ	—	青銅鏡 (10YR8/3)	透鏡 (10YR8/3)	3mm以下の物貯合	6434	銅口鏡		
642	土器		—	—	ナデ	ナデ	青銅鏡 (10YR8/3)	透鏡 (10YR8/3)	4mm以下の物貯合	2471	銅鏡 実物		
643	土器		—	—	ナデ	ナデ	青銅鏡 (10YR7/2)	透鏡 (10YR7/2)	2mm以下の物貯合	5825	銅鏡 実物		
644	土器		—	—	ナデ	ナデ	青銅鏡 (10YR7/3)	透鏡 (2.5TYR7/2)	3mm以下の物貯合	6278	銅鏡 実物		
645	土器		—	—	ナデ	ナデ	青銅鏡 (10YR6/2)	透鏡 (10YR6/2)	2mm以下の物貯合	492	銅鏡 実物		
646	土器		—	—	ナデ	ナデ	青銅鏡 (10YR7/2)	透鏡 (10YR7/2)	3mm以下の物貯合	2491	銅口鏡 実物		
647	土器		—	—	ナデ	ナデ	青銅鏡 (10YR7/2)	透鏡 (10YR7/2)	3mm以下の物貯合	6287	銅口鏡		
648	土器	S D O S	—	—	ナデ	ナデ	青銅鏡 (2.5TYR6/2)	透鏡 (2.5TYR6/2)	3mm以下の物貯合	2725	銅口鏡		
649	土器		—	—	ナデ	ナデ	青銅鏡 (2.5TYR8/2)	透鏡 (2.5TYR8/2)	3mm以下の物貯合	6501	銅口鏡		
650	土器		—	6.6	—	ナデ	青銅鏡 (10YR7/2)	—	3mm以下の物貯合	2629	銅鏡		
651	土器		—	6	—	ナデ	青銅鏡 (7.5TYR5/20)	透鏡 (10YR6/2)	3mm以下の物貯合	6087	銅鏡		
652	土器		—	7	—	ナデ	青銅鏡 (10YR7/2)	透鏡 (10YR7/2)	3mm以下の物貯合	6446	銅口鏡		
653	土器		—	5	—	ナデ	青銅鏡 (10YR8/3)	透鏡 (10YR8/3)	—	6282	銅鏡		
654	土器		—	7.6	—	ナデ	青銅鏡 (10YR6/2)	透鏡 (10YR6/2)	2mm以下の物貯合	3201	銅鏡		
655	土器		—	9	—	ナデ	青銅鏡 (10YR8/3)	透鏡 (10YR8/3)	—	2580	銅鏡		
656	米輪器		—	—	—	—	—	—	—	6113	—		
657	米輪器		—	—	—	—	—	—	—	6113	—		
658	米輪器		—	—	—	—	—	—	—	6259	銅		
659	米輪器		—	—	ナデ	ナデ	青銅鏡 (7.5TYR4/2)	透鏡 (7.5TYR4/2)	3mm以下の物貯合	—	銅鏡 実物 キングウーホ		
660	土器		—	—	ナデ	ナデ	青銅鏡 (10YR7/2)	透鏡 (10YR7/2)	2mm以下の物貯合	2416	銅口鏡 キングウーホ		
661	土器		—	—	ナデ	ナデ	青銅鏡 (10YR6/3)	透鏡 (10YR6/3)	2mm以下の物貯合	2427	銅口鏡 キングウーホ		
662	土器		—	—	ナデ	ナデ	青銅鏡 (7.5TYR5/4)	透鏡 (7.5TYR5/4)	2mm以下の物貯合	2414	銅口鏡 キングウーホ		
663	土器		—	—	ナデ	ナデ	青銅鏡 (10YR7/2)	透鏡 (10YR7/2)	2mm以下の物貯合	4943	銅口鏡 キングウーホ		
664	土器		—	15.5	—	ナデ	青銅鏡 (7.5TYR6/4)	透鏡 (7.5TYR6/4)	3mm以下の物貯合	713	銅口鏡 キングウーホ		
665	土器		—	—	ナデ	ナデ	青銅鏡 (7.5TYR6/4)	透鏡 (7.5TYR6/4)	3mm以下の物貯合	627	銅口鏡 キングウーホ		

第20表 出土遺物觀察表 (20)

目次	種別	地點(遺跡名)	層位(測量目)	性質	全高	外側	内側	壁	土		測量上位	備考
									延長	幅		
606	土壙		—	—	—	ナゲ	ナゲ	ナゲ	に-小-圓錐 (7.5YR 6/4)	に-小-圓錐 (10YR 6/7)	ごく-小-圓錐	突出あり キンクンモ
667	土壙	29	—	—	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	に-小-圓錐 (7.5YR 5/3)	に-小-圓錐 (7.5YR 5/2)	2mm以上の底地合	突出部 キンクンモ
668	土壙	19	—	—	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	に-小-圓錐 (7.5YR 6/3)	に-小-圓錐 (7.5YR 6/2)	2mm以上の底地合	4T 窓? 口縁部 キンクンモ
669	土壙	—	—	—	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	に-小-圓錐 (7.5YR 6/4)	に-小-圓錐 (7.5YR 6/4)	3mm以上の底地合	窓? 口縁部 キンクンモ
670	土壙	—	—	—	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	灰白 (10YR 8/2)	灰白 (10YR 8/2)	3mm以上の底地合	窓? 口縁部
671	土壙	—	—	—	ナゲ	—	—	—	—	—	3mm以上の底地合	49.6
672	土壙	—	—	—	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	灰白 (10YR 7/1)	灰白 (10YR 7/1)	3mm以上の底地合	45.1
673	土壙	—	—	—	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	に-小-圓錐 (10YR 7/4)	に-小-圓錐 (10YR 7/3)	4mm以上の底地合	口縁部
674	土壙	—	—	—	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	に-小-圓錐 (10YR 7/2)	に-小-圓錐 (10YR 6/3)	2.5mm以下の底地合	口縁部
675	土壙	25.4	—	—	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	に-小-圓錐 (7.5YR 5/4)	に-小-圓錐 (7.5YR 5/3)	2mm以上の底地合	66.2
676	土壙	22.4	—	—	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	に-小-圓錐 (7.5YR 7/3)	に-小-圓錐 (7.5YR 7/2)	2mm以上の底地合	70.3
677	土壙	—	—	—	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	に-小-圓錐 (10YR 7/2)	に-小-圓錐 (10YR 7/2)	3mm以上の底地合	64.8 - 64.8 - 64.8
678	土壙	—	—	—	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	に-小-圓錐 (10YR 7/2)	に-小-圓錐 (10YR 7/2)	3mm以上の底地合	49.6
S D 6 8	土壙	—	—	—	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	に-小-圓錐 (10YR 7/3)	に-小-圓錐 (10YR 7/2)	3mm以上の底地合	30.72
679	土壙	—	—	—	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	に-小-圓錐 (10YR 8/3)	に-小-圓錐 (10YR 8/3)	3mm以上の底地合	—
680	土壙	—	—	—	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	—	—	2mm以上の底地合	38.5
681	土壙	—	—	—	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	に-小-圓錐 (10YR 8/5)	に-小-圓錐 (10YR 8/5)	3mm以上の底地合	66.6
682	土壙	—	—	—	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	RE (5YR 7/2) - C (5YR 7/2) - C (5YR 7/2) - C (5YR 7/2)	RE (5YR 7/2) - C (5YR 7/2) - C (5YR 7/2) - C (5YR 7/2)	2mm以上の底地合	70.2
683	土壙	—	—	—	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	に-小-圓錐 (10YR 7/2)	に-小-圓錐 (10YR 7/2)	2mm以上の底地合	—
684	土壙	—	—	—	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	に-小-圓錐 (10YR 7/2)	に-小-圓錐 (10YR 7/2)	3mm以上の底地合	34.4
685	土壙	—	—	—	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	に-小-圓錐 (10YR 7/2)	に-小-圓錐 (10YR 7/2)	3mm以上の底地合	34.5 - 35.0
686	土壙	—	—	—	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	に-小-圓錐 (10YR 7/3)	に-小-圓錐 (10YR 7/3)	3mm以上の底地合	—
687	土壙	—	—	—	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	に-小-圓錐 (10YR 7/3)	に-小-圓錐 (10YR 7/3)	3mm以上の底地合	—
688	土壙	—	—	—	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	に-小-圓錐 (10YR 7/3)	に-小-圓錐 (10YR 7/3)	3mm以上の底地合	—
689	陶器	7.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	70.0 チリ力量
690	陶器	—	—	—	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	に-小-圓錐 (10YR 7/3)	に-小-圓錐 (10YR 7/3)	2mm以上の底地合	43.6
691	陶器	—	—	—	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	—	—	—	70.0 陶器 サツマ系
692	土壙	—	—	—	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	に-小-圓錐 (10YR 4/1)	に-小-圓錐 (10YR 4/2)	3mm以下の底地合	61.70
693	土壙	—	—	—	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	—	—	—	28.93
694	土壙	—	—	—	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	に-小-圓錐 (7.5YR 4/4)	に-小-圓錐 (7.5YR 5/4)	ごく-小-圓錐	突出あり キンクンモ
695	土壙	20	—	—	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	に-小-圓錐 (10Y R 8/4)	に-小-圓錐 (10Y R 7/3)	2mm以上の底地合	26.08
696	土壙	16	—	—	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	に-小-圓錐 (10Y R 8/3)	に-小-圓錐 (10Y R 8/3)	2mm以上の底地合	27.03
697	土壙	—	—	—	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	に-小-圓錐 (10Y R 8/2)	に-小-圓錐 (10Y R 8/2)	2mm以上の底地合	—
698	土壙	—	—	—	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	に-小-圓錐 (7.5YR 8/6)	に-小-圓錐 (10Y R 8/2)	ごく-小-圓錐	77.3
699	土壙	—	—	—	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	に-小-圓錐 (7.5YR 8/6)	に-小-圓錐 (10Y R 8/2)	2mm以上の底地合	64.05
700	土壙	—	—	—	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ	に-小-圓錐 (10Y R 7/3)	に-小-圓錐 (10Y R 7/4)	3mm以上の底地合	26.99

第21表 出土遺物観察表 (21)

部No.	組別	地区(遺跡地番)	口径(深さ)	法	縦	横	縦	横	外、圓	内、圓	色	地	土	號	上No.	備考	
					直	斜	直	斜	直	斜							
701	石器		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6174	新石	
702	石器		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6176	新石	
103	木製品		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6239		
704	木製品		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6178		
705	木製品	SD 09	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2706	用材? 木材5	
706	木製品		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6228		
707	木製品		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6411	軋? 木材3	
708	木製品		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6411		
709	木製品		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6459		
710	木製品		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
711	土器		22	—	—	—	—	—	ナデ	電 (SYTR/6)	に-引-縫 (75YR7/4)	4mm以下の地物	—	—	2567	口付部	
712	土器		—	—	—	—	—	—	ナデ	灰褐 (SYTR/4)	に-引-縫 (10YR7/3)	3mm以下地物	—	—	2567	口付部	
713	土器		—	—	—	—	—	—	ナデ	灰褐 (75YR7/4)	に-引-縫 (75YR7/3)	3mm以下地物	—	—	2564	口付部	
714	土器		—	—	—	—	—	—	ナデ	8mm褐 (10YR8/3)	に-引-縫 (6YR7/2)	3mm以下地物	—	—	763	口付部	
715	土器		—	—	—	—	—	—	ナデ	に-引-縫 (75YR6/3)	に-引-縫 (75YR6/3)	ごく-細-小地物	—	—	5887	口付部	
716	土器	SD 10	—	—	—	—	—	—	ミガキ	ナデ	に-引-縫 (75YR6/2)	に-引-縫 (75YR6/2)	1mm以下地物	—	—	766	口付部
717	土器		—	—	—	—	—	—	ナデハケ	ナデ	に-引-縫 (10YR6/2)	に-引-縫 (10YR7/3)	7mm以下地物	735	2562	—15	金銀器
718	土器		—	—	—	—	—	—	ナデハサ	ナデ	に-引-縫 (75YR6/3)	に-引-縫 (75YR6/3)	2mm以下地物	—	—	2879	則形 実地あり キーワンモ
719	土器		—	—	—	—	—	—	ナデ	灰褐 (10YR6/1)	に-引-縫 (10YR6/1)	1mm以下地物	5881	—5902	実地		
720	土器		—	—	—	—	—	—	ナデ	灰褐 (10YR8/2)	に-引-縫 (10YR7/2)	3mm以下地物	769	底部			
721	陶器		26.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
722	土器	SD 11	—	—	—	—	—	—	ナデ	電 (SYTR/6)	電 (SYTR/6)	3mm以下地物	—	—	4605	口付部	
723	土器		31	—	—	—	—	—	ナデ	に-引-縫 (10YR7/2)	に-引-縫 (10YR7/2)	2mm以下地物	5065	口付部			
724	土器		—	7	—	—	—	ナデ	に-引-縫 (75YR6/4)	に-引-縫 (75YR6/4)	2mm以下地物	2168	新規 内外壁				
725	土器		4.5	—	2.2-2.3	—	—	ナデ	に-引-縫 (10YR7/2)	に-引-縫 (10YR7/2)	ごく-細-小地物	2181	ミニチュア 瓶形				
726	土器		—	6.6	—	—	ナデ	—	に-引-縫 (75YR6/4)	—	3mm以下地物	5025	底部				
727	土器		—	—	—	ナデ	灰白 (10YR7/1)	灰白 (10YR7/1)	3mm以下地物	2095	—4980	新規					
728	土器		14	—	—	ナデ	に-引-縫 (75YR7/4)	に-引-縫 (75YR7/4)	3mm以下地物	7181	—7403	新口部					
729	土器	SD 13	10.8	—	—	ナデ	電 (SYTR/4)	電 (SYTR/4)	ごく-細-小地物	2177	2178	新 口部 - 接触痕あり					
730	土器		—	—	—	ナデ	に-引-縫 (75YR7/4)	に-引-縫 (75YR7/4)	ごく-細-小地物	2178	新規	触痕あり					
731	土器		—	—	—	ナデ	に-引-縫 (10YR7/3)	に-引-縫 (10YR7/3)	ごく-細-小地物	5008	底部						
732	土器		—	—	7.5	—	ナデ	に-引-縫 (10YR7/3)	灰白 (10YR6/1)	2mm以下地物	5030	受底部					
733	土器		9	3.7	4.1-4.8	ナデ	に-引-縫 (10YR5/4)	に-引-縫 (10YR5/4)	に-引-縫 (10YR5/4)	3mm以下地物	6032	接觸あり					
734	土器		28.2	—	—	ナデ	灰白 (75YR6/3)	灰白 (75YR6/3)	ごく-細-小地物	5029	5040	新口部 キーワンモ					
735	土器	—13	25	—	—	ナデ	灰白 (75YR6/3)	灰白 (75YR6/3)	2mm以下地物	5035	新口部 キーワンモ						

第22表 出土遺物調査表 (22)

品目No.	種別	地名(発掘場所)	口径(Φmm)	底径(Φmm)	高さ	外観	内観	内面	外面	裏面	裏面	材	土	表面	備考	
736	土器	地名(発掘場所)	30.5	—	—	ナデ	陶質地	陶質地 (10YR8/3)	陶質地 (10YR8/3)	—	—	2165	黄口無柄			
737	石器	SD 1.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2187	滑石			
738	石器	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4982	滑石			
739	土器	—	30.2	—	—	ナデ	テラヘルツ	テラヘルツ (7.5YR8/4)	—	—	—	6573	黄口無柄 裂れあり キンクンモ			
740	土器	A.5c	V	25.4	—	—	ナデ	ナデ	ナデ (7.5YR8/3)	ナデ (7.5YR8/3)	—	—	13	要口無柄 裂れあり キンクンモ		
741	土器	A.6c	V	27.9	—	—	ナデ	ナデ	ナデ (7.5YR8/3)	ナデ (7.5YR8/3)	—	—	124 - 125	黄口無柄 キンクンモ		
742	土器	A.9c	V	23.6	—	—	ナデ	ナデ	ナデ (7.5YR8/4)	ナデ (7.5YR8/4)	—	—	4652 - 4653	黄口無柄 キンクンモ		
743	土器	C.1b	V	—	—	—	ナデハケ	ナデ	ナデ (7.5YR8/2)	ナデ (7.5YR8/2)	—	—	2242	黄口無柄 キンクンモ		
744	土器	B.6a	V	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ (7.5YR8/3)	ナデ (7.5YR8/3)	—	—	1369	黄口無柄 キンクンモ		
745	土器	B.6a	V	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ (7.5YR8/4)	ナデ (7.5YR8/4)	—	—	1363	黄口無柄 キンクンモ		
746	土器	B.7c	V	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ (7.5YR8/4)	ナデ (7.5YR8/4)	—	—	1186	黄口無柄 キンクンモ 外スズ		
747	土器	B.7c	V	—	6	—	ナデ	—	—	—	—	1504	黄口無柄 キンクンモ			
748	土器	B.8a	V	—	7	—	ナデ	—	—	—	—	1788	黄口無柄 キンクンモ 焼毛			
749	土器	B.8a	V	—	7.2	—	ナデ	—	—	—	—	1847	黄口無柄 キンクンモ			
750	土器	—	16	—	—	ナデ	ナデ	ナデ (7.5YR8/4)	ナデ (7.5YR8/4)	—	—	1537	黄口無柄 キンクンモ			
751	土器	C.1b	V	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ (7.5YR8/3)	ナデ (7.5YR8/3)	—	—	2244	黄口無柄		
752	土器	A.8a	V	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ (7.5YR8/3)	ナデ (7.5YR8/3)	—	—	435	黄口無柄 外スズ		
753	土器	—	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ (7.5YR8/3)	ナデ (7.5YR8/3)	—	—	166	黄口無柄		
754	土器	A.6b	V	30	—	—	ナデ	ナデ	ナデ (10YR8/3)	ナデ (10YR8/3)	—	—	435 - 436	黄口無柄 外スズ		
755	土器	A.8a	V	28.8	—	—	ナデ	ナデ	ナデ (10YR8/1)	ナデ (10YR8/1)	—	—	140	黄口無柄		
756	土器	—	23.4	—	—	—	ナデハケ	ナデ	ナデ (10YR8/3)	ナデ (10YR8/3)	—	—	526	黄口無柄		
757	土器	—	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ (10YR8/3)	ナデ (10YR8/3)	—	—	1944	黄口無柄		
758	土器	B.4c	V	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ (10YR7/3)	ナデ (10YR7/3)	—	—	1534	黄口無柄		
759	土器	—	28	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ (10YR7/3)	ナデ (10YR7/3)	—	—	1081	黄口無柄		
760	土器	B.6a	V	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ (10YR8/4)	ナデ (10YR8/4)	—	—	1447	口輪毛		
761	土器	C.3c	V	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ (10YR8/2)	ナデ (10YR8/2)	—	—	2147	口輪毛		
762	土器	—	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ (10YR7/3)	ナデ (10YR7/3)	—	—	2280	口輪毛		
763	土器	—	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ (10YR7/6)	ナデ (10YR7/6)	—	—	—	—	—	
764	土器	B.10a	V	39.6	—	—	ナデ	ナデ	ナデ (10YR7/3)	ナデ (10YR7/3)	—	—	1127 - 1130	口輪毛 金子Tゲリ		
765	土器	B.11c	V	20.8	—	—	ナデ	ナデ	ナデ (10YR8/2)	ナデ (10YR8/2)	—	—	2007	口輪毛 金子Tゲリ		
766	土器	C.1b	V	—	—	—	ナデ	—	ナデ (10YR7/3)	ナデ (10YR7/3)	—	—	2251	口輪毛		
767	土器	—	—	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ (10YR8/2)	ナデ (10YR8/2)	—	—	1248	要口無柄		
768	土器	C.1b	V	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ (10YR8/2)	ナデ (10YR8/2)	—	—	2235	要口無柄 裂れあり キンクンモ		
769	土器	B.10a	V	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ (10YR7/3)	ナデ (10YR7/3)	—	—	1128	要口無柄 実底あり キンクンモ		
770	土器	A.6c	V	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ (10YR8/3)	ナデ (10YR8/3)	—	—	15	要口無柄 実底あり		

図版No.	種別	地区(遺跡名)	口番(組番)	施 工	地 面	外 壁	内 壁	内 地	壁		色	材 土	施上計画	備 考	
									高	幅					
771	土塁	B4c	V	—	—	—	ナデ	ナデ	に高い貴重 (10YR7/3)	断面 (0.5Y7/3)	3mm以下地物合	1948	明治 実測あり		
772	土塁	B8d	V	—	—	—	ナデ	ナデ	に低い貴重 (10YR7/3)	断面 (0.5Y7/3)	2mm以下地物合	1637~1839	明治か 緑松文 外スス		
773	土塁	C3d	V	—	—	—	ナデ	ナデ	低い貴重 (2.5Y7/2)	に高い貴重 (10YR7/2)	ごく低い貴重 (10YR7/2)	6673	明治 緑松文 キンクンセア		
774	土塁	A8d	V	—	7	—	ナデ	ナデ	低い貴重 (10YR7/2)	に高い貴重 (10YR7/2)	ごく低い貴重 (10YR7/2)	2153	明治 緑松文 キンクンセア		
775	土塁	B1d	V	—	5.8	—	—	ナデ	に高い傾 (7.5YR6/4)	に高い傾 (7.5YR6/4)	1mm以下地物合	8	明治 緑松 文 キンクンセア		
776	土塁	A9c	V	—	6.5	—	—	ナデ	に高い傾 (7.5YR6/3)	に高い傾 (7.5YR6/3)	1mm以下地物合	832	明治 緑松 文 内スス		
777	土塁	A8c	V	—	5.3	—	ナデ	ナデ	低貴 (10YR6/1)	風呂 (10YR6/1)	4mm以下地物合	39	明治 緑松 文		
778	土塁	A8b	V	—	5.4	—	ナデ	ナデ	低い傾 (7.5YR6/4)	に高い傾 (7.5YR6/4)	2mm以下地物合	15	明治 キンクンセア		
779	土路	B7d	V	—	6	—	ナデ	ナデ	低い傾 (7.5YR7/3)	—	2mm以下地物合	476	明治 上塗		
780	土路	B7e	V	—	8.9	—	ナデ	ナデ	低貴 (10YR8/3)	低貴 (10YR8/3)	3mm以下地物合	1186	明治 上塗		
781	土路	B5d	V	—	7	—	ナデ	ナデ	低い貴重 (10YR8/2)	—	4mm以下地物合	2159	明治		
782	土路	A6d	V	—	5.3	—	ナデ	ナデ	低い貴重 (10YR8/2)	—	ごく低い貴重 (10YR8/2)	851	明治 外壁		
783	土路	B6c	V	—	—	—	ナデ	ナデ	低い貴重 (7.5YR6/4)	明治傾 (7.5YR7/2)	3mm以下地物合	495	明治 緑松文 口調節剤目 割りえあり		
784	土路	C1b	V	—	10	—	ナデ	ナデ	低い傾 (7.5YR6/4)	ごく高い傾 (7.5YR6/4)	6mm以下地物合	1327	口調節 口調節剤目		
785	土路	C5c	V	—	—	—	ナデ	ナデ	低い貴重 (10YR8/3)	低貴 (10YR8/3)	3mm以下地物合	2239	明治?		
786	石垣	B9c	V	—	—	—	ナデ	ナデ	—	—	—	—	—	—	
787	石垣	B9e	V	—	—	—	ナデ	ナデ	—	—	—	—	—	—	
788	石垣	B9c	N	—	—	—	ナデ	ナデ	—	—	—	—	—	—	
789	石垣	A3e	V	—	—	—	ナデ	ナデ	—	—	—	—	—	—	
790	石垣	C1d	V	—	—	—	ナデ	ナデ	—	—	—	—	—	—	
791	石垣	B7c	V	—	—	—	ナデ	ナデ	—	—	—	—	—	—	
792	土塁	B1d	V	—	—	—	ナデ	ナデ	低貴 (7.5YR6/6)	低 (7.5YR6/6)	3mm以下地物合	1642	明治 壁		
793	土塁	B10d	V	26.7	—	—	ナデ	ナデ	低い傾 (7.5YR6/4)	低貴 (7.5YR6/4)	6mm以下地物合	1233~1245	夷口一頭面		
794	土塁	C3b	V	—	6.9	—	ナデ	ナデ	低い傾 (7.5YR7/4)	に高い傾 (6YR8/4)	ごく低い貴重 (6YR8/4)	2202~2204	赤部 壁面剥離あり		
795	土塁	C2b	V	—	7	—	ナデ	ナデ	低貴 (7.5YR6/6)	に高い傾 (7.5YR6/6)	3mm以下地物合	2209~2274	所生葉 へり切り		
796	土塁	C1d	V	—	7	—	ナデ	ナデ	低い貴重 (10YR7/3)	に高い貴重 (10YR7/3)	ごく低い貴重 (10YR7/3)	6266	赤部 壁面剥離		
797	土塁	B1b	V	—	9	—	ナデ	ナデ	低い傾 (10YR7/3)	風	ごく低い貴重 (10YR7/3)	2246	所生葉 壁面剥離		
798	土塁	B1d	V	—	—	—	ナデ	ナデ	低い傾 (7.5YR7/4)	に高い傾 (7.5YR7/4)	4mm以下地物合	1468~1498	地底葉		
799	石垣(斜面)	A3e	V	—	—	—	ナデ	ナデ	—	—	—	—	—	—	
800	石垣(斜面)	C5	N	10	3.2	3.6	ナデ	ナデ	—	—	—	—	269	夷口 壁面剥離文 1b網 13c	
801	石垣(斜面)	C3b	V	15	—	—	ナデ	ナデ	—	—	—	—	—	—	
802	石垣(斜面)	B1	N	16.3	—	—	ナデ	ナデ	—	—	—	—	2197	夷口 壁面剥離文	
803	石垣(斜面)	A3	V	13.4	—	—	ナデ	ナデ	—	—	—	—	—	—	
804	石垣(斜面)	A6d	N	11	—	—	ナデ	ナデ	—	—	—	—	—	—	
805	石垣(斜面)	—	—	—	—	—	ナデ	ナデ	—	—	—	—	145	夷口 壁面剥離文 15c 壁	

第23表 出土・遺物観察表 (23)

第24表 出土遺物觀察表 (24)

器物名	形 狀	測量(厘米)	底 口徑(厘米)	底 面	底 盤 高	底 盤 直 徑	外 面	內 面	地		地 質 類 型
									上	下	
B66 鏊頭	圓錐形(鋸齒)	C.3	IV	—	6.5	—	—	—	—	—	輪廓分明 鐵頭
B67 鏊頭	圓錐形(鋸齒)	B.64	III	—	—	—	—	—	—	—	輪廓分明 鐵頭
B68 鏊頭	圓錐形(鋸齒)	A.9c	V	—	3.8	—	—	—	—	—	輪廓分明 鐵頭
B69 鏊頭	圓錐形(鋸齒)	B.9	IV	—	6	—	—	—	—	—	輪廓分明 鐵頭
S.10 鏊頭	圓錐形(鋸齒)	B.6a	IV	—	—	—	—	—	—	—	輪廓分明 鐵頭
S.11 鏊頭	圓錐形(鋸齒)	A.6	IV	17.6	—	—	—	—	—	—	輪廓分明 鐵頭
S.12 鏊頭	圓錐形(鋸齒)	A.6a	V	12.4	—	—	—	—	—	—	輪廓分明 鐵頭
S.13 鏊頭	圓錐形	A.7	V	—	8	—	—	—	—	—	圓錐形
S.14 鏊頭	圓錐形	B.11	IV	—	6.6	—	—	—	—	—	圓錐形
S.15 鏊頭	圓錐形	B.11	IV	8.6	—	—	—	—	—	—	圓錐形
S.16 鏊頭	圓錐形	C.8	IV	12.4	7.8	2.75	—	—	—	—	圓錐形
S.17 鏊頭	圓錐形	A.4	IV	—	4.6	—	—	—	—	—	圓錐形 見S.12之「例」
S.18 鏊頭	圓錐形	C.8	IV	—	6.4	—	—	—	—	—	圓錐形 見S.12之「例」
S.19 鏊頭	圓錐形	—	—	—	—	—	—	—	—	—	圓錐形 肥前灰 留宮文 18~19c

1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸 (SiO_2) が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石（プラント・オパール）となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壤などから検出して同定・定量する方法であり、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査が可能である（杉山,2000）。

2. 試料

試料は、70Tおよび80Tの2地点から採取された計28点である。試料採取箇所を分析結果の模式柱状図に示す。

3. 分析法

プラント・オパール分析は、ガラスピーズ法（藤原,1976）を用いて、次の手順で行った。

- 1) 試料を105°Cで24時間乾燥（絶乾）
- 2) 試料約1gに対し直径約40 μm のガラスピーズを約0.02g添加（電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量）
- 3) 電気炉灰化法（550°C・6時間）による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射（300W・42kHz・10分間）による分散
- 5) 沈底法による20 μm 以下の微粒子除去
- 6) 封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールを対象として行った。計数は、ガラスピーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスピーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスピーズ個数の比率をかけて、試料1g中のプラント・オパール個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位：10g）をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。イネ（赤米）の換算係数は2.94（種実量は1.03）、ヒエ属（ヒエ）は8.40、ヨシ属（ヨシ）は6.31、ススキ属（ススキ）は1.24、タケア科（ネザサ節）は0.48である。

4. 分析結果

水田跡（稲作跡）の検討が主目的であることから、同定および定量はイネ、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型、タケア科の主要な5分類群に限定した。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1および図1に示した。写真図版に主要な分類群の顕微鏡写真を示す。

5. 考察

(1) 水田跡の検討

水田跡（稲作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが試料1 gあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している（杉山,2000）。ただし、密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。

1) 70T

桜島文明軽石直下の黒褐色土層（試料1）から灰褐色土層（試料16）までの層準について検討を行った。その結果、黒褐色土層（試料1）および弥生時代とされる暗褐色土層（試料2、3）からイネが検出された。このうち、黒褐色土層（試料1）では密度が800～1,500個/gと比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、洪水などによって耕作土が流出したこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、および上層や他所からの混入などが考えられる。

2) 80T

桜島文明軽石直下の暗褐色土層（試料1）から霧島御池軽石直下の灰褐色土層（試料12）までの層準について分析を行った。その結果、暗褐色土層（試料1）からイネが検出された。密度は5,300個/gと高い値である。したがって、同層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

(2) イネ科栽培植物の推定

植物珪酸体分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネ以外にもムギ類やヒエ属型（ヒエが含まれる）などがあるが、これらの分類群はいずれの試料からも検出されなかった。

(3) 堆積環境の推定

ヨシ属は湿地的なところに生育し、ススキ属やタケ亜科は比較的乾いたところに生育している。このことから、これらの植物の出現状況を検討することによって、堆積当時の環境（乾燥・湿潤）を推定することができる。

おもな分類群の推定生産量によると、おおむねヨシ属が優勢であり、部分的にタケ亜科も多くなっていることが分かる。また、定量は行わなかったが、弥生時代以前の層準ではブナ科（シイ属）、クスノキ科、マンサク科（イスノキ属）などの樹木（照葉樹）が多く検出された。

以上のことから、稲作が開始される以前の調査区周辺は、ヨシ属などが生育する湿地的な環境であったと考えられ、弥生時代とされる暗褐色土層の時期に水田稲作が開始されたと推定される。また、当時の遺跡周辺にはタケ亜科やススキ属などのイネ科植生が分布していたと考えられ、弥生時代以前にはシイ属、クスノキ科、イスノキ属などの照葉樹林も分布していたと推定される。

6.まとめ

プラント・オパール分析の結果、桜島文明軽石（1471年）直下層からはイネが多量に検出され、稲作が行われていた可能性が高いと判断された。また、弥生時代とされる暗褐色土層でも、稲作が行われていた可能性が認められた。

本遺跡周辺は、稲作が開始される以前はヨシ属などが生育する湿地的な環境であったと考えられ、弥生時代とされる暗褐色土層の時期に水田稲作が開始されたと推定される。当時の遺跡周辺にはタケ亜科やス

スキ属などのイネ科植生が分布していたと考えられ、弥生時代以前にはシイ属、クスノキ科、イスノキ属などの照葉樹林も分布していたと推定される。

【文献】

- 杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）。考古学と植物学。同成社。p.189-213。
藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)～数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法～。考古学と自然科学, 9, p.15-29。
藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)～プラント・オパール分析による水田址の探査～。考古学と自然科学, 17, p.73-85。

第25表 高田遺跡試掘調査におけるプランツ・オバール分析結果

検出密度 (単位: ×100箇/g)

分類群	学名	地点・試料															
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	68	8	15	45	38	45	8	8	22	164	129	15	30	30	15	38
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	68	23	22	45	38	0.09	0.09	0.46	0.09	0.19	0.18	0.18	0.19	0.19	0.75	0.28
スキ属型	<i>Miscanthus</i> type	38	7	15	8	37	8	15	15	15	15	15	15	15	61	23	
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	98	60	37	30	38	45	23	75	75	82	23	45	22	106	197	30

検定生産量 (単位: kg/m²·cm)

分類群	学名	地点・試料														
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	53	22	30	8	30	15	37	30	60	45	22	45			
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	15	0.47	0.47	2.83	2.38	0.48	0.48	1.42	10.34	8.16	0.95	1.89	1.89	0.96	2.37
スキ属型	<i>Miscanthus</i> type	53	30	7	8	38	15	52	8	264	106	52	68			
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	105	97	30	90	89	112	98								

※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。

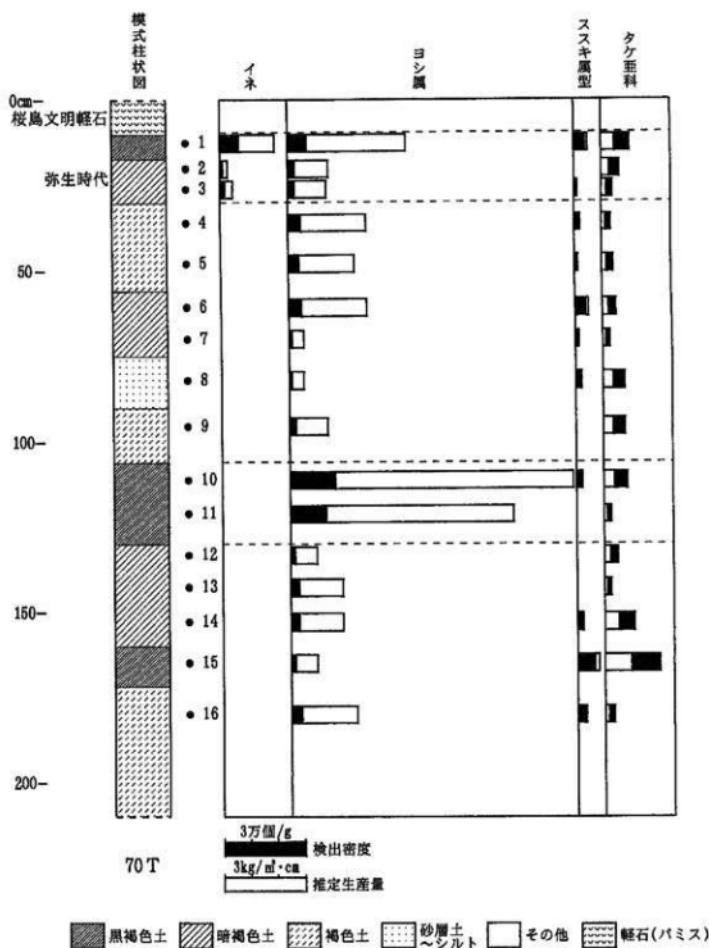
検出密度 (単位: ×100箇/g)

分類群	学名	地点・試料														
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	53	22	30	8	30	15	37	30	60	45	22	45			
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	15	0.47	0.47	2.83	2.38	0.48	0.48	1.42	10.34	8.16	0.95	1.89	1.89	0.96	2.37
スキ属型	<i>Miscanthus</i> type	53	30	7	8	38	15	52	8	264	106	52	68			
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	105	97	30	90	89	112	98								

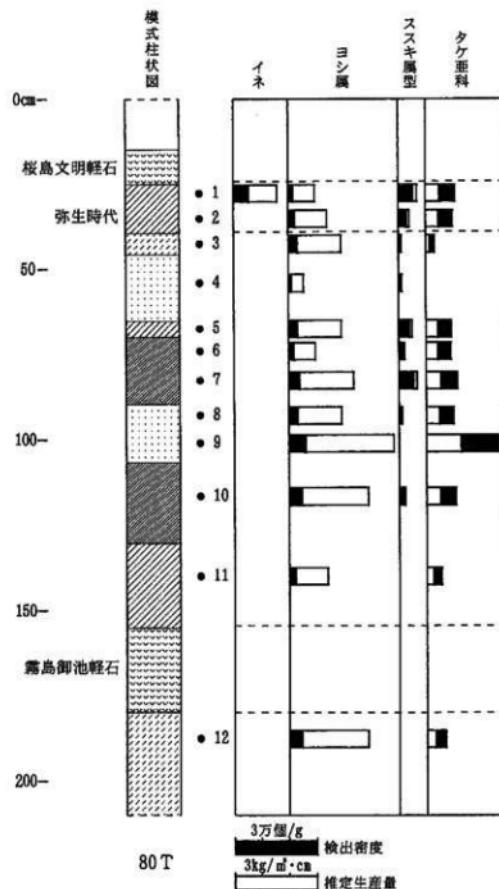
検定生産量 (単位: kg/m²·cm)

分類群	学名	地点・試料											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	1.55	1.42	1.89	0.47	1.90	0.94	2.37	1.90	3.81	2.86	1.41	2.85
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	0.95	0.37	0.09	0.09	0.47	0.18	0.65	0.09	0.19	0.19		
スキ属型	<i>Miscanthus</i> type	0.65	0.47	0.14	0.43	0.43	0.54	0.47	1.27	0.51	0.25	0.33	
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)	0.51											

※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。



第77図 高田遺跡試掘調査におけるプラント・オバール分析結果（1）



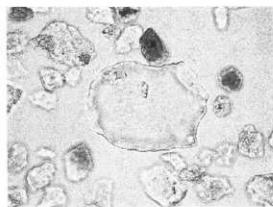
第78図 高田遺跡試掘調査におけるプラント・オパール分析結果（2）



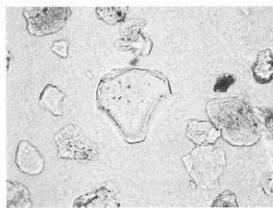
イネ
70T 1



キビ族型
70T 2



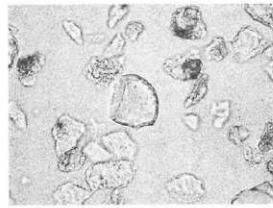
ヨシ属
70T 6



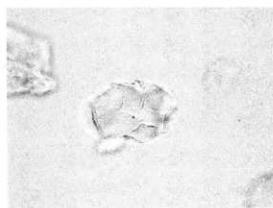
ススキ属型
70T 1



ネズサ節型
70T 1



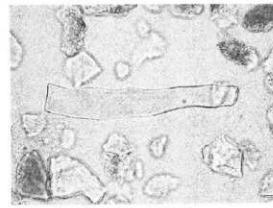
ミヤコザサ節型
70T 6



ブナ科 (シイ属)
70T 9



クスノキ科
70T 16



マンサク科 (イスノキ属)
70T 6

— 50 μ m

写真 1 植物珪酸体 (プラント・オパール) の顕微鏡写真

IV. 樹種同定

株式会社 吉田生物研究所

1. 試料

試料は都城市高田遺跡から出土した木製品15点である。

2. 觀察方法

剃刀で木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

3. 結果

樹種同定結果（広葉樹8種）の表と顕微鏡写真を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

1) ブナ科コナラ属アカガシ亜属 (*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* sp.)

(遺物No.4, 6, 7, 10, 11, 13(小), 14(小), 17, 19)

(写真No.4, 6, 7, 10, 11, 13(小), 14(小), 17, 19)

放射孔材である。木口では年輪に関係なくまちまちな大きさの道管（~200 μm）が放射方向に配列する。軸方向柔細胞は接線方向に1~3細胞幅の独立帶状柔細胞をつくっている。放射組織は単列放射組織と非常に列数の広い放射組織がある。柾目では道管は單穿孔と多数の壁孔を有する。放射組織はおおむね平伏細胞からなり、時々上下縁辺に方形細胞が見られる。道管放射組織間壁孔は大型で柵伏の壁孔が存在する。板目では多数の単列放射組織と放射柔細胞の塊の間に道管以外の軸方向要素が挟まれている集合型と複合型の中間となる型の広放射組織が見られる。アカガシ亜属はイチイガシ、アカガシ、シラカシ等があり、本州（宮城、新潟以南）、四国、九州、琉球に分布する。

2) ブナ科クリ属クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.)

(遺物No.8, 9, 12, 14(大))

(写真No.8, 9, 12, 14(大))

環孔材である。木口は円形ないし橢円形で大体単独の大道管（~500 μm）が年輪にそって幅のかなり広い孔圈部を形成している。孔圈部は急に大きさを減じ薄壁で角張った小道管が単独あるいは2~3個集まって火炎状に配列している。柾目では道管は單穿孔と多数の有線壁孔を有する。放射組織は大体において平伏細胞からなり同性である。板目では多数の単列放射組織が見られ、軸方向要素として道管、それを取り囲む短冊型柔細胞の連なり（ストランド）、軸方向要素の大部分を占める木繊維が見られる。クリは北海道（西南部）、本州、四国、九州に分布する。

3) クワ科クワ属 (*Morus* sp.)

(遺物No.3)

(写真No.3)

環孔材である。木口では大道管（~280 μm）が年輪界にそって1~5列並んで孔圈部を形成している。孔圈外では小道管が2~6個、斜線状ないし接線状、集合状に不規則に複合して散在している。柾目では道管は單穿孔と対列壁孔を有する。小道管には螺旋肥厚もある。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。道管内には充填物（チロース）が見られる。板目では放射組織は1~6列細胞列、高さ~1.1cm

からなる。單列放射組織はあまり見られない。クワ属はヤマグワ、ケグワ、マグワなどがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

4) クスノキ科タブノキ属 (*Machilus* sp.)

(遺物No.14(棒), 19)

(写真No.14(棒), 19)

散孔材である。木口では中庸で厚壁の道管 ($\sim 130 \mu\text{m}$) が単独または2ないし数個が放射方向あるいは斜方向に連続して年輪内に平等に分布する。軸方向柔細胞は道管の周囲を厚く鞘状に囲んでいる。柾目では道管は単穿孔とまれに階段穿孔、側壁に交互壁孔と螺旋肥厚を有する。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。道管と放射組織間壁孔は円形、レンズ状、鐘状の壁孔が並んでいる。板目では放射組織は1~3細胞列、高さ $\sim 600 \mu\text{m}$ からなる。放射組織の直立細胞や軸方向柔細胞が油細胞（樟脳油貯蔵細胞）となったものが見られる。タブノキ属はタブノキ、ホソバタブがあり、本州(日本海側は青森、太平洋側は岩手中部以南)、四国、九州、琉球に分布する。

5) マンサク科イスノキ属イスノキ (*Distylium racemosum* Sieb. et Zucc.)

(遺物No.13(大))

(写真No.13(大))

散孔材である。木口ではやや小さい道管 ($\sim 50 \mu\text{m}$) がおおむね単独で、大きさ数とも年輪全体を通じて変化なく平等に分布する。軸方向柔細胞は黒く接線方向に並び、ほぼ一定の間隔で規則的に配列している。放射組織は1~2列のものが多数走っているのが見られる。柾目では道管は階段穿孔と内部に充填物（チロース）がある。軸方向には黒いじの柔細胞ストランドが多数走っており、一部は提灯状の細胞になっている。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。板目では放射組織は1~2細胞列、高さ $\sim 1 \text{ mm}$ で多数分布している。イスノキは本州(関東以西)、四国、九州、琉球に分布する。

6) センダン科センダン属センダン (*Melia azedarach* L. var. *subtripinnata* Miquel)

(遺物No.5)

(写真No.5)

環孔材である。木口ではきわめて大きい道管 ($\sim 350 \mu\text{m}$) が幅の広い孔隙部を形成している。孔隙外小道管は多数が団塊状に複合して散在している。柾目では道管は単穿孔と多数の有縫壁孔及び螺旋肥厚を有する。道管内には充填物（チロース）が見られる。放射組織は直立と平伏細胞からなり異性である。板目では放射組織は1~6細胞列、高さ $\sim 400 \mu\text{m}$ からなる。センダンは四国、九州に分布する。

7) ツバキ科ツバキ属 (*Camellia* sp.)

(遺物No.1, 16)

(写真No.1, 16)

散孔材である。木口では極めて小さい道管 ($\sim 40 \mu\text{m}$) が、単独ないし2~3個接合して均等に分布する。放射組織は1~3細胞列で黒い筋としてみられる。木纖維の壁はきわめて厚い。柾目では道管は階段穿孔と螺旋肥厚を有する。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。道管放射組織間壁孔（とくに直立細胞）は大型のレンズ状の壁孔が階段状に並んでいる。放射柔細胞の直立細胞と軸方向柔細胞にはダルマ状にふくれているものがある。板目では放射組織は1~4細胞列、高さ $\sim 1 \text{ mm}$ 以下からなり、平伏細胞の多列部の上下または間に直立細胞の单列部がくる構造をしている。木纖維の壁には有縫壁孔が一列に多数並んでいるのが全体で見られる。ツバキ属はツバキ、サザンカ、チャがあり、本州、四国、九州に分布する。

8) ツバキ科ヒサカキ属 (*Eurya* sp.)

(遺物No.2,15)

(写真No.2,15)

散孔材である。木口では極めて小さい道管（～50 μm）が単独ないし2～4個複合して平等に分布する。柾目では道管は階段穿孔と側壁に対列ないし階段壁孔と螺旋肥厚を有する。放射組織は平伏、方形、直立細胞からなり異性である。道管放射組織間壁孔は対列状ないし階段状壁孔が存在する。板目では放射組織は1～4細胞列で、高さ～5 mmからなる。木繊維の壁には有縁壁孔が一列に多数並んでいるのが全体で見られる。ヒサカキ属はヒサカキ、ハマヒサカキがあり、本州（岩手、秋田以南）、四国、九州、琉球に分布する。

◆参考文献◆

島地謙・伊東隆夫「日本の遺跡出土木製品総覧」雄山閣出版（1988）

島地謙・伊東隆夫「図説木材組織」地球社（1982）

伊東隆夫「日本産広葉樹材の解剖学的記載 I～V」京都大学木質科学研究所（1999）

北村四郎・村田源「原色日本植物図鑑木本編 I・II」保育社（1979）

深澤和三「樹体の解剖」海青社（1997）

◆使用顕微鏡◆

Nikon

MICROFLEX UFX-DX Type 115

都城市高田遺跡出土木製品同定表

No.	資料No.	品名	樹種
1	6102	木製品	ツバキ科ツバキ属
2	6259	木製品	ツバキ科ヒサカキ属
3	5821	木製品	クワ科クワ属
4	5817	木製品	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
5	6178	木製品	センダン科センダン属センダン
6	6228	木製品	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
7	6459	木製品	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
8	5789	木製品	ブナ科クリ属クリ
9	6407	木製品	ブナ科クリ属クリ
10	6430	木製品	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
11	5794	木製品	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
12	5790	木製品	ブナ科クリ属クリ
13	2574	木製品（大） （小）	マンサク科イスノキ属イスノキ ブナ科コナラ属アカガシ亜属
14	6113	木製品（大） （小） (棒)	ブナ科クリ属クリ ブナ科コナラ属アカガシ亜属 クスノキ科タブノキ属タブノキ
15	5850	木製品	ツバキ科ヒサカキ属
16	2705	木製品	ツバキ科ツバキ属
17	6239	木製品	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
18	6411	木製品	クスノキ科タブノキ属
19	2573	木製品	ブナ科コナラ属アカガシ亜属

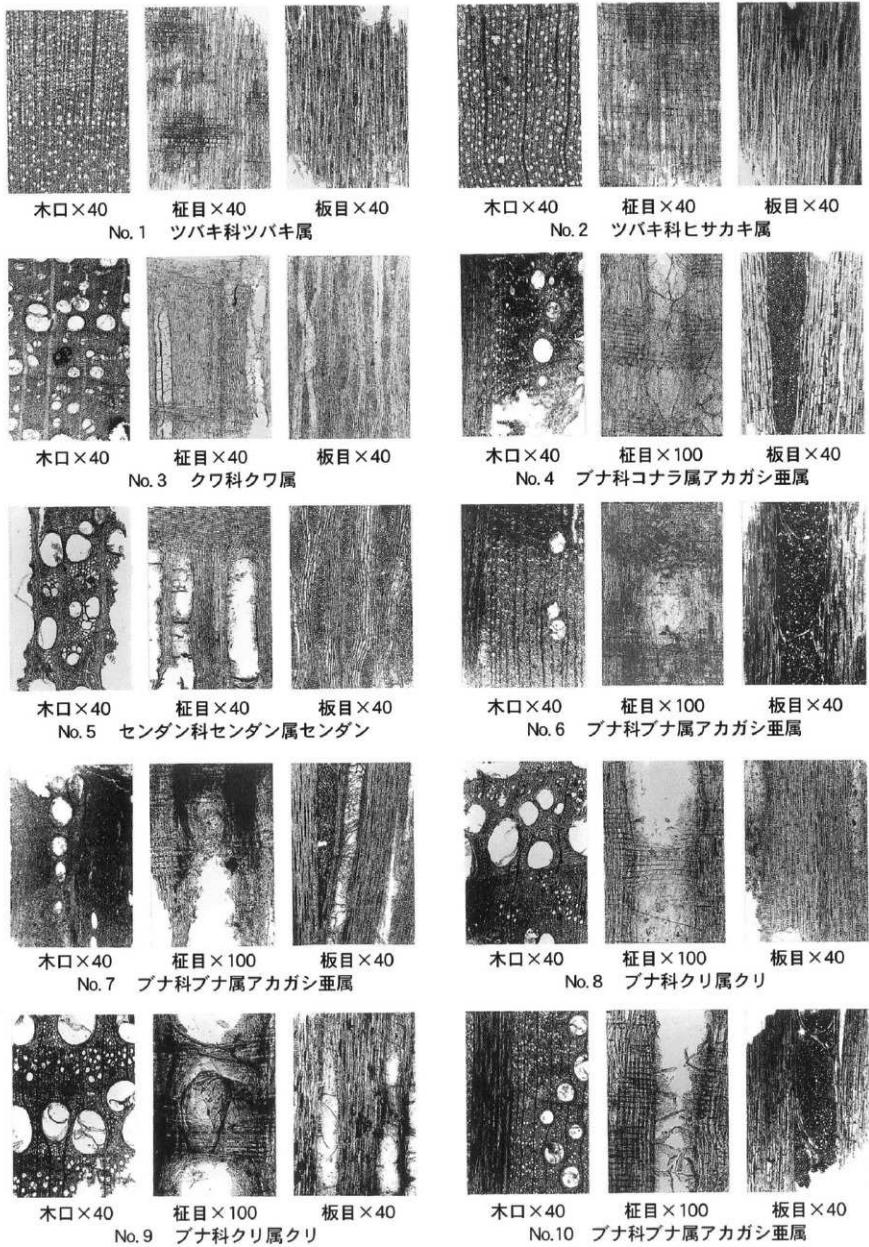


写真2 木製品顕微鏡写真(1)

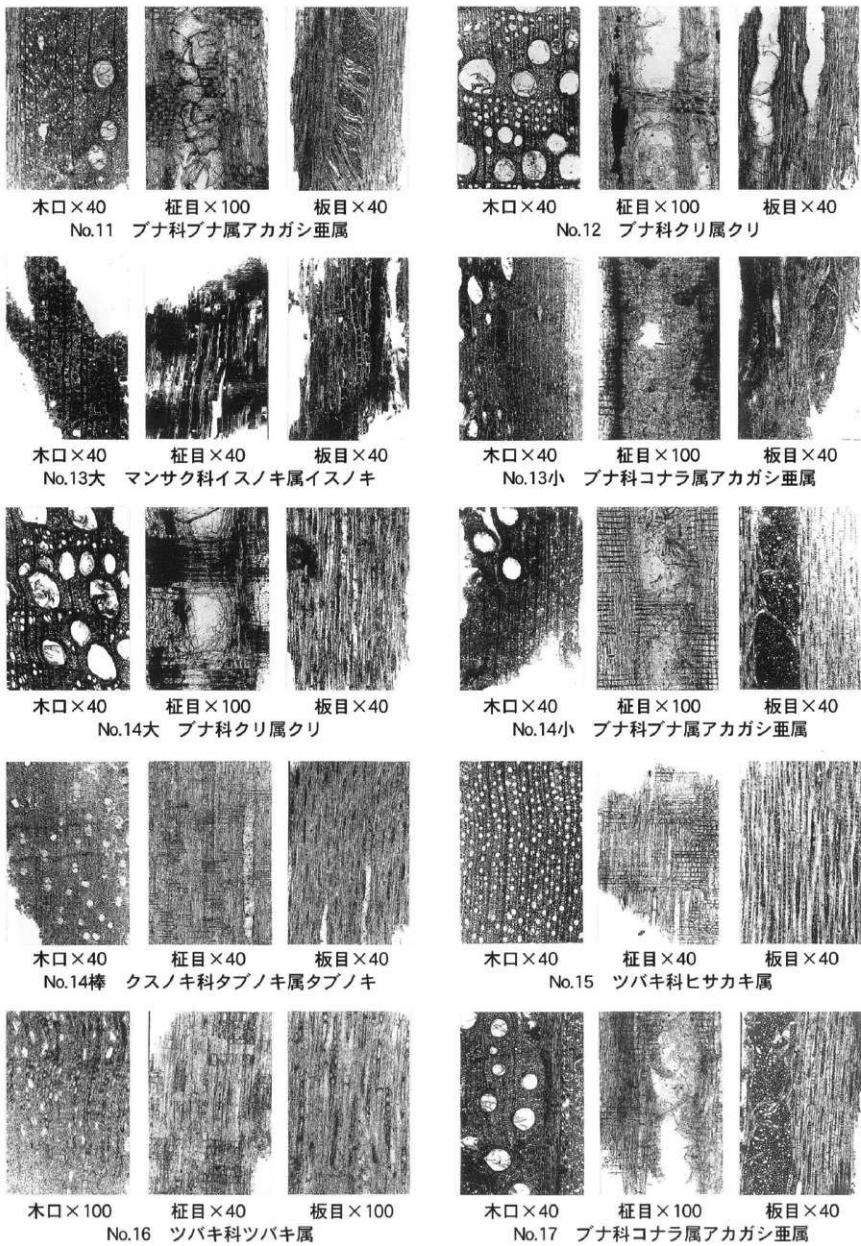


写真3 木製品顕微鏡写真 (2)

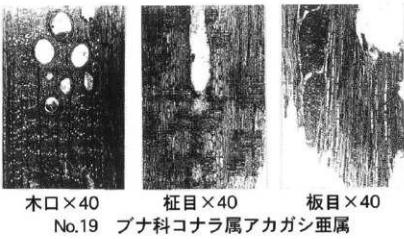
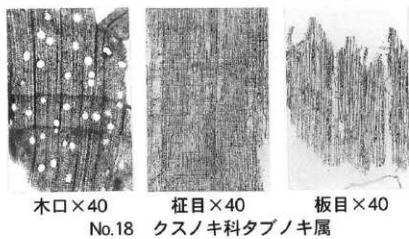


写真4 木製品顕微鏡写真 (3)

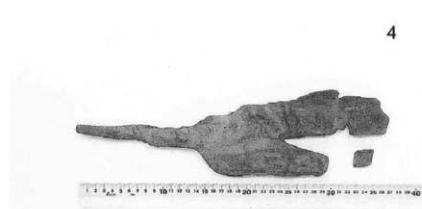
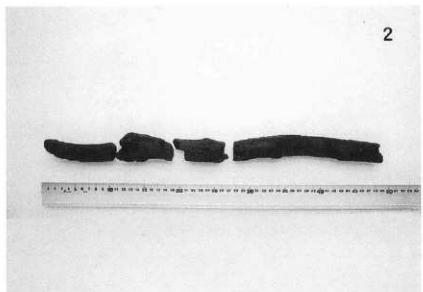
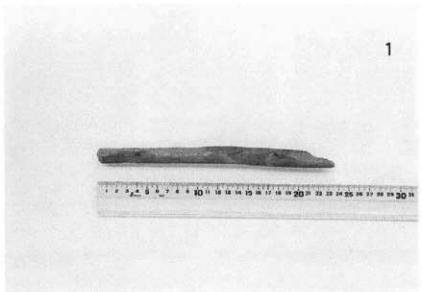


写真5 保存処理前後写真 (1)

写真是左が処理前、右が処理後である。

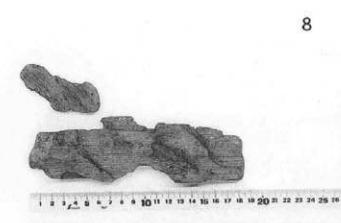
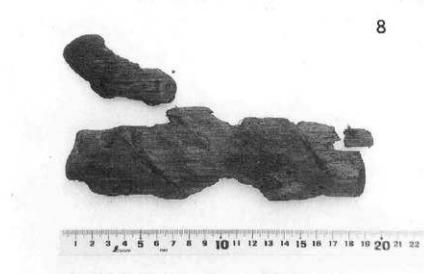
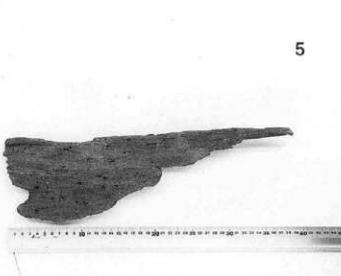
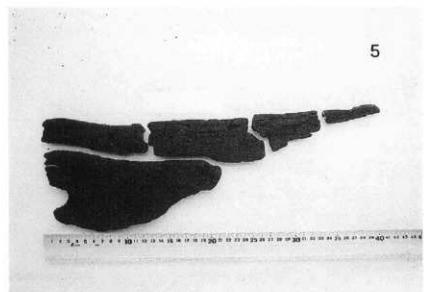


写真6 保存処理前後写真 (2)

写真は左が処理前、右が処理後である。

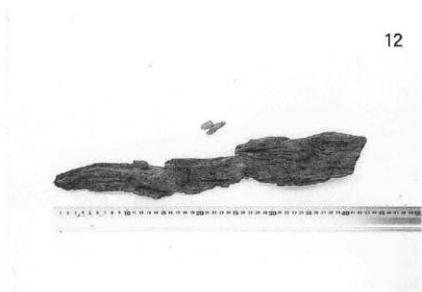
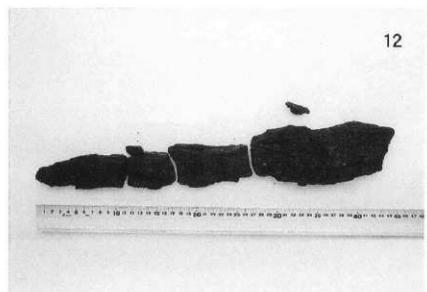
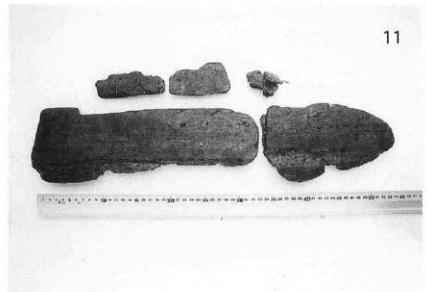
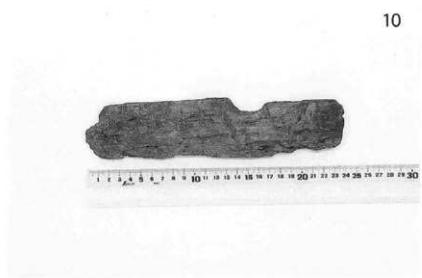
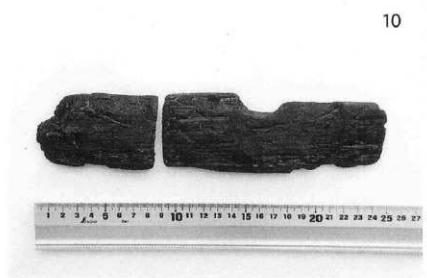
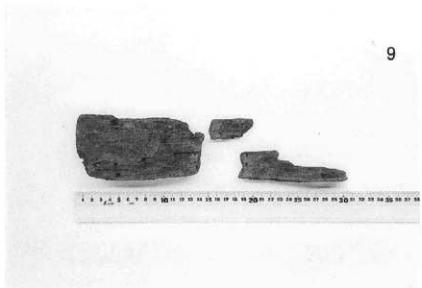


写真7 保存処理前後写真（3）

写真は左が処理前、右が処理後である。

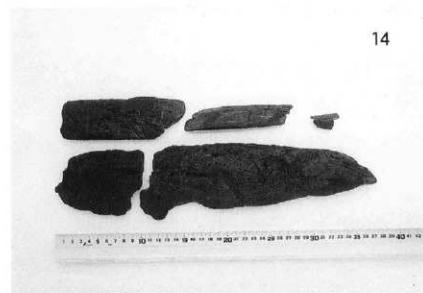
13



13



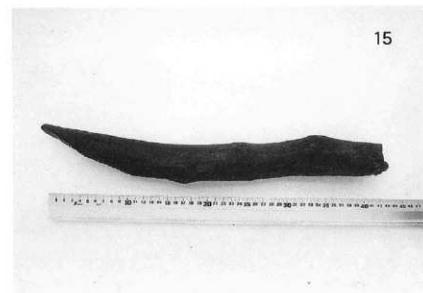
14



14



15



15



16



16

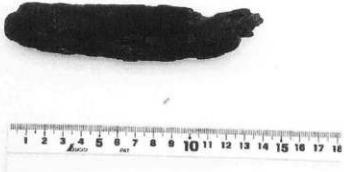
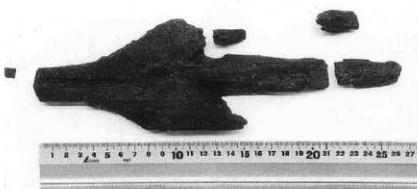


写真 8 保存処理前後写真 (4)

写真は左が処理前、右が処理後である。

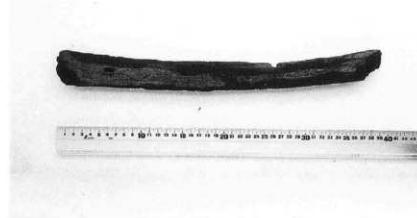
17

17



18

18



19

19



写真 9 保存処理前後写真 (5)

写真是左が処理前、右が処理後である。

VI.まとめ

都城盆地のほぼ中央域に立地する本遺跡では、弥生・中世の遺構・遺物を確認することができた。当市での弥生・中世遺跡の調査は比較的事例が多いが、弥生に関しては土器の構成に特徴がみられ、また中世水田は15世紀段階の広範な分布状況を考古学的に示す好例となった。ここでは、各々について若干の整理をしておきたい。

1 弥生時代・古代の遺構・遺物について

本遺跡に特徴的な遺構について触れ、遺物との関わりを整理しておきたい。

堅穴住居跡の傾向としては、10~17mほどの比較的小型なものが目に付く（SA04・06・07・08・14・15・16）。また、形態としては、方形やそれに近似する橢円状のものが主流（SA02・06・07・08・09・11・12・14?・15?）といえるが、なかには間仕切り的要素を取り込むなど、地域的特徴を含んだ住居もみられる。

SD08は、a・bの2条が存在し、b→aの時期差がある。この08は、第1トレーニングでの検出において、SD01との関連をうかがうことができる。また、東側では第3トレーニングで溝状遺構を検出していることから、08a・bのいずれかがこれに相当すると考えられる。なお、このSD08は、住居群をほぼ取り囲むように立地しており、その走向からSD01や第1・3トレーニングとのつながりも考えられる。

プラントオバール分析結果は弥生期に水田が存在していた可能性を示唆している。これは該地が盆地底に相当しており、元来湿地の環境にあった可能性も高いことから十分に想定できることであり、鍬などの木製農具が出土していることからも、集落の周囲に生産域としての水田がひろがっていたと考えられる。

VIIにおいて加賀氏は、本遺跡の土器群は入来Ⅱ～山ノ口Ⅰ式に該当するものが相当数を占めており、かつ中溝式の混在がみられないことから、中溝式が登場する以前の時期（中期中葉）に相当し、それほどどの時期的な差異がみられないと指摘している。こうした土器の様相から大隅半島の影響を多分に受けていることが垣間見える。

2棟検出した掘立柱建物については、その埋土が第IV層であること、住居との層位関係でいえば明らかに掘立柱建物が後続すること、試掘調査時のデータによれば第IV層相当位から、碎片ながら古代の遺物が出土しており、包含層から須恵片が確認されていることなどから、古代の所産と考えたい。

2 中世水田跡について

まず、本遺跡で確認した水田跡について整理しておきたい。今回検出した水田は全部で36面である。全ての水田面は15世紀後半に桜島から噴出した火山灰、いわゆる白ボラが覆っており、C区のみではあつたが、白ボラを除去した田面の様態は凹凸の激しいものであった。各水田の径や田積を、これまで市内で確認されている文明パック水田を含めて第26表に示した。大略的には、南北方向に長く、これまで確認されている水田に比して田積が大きいものが多い。また、西側より東側のほうへ田積が大きくなっている傾向がみられる。凹凸は人と牛馬の足跡や農耕痕跡が考えられるが、明確には分けられない。水口についても明確な痕跡を見出すことはできなかったが、SW26と27の間にある畦畔は南側部分が開いており、その可能性を示唆するものとして想定できるかもしれない。

次に、市内における近年の水田調査を確認しておきたい。

鶴喰遺跡には、14世紀代と想定される集落が所在した遺跡中央の島状になった台地部分をめぐるように水田が展開していたと考えられ、そしてその後集落は消滅し水田化された。計17面確認した水田面の凹凸痕は激しかったが、1面だけ凹凸痕がない田もあった。科学分析結果でイネ苗も確認され、軽石降低・堆積の時期を想定させる結果を導出した。

鶴喰遺跡の西方に位置する畑田遺跡・母智丘谷遺跡は、自然地形を利用して形成された、一連の水田帶

であったと考えられている。畠田遺跡は中世城郭である新宮城に西接する、台地際に深く入り組んだ谷間部分に展開した水田である。計13面が確認されており、各田面は凹凸痕が激しい様子がみられた。母智丘谷遺跡は谷間をわずかに出た中河川である横市川にほど近い氾濫原に立地する。プラントオパールの分析結果からは、水田稲作が古墳期に行われていたことをうかがわせる結果が得られ、またイネ苗が確認されている。

嫁坂遺跡は、盆地南部金御岳からのびる丘陵に東西を挟まれた、比較的開けた谷間部分に立地する。谷間を蛇行する小河川（旧河道）際に水田が展開しており、9面確認されている。ここでもイネ苗がみられる。

錫尾遺跡は、西側を除く三方を台地裾部に囲まれた湾入地形である。中河川（梅北川）沿いの奥まった部分に位置する水田遺跡であるが、その湾入地形は、この中河川の蛇行の所産であり、それによって形成された湿地（低地面）を利用して水田が営まれたのであろう。ここでは5面を検出しており、凹凸痕のあるものとないものの双方が確認されている。

このように、これまでの水田は台地裾部の湾入地形や河川沿いの沖積段丘における事例が主体となってきた。本遺跡の水田は、大淀川の支流である中小河川に挟まれた地点とはいえ、広大な都城盆地の基底部に相当しており、中世後期段階における水田域の実態が看取できる。また応永32年（1425）に作成された「中郷西方内検取帳」には姫木（都城市役所南側一帯か）、坂元（上長飯町）など本遺跡に近接する地名がみられ、該期水田域の広範な展開を裏づけている。

以上、水田に関して若干の総括を試みたが、水田面に残る凹凸痕の性格や初夏とも秋とも想定される復旧時期など、検討すべき課題は依然として山積しており、事例の増加が待たれる。また、火山災害への対応もさることながら、開発史的侧面や農業史的侧面からのアプローチや、地名の検証などといった文献的な検討も含めて、中世水田の様態を考えていく必要もあるろう。

【参考文献】

- 石川悦雄 1983 「日向における外葉系の土器の伝播とその地域性（1）
—瀬戸内・畿内系土器の流入とその展開ー」
〔宮崎県総合博物館研究紀要〕9
- 石川悦雄 1984 「宮崎平野における弥生土器編年試案－素描（M.k.II）」
〔宮崎考古〕9
- 能登 健 1989 「農耕集落論研究の現段階」
〔歴史評論〕466
- 中園 瞳 1997 「九州南部地域弥生土器編年」
〔人類史研究〕9
- 都城市教育委員会 1997 『大浦遺跡』 都城市文化財調査報告書第37集
- 都城市教育委員会 1997 『鬼東家文書』 都城市文化財調査報告書第40集
- 都城市教育委員会 1998 『鶴喰遺跡』 都城市文化財調査報告書第44集
- 宮崎県 1997 『宮崎県史 通史編 原始古代』
- 宮崎県 1998 『宮崎県史 通史編 中世』
- 都城市教育委員会 1999 『肱穴遺跡』 都城市文化財調査報告書第47集
- 末烟光博 2000 「中溝式系土器の検討－宮崎県における弥生時代中期後半から後期前半に
かけての土器編年にむけてー」
〔古文化談叢〕45
- 都城市教育委員会 2001 『横市地区遺跡群 馬渡遺跡（第2次） 坂元A遺跡』
都城市文化財調査報告書第55集
- 宮崎市教育委員会 2002 『宮崎小学校遺跡』 宮崎市文化財調査報告書第53集
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2002 『母智丘谷遺跡 畠田遺跡 嫁坂遺跡』
宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第63集

新名一仁 2003 「文安元年日向国南部国人一揆の意義－守護島津氏・庄内国人による

山東進出とその挫折－」(『都城地域史研究』9)

高田遺跡

水田番号	徑 (m)		面積 (m ²)
	N-S	E-W	
SW01	—	—	—
SW02	—	7	—
SW03	—	7	—
SW04	—	15	—
SW05	4.4	—	—
SW06	2.2	—	—
SW07	—	—	—
SW08	4.2	7.5	31.5
SW09	8.2	11.7	95.94
SW10	—	—	—
SW11	33.5	10.3	345.05
SW12	41.6	10	416
SW13	53.3	19	1,012.79
SW14	—	14.8	—
SW15	—	—	—
SW16	10	—	—
SW17	—	4.6	—
SW18	—	3.8	—
SW19	—	—	—
SW20	—	8.8	—
SW21	25.5	6.2	164.3
SW22	—	16	—
SW23	25.5	9.7	247.35
SW24	25.1	3.5	87.85
SW25	32.8	12.3	403.44
SW26	23.3	8.8	207.37
SW27	22	—	—
SW28	—	6.4	—
SW29	—	8.5	—
SW30	—	10.5	—
SW31	—	—	—
SW32	16.5	—	—
SW33	—	13.3	—
SW34	—	10.9	—
SW35	22	6.9	151.8
SW36	—	8.7	—

鶴尾遺跡

水田番号	徑 (m)		面積 (m ²)
	N-S	E-W	
SW01	—	—	110.32
SW02	—	—	256.14
SW03	—	—	57.32
SW04	—	—	58.47
SW05	—	—	73.64

畠田遺跡

水田番号	徑 (m)		面積 (m ²)
	長径	短径	
SW01	17.9	4.5	—
SW02	22.6	10.8	—
SW03	3.1	1	—
SW04	14.6	12.1	—
SW05	13.8	6.8	—
SW06	14.2	11.8	—
SW07	6.3	3.1	—
SW08	4.1	2	31.5
SW09	16	4.2	95.94
SW10	4.5	3.2	—
SW11	11.4	8.3	345.05
SW12	7.1	2.1	416
SW13	5.4	4.1	—

母智丘谷遺跡

水田番号	徑 (m)		面積 (m ²)
	長径	短径	
SW01	15.4	5.3	81.62
SW02	5.9	2.7	15.93
SW03	7.7	3.4	26.18
SW04	10.9	6.1	66.49
SW05	10.8	8.5	91.8
SW06	31.1	9.1	283.01
SW07	4.1	2.7	11.07
SW08	5	3.3	16.5

種堆遺跡

水田番号	徑 (m)		面積 (m ²)
	長径	短径	
SW01	22	11	242
SW02	10	10	100
SW03	14.2	7.5	106.5
SW04	—	—	—
SW05	11	10.7	117.7
SW06	19.6	13	254.8
SW07	12.2	10.1	123.22
SW08	15	13	195
SW09	—	—	—
SW10	15.4	15	231
SW11	21.4	8.4	179.76
SW12	—	—	—
SW13	—	—	—
SW14	—	15	225
SW15	—	15.9	262.81
SW16	21	2.5	52.5
SW17	24	3.3	79.2

第26表 中世水田跡（桜島軽石直下）一覧表

加 覧 淳 一

はじめに

高田遺跡からは弥生時代に該当する土器資料が多数検出されている。これらは当地域の編年体系を構築してゆく上での貴重な事例として認識することができる。また、土器以外にも石器、石製品、木製品も出土しており、特に木製品については南部九州全体においても出土事例が乏しいだけにその資料的有用性は注目されよう。

土器について見てみると、およその資料が中期に該当するものであるが、一部には前期に該当しうる資料も極少量であるが見られ、宮崎平野部と大隈半島地域、またえびの加久藤地域との結節地ともなっている都城盆地地域における弥生土器研究の基礎資料としても重要である。

本稿では本遺跡において相当量出土している中期土器群について考察し、編年の位置の検討を行なう。その上で、同時期の宮崎平野部の資料とも比較しながら土器相の特徴を抽出してみたい^(註1)。なお溝からは弥生時代後期から古墳時代該当の土器も検出されているが、ここでは検討しない。

検討

まず、土器群の時間的位置についてである。遺構内出土資料に限って見てみると、前期に該当しうる資料が極少量見られる。S C 5 7からは肩部に明瞭な段を形成した中型壺(421)が検出されている。口縁部など欠落している部分もあるが前期段階の資料とみてよさそうである。ただし、胴部片のみの出土であり、前期のどの段階に位置づけることができるかは不明である。SD 0 9からは前期壺と捉えうる資料(692)も検出されている。

次に本遺跡において最も出土量の多い中期土器群について検討してみたい。壺について見れば、中園編年の「入来Ⅱ式」～「山ノロⅠ式」に該当するものが最も多く、本遺跡出土資料の主体をなしている。これらはSA04、SA08、SA10などでまとまって出土している。

また、壺形土器(以下、壺)について見ても、入来式系と思われる下垂口縁や多条三角突帯をもつ壺が出土しており、壺との時間的齟齬は見当たらない。中園編年の入来Ⅱ式～山ノロⅠ式の良好なセットが保たれているといえる。

中期後半段階から登場てくる中溝式の甕(美畑2000a)やそれに併行するとされる中園編年の山ノロⅡ式と思われるような資料は本遺跡の住居・土坑内からは出土していない。

従って、本遺跡の中期土器群は、中園氏の入来Ⅱ～山ノロⅠ式主体、併存とみなすことができる。具体的な相対年代としては中期中葉の年代を与えておくことが現段階では無難であろう。

中期土器群の時間位置については上述のごとく捉えることができる。しかし全体の土器相を把握するにあたって注意しておかなければならぬのは下城式甕など、入来式系統以外の他系統が一定量見られる点である。遺構内の共伴資料を見てみても、中園編年で提示されたセット関係を維持しつつも、その中に他系統土器が少量ながらも普遍性をもって存在している様子が看取される。

具体的にはまず、SA 0 3の資料が挙げられる。SA 0 3では甕の中に下城式甕(16・17・21～24)が見られ、同遺構の甕組成の約3割を占めている。SA 0 3出土資料の内、確実に入来Ⅱ式と認められるものは(27)のみでかなり客体的なあり方でしかない。さらに注意すべきは入来式系統、下城式系統どちらにも属さないと見られる多くの字口縁の無文甕(34)も出土していることである。他にも口縁部を先細りにさせるもの(29・30)も見られ、バリエーションに富んでいる。

これらのうち下城式甕は他の遺構(SA04、SA12など)においても入来Ⅱ式甕と共伴しており、また胎土も在地系のものが多く、ある程度普遍性を持って使用されていたことは間違いないようである。

このような入来II式壺、下城式壺、くの字口縁無文壺の三者が共存している事例としては宮崎平野部の宮崎小学校遺跡（宇田川2002）、市位遺跡（東・久木田1998）などが挙げられ、これらの遺跡では確実に造構内共伴と認められるものは少ないものの、三者がそれぞれ同程度の割合で出土しており、本遺跡の資料と同時期と思われる⁽¹²⁾。SA03における壺の出土状況はこれら平野部の遺跡の組成と同様であることは注目すべきである。

宮崎小学校、市位の両遺跡においては、くの字口縁無文壺が相当量出土しており、主体的な使用があつたことは間違いないと思われる。ただし、本遺跡においては、SA03で検出された（34）以外くの字口縁無文壺と認めうる資料はなく、これは搬入された可能性もある。本遺跡においては入来II式壺、下城式壺の二者が主体的に用いられていたようである。

他に特徴的なものとして、大壺の口縁部下に刻目突帯を施すもの（61、376など）が出土している。このタイプのものは先の宮崎小学校遺跡、市位遺跡でも検出されている。鹿児島県地方における大壺には多条三角突帯やタガ状突帯が付されるものが多く、刻目を施すものは宮崎県地方にみられる特徴として理解できる。

壺の中にも頸部や胴部に刻目突帯を施すものが見られ（119、214、270、330など）、これもやはり宮崎小学校、市位で出土している。尚且つ、管見では鹿児島県地域での出土事例を知らない。これも宮崎県地方においてのみ見られる特徴として理解してよいと思われる。

宮崎平野部の資料と本遺跡においては下城式壺が一定量出土していることは先に述べた。中期前半段階の下城式壺に伴うとされる器種として重弧文壺が挙げられる（坪根・服部2004）が、このタイプは高田遺跡からは出土していない。宮崎小学校、市位など宮崎平野部では下垂口縁壺主体の中、破片ではあるが一定量出土が見られる⁽¹³⁾。

また重弧文壺同様、下城式系統と思われる鏽先口縁壺（坪根・服部 前掲）も本遺跡からは出土していない。このタイプも少数ではあるが宮崎小学校、市位の両遺跡で出土している。

高田遺跡から出土している壺は入来式系統の下垂口縁をもつ壺が主体を占め、圧倒的である。宮崎平野部における壺とは異なった組成を示しているといえる。本遺跡資料に後続すると思われる池ノ友遺跡（柴畑2000）、や向原第1遺跡（柴畑1990）の資料も山ノ口式系の壺が卓越しており（柴畑2000a）、都城盆地では中期に一貫して南部九州系の壺主体であったことも想定できる。

SC63からは頸部直下に刻目突帯を施す壺（430）が検出されている。一見すると中溝式壺（柴畑2000a）のように見ることもできるが、典型的な中溝式壺とは口縁部のつくりに違いが見られ、貼付口縁を施している。現在のところ、同じ都城盆地内の大浦遺跡（米澤1997）に類例がみられ、同遺跡からは山ノ口II式壺も出土している。柴畑光博氏はこの大浦遺跡資料を中溝式と山ノ口II式との折衷資料として捉えている（柴畑2000b）。SC63の資料も同じ脈絡で考えることもできるが、共伴している資料が他の造構で検出されているものと大差ないことを考慮すると、時期差はあまり想定できない。

なお、SC63からは口縁部直下に刻目突帯をめぐらす鉢（？）形土器も出土している。これについては管見で類例を知らず、位置付けが困難である。

また、SA05からは四線文壺（80）が検出されている。他の土器との共伴が乏しく確言はできないが、SA05が花弁状を呈する住居であることを考慮しておくと、これまで検討してきたものよりも時間的に後出するものと考えている。

柴畑氏の編年では、都城盆地における中溝式壺の成立は本池遺跡B区（重山・東1996）資料に求められるとしており、それに続くものとして池ノ友遺跡SA6、中大五郎第1遺跡（重山・東1996）SL1の資料を挙げている（柴畑2000a）。少なくとも、本遺跡出土資料は大半が中溝式壺出現以前のものであることは間違いないく、これまで不明であった該期の様相を補完するものである。そしてこれらは宮崎小学校、市位などの資料と時間的に併行している可能性が濃厚である。

また、中岡氏は編年の中で宮崎地方における入来式土器様式から中溝式土器様式への交代現象を指摘し

ており、中期後半段階には入来式様式窓は縮小するとしている（中園1997）。その背景には下城式土器群の動きを考慮しており、筆者も念頭に置いている。ただし、本県から出土する下城式は前期段階からも見られるものであり、中期段階においても一貫して見られる。これらは大分地方における実態との比較が必要なことなど課題も多い。

とにかく入来式に伴う下城式やその系統と思われる土器、またくの字口縁無文甕は宮崎県内において無視できない量が出土しており、中期前葉の様相が複数ではあるが中溝式窓出現前のある時期に複数系統の甕が共存していたことが想定できる。ただ、入来II式自体は宮崎平野部において前原北遺跡（北郷1988）などのように他系統土器を伴わず、単純出土している遺跡もある。他系統土器と供出する段階と時間的に分離できるかどうか、もしくは複数系統の入り具合に地域差があるのか、今後の検討課題といえる。

これまで検討してきたように、高田遺跡と宮崎平野部の資料との間には甕・壺の組成において若干違いもみられた。都城盆地における宮崎平野部と鹿児島県地方（大隅半島）との土器相を混交したような在り方は両地域のクロスデーターディングにも寄与するものと考えられ、今後とも注意しておくべきであろう。

注釈

1. 本稿では中園聰氏による南部九州地域の弥生土器編年（中園1997、本文中では「中園編年」とする）を基軸として論を進めており、氏の編年観に立脚した上で言及が多いことを予め断っておく。
2. 来畑光博氏は中溝式の整理・編年を行なう中で、中溝式以前の資料にも言及している。それによれば、堂地東遺跡（長津1985）SA2に先行するものとして塚原遺跡F地点（新名1997）や市位遺跡SA7の資料を挙げている（来畑2000a p.97）。
3. 完形に近い資料として宮崎市茶園遺跡採集例（石川1985）が知られている。

【引用・参考文献】

- 石川悦雄 1984 「宮崎平野における弥生土器編年試案－素描－(Mk.II)」『宮崎考古』9 宮崎考古学会
石川悦雄 1985 「日向考古資料Ⅰ」『宮崎県総合博物館研究紀要』10 宮崎県総合博物館
宇田川美和 2002 『宮崎小学校遺跡』宮崎市文化財調査報告書第53集 宮崎市教育委員会
来畑光博 2000a 「中溝式系土器の検討－宮崎県における弥生時代中期後半から
後期前半にかけての土器編年にむけて－」『古文化談叢』45 九州古文化研究会
来畑光博 2000b 「折衷土器二例」『大河』7 大河同人
重山郁子・東憲章 1996 『中大五郎第一遺跡』都城市文化財調査報告書第34集 都城市教育委員会
坪根伸也・服部真和 2004 「東南部九州の弥生中期中葉から後期前葉」『弥生中期土器の併行関係
第53回埋蔵文化財研究集会発表要旨集』 埋蔵文化財研究会
中園聰 1986 「弥生土器について」『鹿児島大学郡元団地遺跡(J・7地点)』
鹿児島大学理学部 鹿児島大学法文学部考古学研究室
中園聰 1996 「弥生時代中期土器様式の併行関係－須玖II式期の九州・瀬戸内－」
『史淵』133 九州大学文学部
中園聰 1997 「九州南部地域弥生土器編年」『人類史研究』9 人類史研究会
長津宗重 1985 「堂地東遺跡」宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書第2集 宮崎県教育委員会
新名祐史 1997 『塚原遺跡 東原B・F地点』国富町文化財資料第7集 宮崎県東諸県郡国富町教育委員会
東憲章・久木田浩子 1998 『市位遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第10集
宮崎県埋蔵文化財センター
北郷泰道 1988 『前原北遺跡』宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書第4集 宮崎県教育委員会
米澤英昭 1997 『大浦遺跡』都城市文化財調査報告書第37集 都城市教育委員会

図 版

図版1



遺 跡 遠 景 (南より)



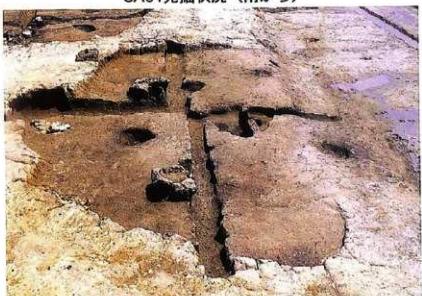
遺 跡 遠 景 (北西より)



SA01完掘状況（南から）



SA02完掘状況（南から）



SA03完掘状況（北から）



SA03遺物出土状況



SA03内出土遺物



SA03内出土遺物



SA04完掘状況（北から）



SA05完掘状況（北西から）

図版3



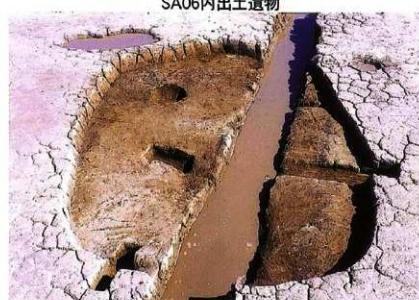
SA06遺物出土状況（北から）



SA06内出土遺物



SA07遺物出土状況（北から）



SA07完掘状況（北から）



SA07内出土遺物



SA08遺物出土状況（北東から）



SA08内出土状況



SA08内出土遺物



SA09完掘状況（北から）



SA10完掘状況（西から）



SA11遺物出土状況（南から）



SA11完掘状況（南から）



SA12完掘状況（北から）



SA12遺物出土状況



SA12内出土遺物



SA14完掘状況（西から）